

2023年度
2023年4月1日～2024年3月31日

ディスクロージャー誌



JA Echizentakefu Disclosure2023

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

越前たけふ農業協同組合は、SDGsの達成に貢献することを宣言します。



越前たけふ農業協同組合

ディスクロージャー誌とは、農業協同組合法第54条の3に規定する「業務及び財政の状況に関する説明書類」のことです。

はじめに

日頃、皆さまには格別のご愛顧をいただき厚く御礼申し上げます。

J A越前たけふは、情報開示を通じて経営の透明性を高めるとともに、当 J Aに対するご理解を一層深めていただくために、当 J Aの主な事業の内容や組織概要、経営の内容などについて、利用者のためにわかりやすくまとめた「ディスクロージャー誌」を作成いたしました。

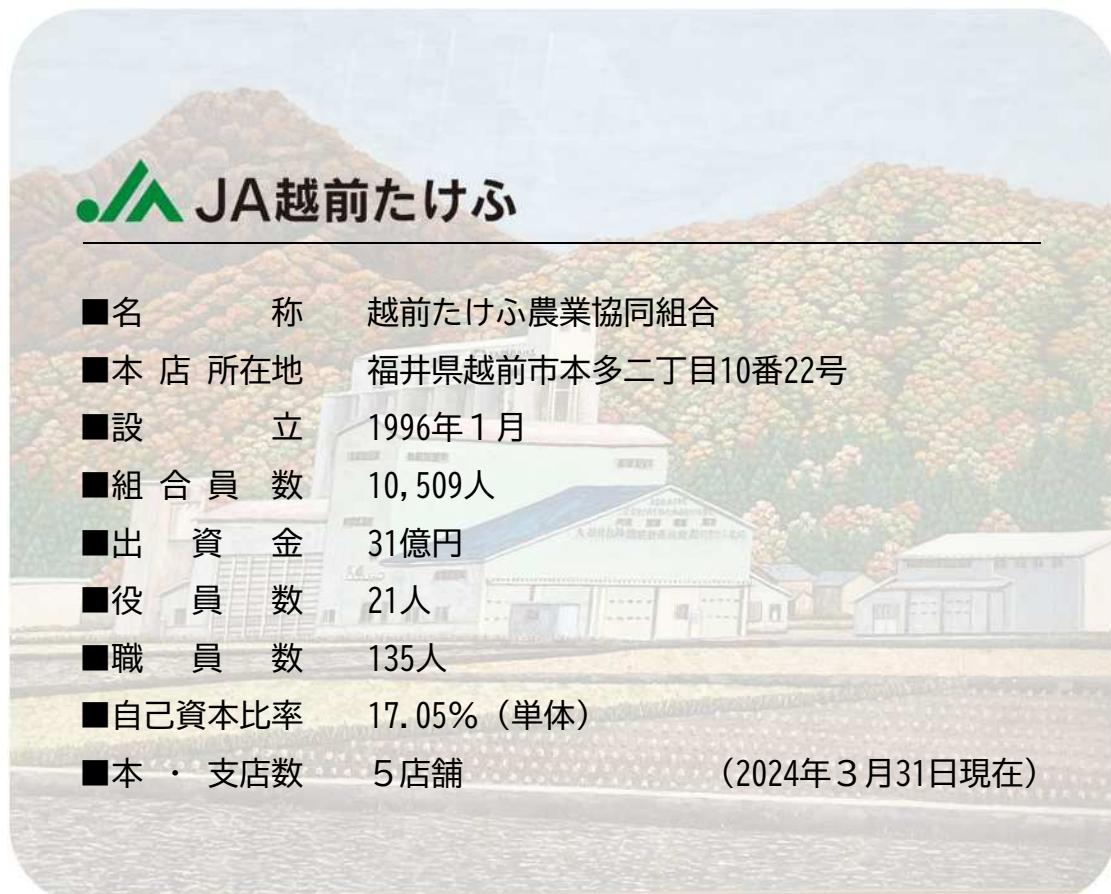
皆さまが当 J Aの事業をさらにご利用いただくための一助として、是非ご一読いただきますようお願い申し上げます。

今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2024年7月 越前たけふ農業協同組合

(注) 本冊子は、農業協同組合法第54条の3に基づいて作成したディスクロージャー誌です。

(注) 農協法第37条の2の規程に基づき、当 J Aの計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、剰余金処分案および注記表ならびにその附属明細書については、みのり監査法人の監査を受けております。



JA越前たけふ

■名 称	越前たけふ農業協同組合
■本店所在地	福井県越前市本多二丁目10番22号
■設立	1996年1月
■組合員数	10,509人
■出資金	31億円
■役員数	21人
■職員数	135人
■自己資本比率	17.05% (単体)
■本・支店数	5店舗 (2024年3月31日現在)

(注) この資料の記載金額は、表示単位(千円)未満の端数は切り捨てて表示しており、各表における合計額は必ずしも一致しない場合がありますので、ご了承下さい。

目次

- 1 ごあいさつ
- 1 経営理念
- 2 経営方針
- 2 経営管理体制
- 3 事業の概況（2023年度）
- 6 農業振興活動
- 8 社会貢献情報
- 12 リスク管理の状況
- 15 自己資本の状況
- 16 主な事業の内容

I

27 決算の状況

- 27 貸借対照表
- 29 損益計算書
- 31 注記表
- 42 剰余金処分計算書
- 43 部門別損益計算書

II

47 損益の状況

- 47 最近5事業年度の主要な経営指標
- 47 利益総括表
- 48 資金運用収支の内訳
- 48 受取・支払利息の増減額

III

49 事業の概況

- 49 信用事業
- 56 共済取扱実績
- 58 農業関連事業
- 58 生活その他事業取扱実績
- 59 指導事業

IV

60 経営諸指標

- 60 利益率
- 60 廉貸率・貯証率
- 60 職員1人当たり指標
- 60 1店舗当たり指標

V

61 自己資本の充実の状況

- 61 自己資本の構成に関する事項
- 63 自己資本の充実度に関する事項
- 65 信用リスクに関する事項
- 68 信用リスク削減手法に関する事項
- 69 派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項
- 69 証券化エクスポートジャーヤーに関する事項
- 69 出資その他これに類するエクスポートジャーヤーに関する事項
- 70 リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポートジャーヤーに関する事項
- 70 金利リスクに関する事項

VI

73 連結情報

- 73 グループの事業系統図
- 73 子会社等の状況
- 73 連結事業概況
- 78 最近5事業年度の連結ベースの主要な経営指標
- 79 連結貸借対照表
- 81 連結損益計算書
- 83 連結キャッシュ・フロー計算書
- 85 連結注記表
- 97 連結剰余金計算書
- 97 農協法に基づく開示債権の状況
- 98 連結ベースの事業別経常収益等
- 98 連結自己資本の充実の状況
- 99 連結自己資本の構成に関する事項
- 101 連結自己資本の充実度に関する事項
- 103 信用リスクに関する事項
- 106 信用リスク削減手法に関する事項
- 106 派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項
- 106 証券化エクスポートジャーヤーに関する事項
- 106 オペレーションナルリスクに関する事項
- 107 出資その他これに類するエクスポートジャーヤーに関する事項
- 107 リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポートジャーヤーに関する事項
- 108 金利リスクに関する事項
- 109 財務諸表の正確性等にかかる確認



110 役員の報酬体系

- 110 役員
- 110 職員等
- 110 その他

111 J Aの概要

- 111 機構図
- 112 役員構成（役員一覧）
- 112 会計監査人の名称
- 112 組合員数
- 113 組合員組織の状況
- 113 特定信用事業代理者・共済代理店の状況
- 113 地区一覧
- 114 沿革・あゆみ
- 115 店舗等のご案内

ごあいさつ

組合員の皆様には、日頃よりJA越前たけふ並びに株式会社コープ武生、株式会社越前たけふファームの事業・活動に格別のご指導とご支援を賜り衷心より感謝申し上げます。

農業・JAを取り巻く環境は、記録的猛暑による生産現場への打撃、円安により過去最高水準まで達する物価高騰、未曾有の大災害の発生や少子高齢化による後継者不足問題など、依然として見通しが立たない状況にあります。一方では5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことにより外食需要の回復や人の往来が活発化し、社会経済活動の正常化が進んだ年がありました。

このような情勢の中、当JAグループにおいては6月に「農・食・遊」JAふれあい祭りを約4年ぶりに開催し、組合員の皆様や地域の方々と直接ふれあうことができました。暖かい励ましや感謝の言葉をいただき、地域に根ざした農業協同組合としての喜びと責任を役職員一同が再認識する絶好の機会となりました。

農業関連では県の猛暑対策設備の支援事業にJAからも上乗せして支援を行い、農家負担の軽減を図りました。国のみどりの食料システム戦略においては環境負荷の低減、有機農業の拡大が求められる中、当JAグループ独自の支援策として有機成分由来のミネラルPKや発酵ケイフン等の低コスト資材の提供とインセンティブ買入制度の見直しを行いました。また、ミネラルPKと合わせて肥料高騰対策のコスト削減試験を行った窒素コートの試験結果が良好のため実用化し、2024年産米の予約注文より取扱いを開始しました。

株式会社コープ武生においては、11月に「食のワンストップショッピング」型店舗としたファーマーズマーケットみどり館をリニューアルオープンしました。地産地消を基本とし、安全で新鮮な地元野菜を中心に、直接お客様に提供する流通の拠点を目指します。

株式会社越前たけふファームにおいては、大規模乾燥貯蔵施設運営の効率化を図るため、今庄ライスセンターでの荷受けをサテライト方式に変更しました。また、各地域の農業振興や農地保全を目的とした地区担い手サポート協議会を2地区において開催しました。

私共JA越前たけふグループは、暮らしや農業を支える存在として変わらぬご支持を頂けるよう役職員が一体となり、組合員はもとより地域住民の皆様に寄り添いながら、不断の自己改革と経営基盤の強化に取組んでまいりますので、なお一層のご理解とご協力をお願い申し上げご挨拶いたします。

1. 経営理念

1. 農業を守り、地域経済の発展に貢献します。

JAの基盤である農業を守り発展させることを使命と考え、

地域経済の発展に貢献します。

1. 人と人とのふれあいを大切に、地域とともに歩みます。

組合員はもとより、地域のみなさまの目線にたって、気持のかよう事業を通じ、

親しみのある地域に根ざしたJAをめざします。

1. 自主・自立と民主的運営により、健全経営を行います。

激変する経済社会に力強く対応し、地域に貢献するために、法令遵守態勢の確立、

内部統制の充実を図り、揺るぎない経営基盤の確立をめざします。



代表理事組合長 土本俊三

2. 経営方針

「農業者の所得向上」と「農業生産の拡大」

当JAでは、農家所得の向上を基本に市場ニーズに応じた米づくりのためのインセンティブ買入制度を策定しております。ブランド米「越前しきぶ姫」は食味値等の表記を行い、他産地との差別化を図り販売しており、今後も販売先に求められる米の作付けを推進します。また、米価下落対策として飼料用米等も活用し、農家の所得向上を目指します。

将来を見据えた先進的な経営戦略と持続可能な経営基盤の確立

先が見えない困難な時代に対応するために、健全な経営管理と内部統制の有効性を確保し、自己改革実践を支える持続可能な経営基盤の確立・強化に取組みます。組合員（正・准）はもとより、地域住民の皆様の生活を支える拠点として必要とされるJAとして、株式会社コープ武生・株式会社越前たけふファームとともにグループ一丸となって総合的な価値あるサービスの提供・発信を実践します。

「地域の活性化」への貢献

株式会社コープ武生・株式会社越前たけふファームと連携し、総合事業（営農、生活、信用、共済、経済等）を通じて、組合員と地域住民の生活インフラの一翼として役割を発揮します。また、JAの役割として「環境・文化・福祉への貢献活動」を各事業の中で積極的に取り入れ、組合員をはじめ地域住民の方が日々の生活を健康で安心して暮らせるよう行政とタイアップしたサポート活動に取組みます。組合員・地域のみなさまに地域交流の拠点として、より身近に感じてご活用いただくために「基幹支店」の機能を充実させ、地域密着型の事業展開の最前線基地として位置づけ、地域の活性化のため地域貢献活動に取組むとともに、「コンサルティングセンター」での総合的な暮らしの相談を通じて、地域に根ざしたJAとして存在意義を発揮します。

健全経営のための取組み

「健全な経営体質」と「透明感のある組織運営」を構築するため、財務体質の健全性向上に努め、リスク管理態勢の確立と役職員のコンプライアンス意識の向上に取組み、積極的な各種教育研修の参加と資格取得の促進による資質向上を図ります。

3. 経営管理体制

当JAは農業者により組織された協同組合であり、正組合員の代表者で構成される「総代会」の決定事項を踏まえ、総代会において選出された理事により構成される「理事会」が業務執行を行っています。また、総代会で選任された監事が理事会の決定や理事の業務執行全般の監査を行っています。現在、理事会の下で、理事は組合の業務執行にかかる基本的事項や重要事項を定めています。

また、信用事業について常勤理事の中で専任担当を置くとともに、農業協同組合法第30条に規定する常勤監事及び員外監事を設置し、ガバナンスの強化を図っています。

4. 事業の概況（2023年度）

当JAを取り巻く環境は、肥料・飼料・燃料といった農業生産資材が過去最高水準にまで高騰しており、依然として厳しい状況が続いています。今夏は雨量も少なく、観測史上において平均気温が最も高い記録的な猛暑となり、コシヒカリを中心として乳白米による等級低下など管内農業への影響が顕著となりました。また、未曾有の災害となつた能登半島地震の発生を受け、JAバンク業務継続（BCP対応）による全国相互連携が発令され、被災された皆様に対してJAご利用案内の発信を行いました。一方、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことにより、ようやく経済・社会活動が活発になりました。

このような中、当JAにおいては約4年ぶりに「農・食・遊」JAふれあい祭を6月に開催しました。多数の組合員・地域住民の皆様が来場され、直接ふれあう機会を得ることが出来ました。また、昨年度までは開催を見送っていた各行事なども再開し、コロナ禍前に戻りつつあります。

コンサルティングセンターにおいては、当JAの特色ある取組として開所4年目を迎えました。「資産形成・運用マネーセミナー」、「子育て相談所」、「介護保険講座」など、昨今関心が高まっている題材を取上げ、暮らしの相談機能の充実を図りました。

農業を取り巻く情勢は、昨今の世界的な食糧情勢の変化に伴う食糧安全保障上のリスクの高まりや地球環境問題への対応、異常気象による生産の不安定化、海外市場の拡大など大きく変化しています。また、制定から四半世紀を経過した「食料・農業・農村基本法」の見直しが議論されており、生産力向上と持続可能な農業の両立が求められています。

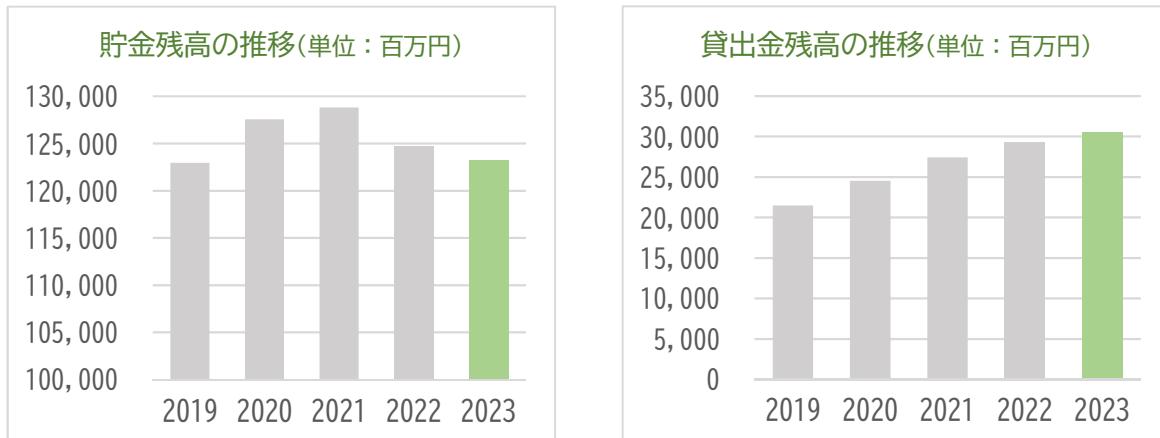
当JAでは、衛星画像と人工知能を活用した営農支援システム「ザルビオ」による生育診断について生産者に向けて紹介しました。次年度より営農指導のDX化を図ります。関連してアイガモロボを管内2か所で試験稼働し、水田除草機を9経営体に貸出しました。特別栽培米については、温室効果ガス削減「見える化ラベル」実証事業やJ-クレジット制度の勉強会を開催し、特別栽培米の紙袋に貼付し出荷しました。12月には米づくり研修会を開催し、生産方針と県の猛暑対策事業について説明しました。また、1月にTACによる担い手の作付計画、猛暑対策事業の相談会や申請受付を行い、不採択となった方に対しては水位センサーの導入希望者を募って購入費用の一部助成と使用方法の講習会を開催しました。

米の販売においては、外食・中食産業が活性化し、消費が拡大してきたことにより大きく増加しました。3月末の主食用米の出庫総数は前年に比べ20,749俵増加し、147,984俵となりました。また、販売高は1,939,978千円（前年対比125.5%）となりました。

信用事業

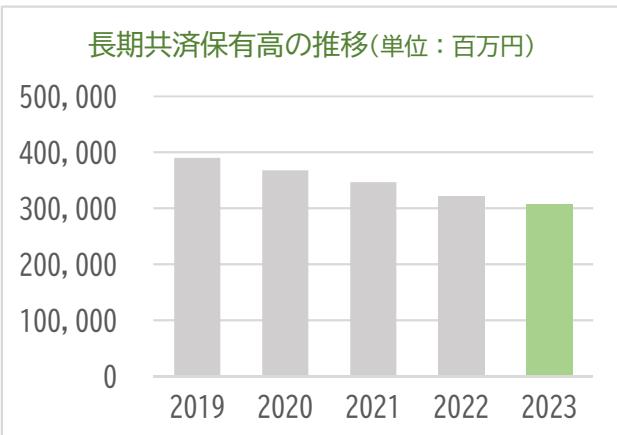
組合員・利用者の方々に対し「投資信託・マネーセミナー」や「JAスマート教室」、ファーマーズマーケットみどり館にて「JAカードキャンペーン」を行いました。また、「年金受給者感謝大会」および3年ぶりとなる「年金日帰り旅行」を行い、参加者の方に好評をいただきました。

組合員・地域の皆様からお預かりした貯金残高は、1,232億72百万円、貸出金残高は305億55百万円となっております。



共済事業

本年度は4年ぶりに各種イベントを開催し、アンパンマン交通キャラバン、ふれあい健康教室、子育て相談会、認知症セミナー、介護セミナーと一年を通じて様々な世代のお客様に当JA共済事業の取組をアピールすることが出来ました。今後も各種イベントの開催を継続して行い、組合員・利用者との繋がり強化を図っていきます。また、年2回のお見積りキャンペーンを実施し、新規顧客の獲得にも努めました。



営農指導事業

世界的な食料情勢の変化に伴う食料安全保障上のリスクの高まりや気象変動による生産の不安定化、地球環境問題への対応、海外市場の拡大など大きく変化している中、このような情勢の変化に対応した見直しが議論されており、国のみどりの食料システム戦略では、生産力向上と有機肥料の活用によるコスト削減や環境負荷低減を目指した持続可能な農業の両立が求められています。そのような中、当JAではインセンティブ買入制度を見直し、新たに有機栽培コシヒカリを加え作付を推進するとともに、平坦地の高温障害対策として、慣行コシヒカリから慣行あきさかりへの作付転換を推進しました。

また、衛星画像と人工知能を活用した営農支援システム「ザルビオ」による生育診断について生産者に向けて紹介し、次年度より営農指導のDX化を図ります。関連してアイガモロボを管内2か所で試験稼働し、水田除草機を9経営体に貸出しました。特別栽培米については、温室効果ガス削減「見える化ラベル」実証事業やJ-クレジット制度の勉強会を開催し、特別栽培米の紙袋に貼付し出荷しました。

販売・保管事業

米の販売においては、外食・中食産業が活性化し、消費が拡大してきたことにより大きく増加しました。保管事業については、今年度当初より順調な出庫状況だったため例年に比べ保管数量は少なくなっていますが、常温倉庫の在庫を低温倉庫及び良質米出荷施設への集約保管を行い品質管理に努めました。

生活指導事業

食や農へ関心を深めてもらうため、野菜のプランター栽培や料理教室、カンタケの菌床栽培などの親子食農体験を開催しました。各支部においては、営農講座・料理教室・研修旅行・支部まつりを開催し、仲間同士の親睦を深め組織力強化に努めました。健康管理事業ではウォーキング大会を開催し、味真野地区周辺約5キロを散策しました。また、県下JAで取り組んでいるふくい朝ごはんキャンペーンの一環として、コープ平出店では新米いちはまれを使ったおにぎりを配布し、北陸新幹線の越前たけふ駅開業イベントにおいては、コウノトリ呼び戻す農法米を配布するなど、米消費拡大と管内農産物のPRを行いました。



教育情報事業

組合員の皆様に毎月お届けしている「かがやき」にて、適期田植えや肥料高騰対策等の営農関連情報、地区別説明会や総代会の開催案内、「しきぶちゃんと学ぼうSDGs」の連載など当JAグループの情報を提供しました。また、SNS「インスタグラム」のアカウントを開設し、営農関係やイベント等の情報発信を行いました。

対処すべき重要な課題

当JAでは、自己改革に関する基本目標として、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を掲げています。

農業者の世代交代による担い手不足、農作物の消費・流通構造の急激な変化、高齢化・人口減少による地域社会の疲弊等の厳しい環境変化のなか、基本目標を達成するため、今まで以上の創意工夫を積み重ねて、地域の農業・暮らしを支える事業運営に取組みます。

また、不祥事未然防止のため「内部統制確立に向けた重点化対策」の徹底、様々なリスクに対し適切にリスク管理を行い、健全性・信頼性の確保に取組みます。

マネー・ローンダリングおよびテロ資金供与対策について、当JAにおいても重要な経営課題と位置づけ、リスク管理対応力強化のため、内部管理態勢の整備・強化を図ります。

5. 農業振興活動

農業関係の持続的な取組み、安全・安心な農産物づくりへの取組み、担い手農家等への支援

当JAでは消費者に安全で安心できる農産物を提供するために、生産履歴（栽培日誌）記帳の徹底指導、安全・安心の確認として品目別に残留農薬の分析を行い、食味・土壌分析なども併せて実施しています。また、国の「みどりの食糧システム戦略」に則り、生産力向上と環境負荷低減を目指した持続可能な農業の両立を実現させるため、有機特別栽培コシヒカリ・省農薬あきさかりの増産と合わせ、環境保全型農業直接支払制度に基づいた取組みを推進しています。

当JAのブランド米「越前しきぶ姫」のブランド力を高めていくため、全農家のエコファーマー化、特別栽培米の認証と整粒歩合、食味指数によるインセンティブ買入制度を併行し、肥料メーカーと業務提携したPB（プライベートブランド）肥料を開発し、「消費者の皆様から信頼され選んでいただける米づくり」に継続的に取組んでいます。市場動向を見据え農家の所得向上につながる営農指導を展開し、出向く営農指導体制（TAC）を徹底するため、営農指導員のスキルアップに努め、生産農家や集落営農組織・担い手農家の育成・指導を行い、併せて情報発信の充実にも努めています。

地域密着型金融への取組み（中小企業等の経営の改善及び地域の活性化のための取組みの状況を含む）

当JAは、農業と地域社会に貢献するため、地域密着型金融の推進に努めています。

（1）農業者等の経営支援に関する取組み方針

当JAは、農業者を基盤とする協同組織金融機関として、「健全な事業を営む農業者をはじめとする地域のお客様に対して必要な資金を円滑に供給していくこと」を、最も重要な役割の一つとして捉え、その公共性と社会的責任を認識し、適切な業務の遂行に取組んでいます。

（2）農業者等の経営支援に関する態勢整備

○担い手のニーズに応えるための態勢整備

地域の農業者との関係を強化・振興するための態勢整備に取組んでいます。

当JAでは、本支店の農業融資担当者が、営農担当者からの情報も含めて把握して農業融資に関する訪問・資金提案活動を実施しています。また、「担い手リーダー」を本店に設置し、農業融資担当者の活動のサポートをしています。

また、農業経営者の支援を目的に、日本政策金融公庫主催の「農業経営アドバイザー」の資格の取得に努め、農業経営発展のアドバイスに必要な税務・労務・マーケティングの知識やノウハウの習得に取組みました。

（3）農山漁村等地域の活性化のための融資をはじめとする支援

（福井県JAバンクの農業メインバンク機能強化への取組み）

当JAは地域における農業者との結びつきを強化し、地域を活性化するため、次の取組みを行っています。

○農業融資商品の適切な提供・開発

各種農業資金を提供するとともに、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金の取り扱いを通じて、農業者の農業経営と生活をサポートしています。

2024年3月末時点で、農業関係資金残高(注)697,998千円を取り扱っています。

(注)農業関係の貸出金とは、農業者及び農業関連団体等に対する貸出金であり、農業生産・農業経営に必要な資金や、農産物の生産・加工・流通に関する事業に必要な資金等が該当します。

(4) 担い手の経営のライフステージに応じた支援

当JAは担い手をサポートするため、ライフステージに応じた支援に取組んでいます。

(5) 農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域への貢献

当JAでは、地域社会へ貢献するため、次の取組みを行っています。

○JAバンク食農教育応援事業の展開

地域の小学生の農業に対する理解を促進するため、JAバンク食農教育応援事業を展開し、農業に関する教材「農業とわたしたちのくらし」の配布や農業体験学習の受入れ等に取組んでいます。

教材「農業とわたしたちのくらし」は、管内の小学校17校へ720セット配布され、学校の授業等において活用されています。

また、当JAでは下記のような食農教育などの実践活動に取組んでいます。

【JAバンク食農教育応援事業の展開】



親子食農体験

食と農への関心を深め、食の大切さを伝えることを目的に、花の寄せ植え教室やとれたて野菜の料理教室を開催



食の寺子屋

豊かな食文化の伝承と地産地消の促進を目的に、地場野菜を活用した料理講習会を開催

農業関連融資の状況

農業関連融資としては、従来より農業者（認定農業者・集落営農組織等を問わず）を対象とした『地域農業応援資金』があります。制度資金と比べ手続きが簡略化され、資金化も早いこと、更にはJAからの利子補給金もあります。農業者を支援する立場から使いやすく農業に関する資金については運転資金も含め対応可能となっています。

「農・食・遊」ふれあい祭の開催

地域に根ざしたJAとして、組合員はもとより地域住民に対しても広く門戸を開き、協同の輪の中で営農、生活、文化活動の一層の向上を目指し、食の安全・安心をアピールするために例年、『「農・食・遊」ふれあい祭』を開催しています。



地産地消・食育の取組み

当JAでは、組合員・地域の皆様がより豊かな生活を送ることができるよう、明るい地域社会づくりを目指し、「食」「農」「健康」を基本とした地産地消・食育活動を行っています。

例年、季節の地野菜を使用した伝承料理教室「食の寺子屋」、「野菜バスケットコンクール」や「親子食農体験」を行っております。

また、(株)コーパたけふにおいてはみどり館を「食のワンストップショッピング」型店舗としたファーマーズマーケットとしてリニューアルオープンしました。

6. 社会貢献情報

社会貢献活動（社会的責任）

当JAは、環境調和型農業へ取組み、ポジティブリスト制度を遵守し、安全・安心な農作物の供給を展開しています。また、共同募金や地震・台風等の自然災害からの復旧支援募金等への協力、献血運動にも参加しています。

地域貢献情報

・地域の活性化に関する取組み状況

（1）地域貢献の全般に関する事項

当JAは、越前市及び南越前町を事業区域として、農業者を中心とした地域住民の方々が組合員となって、相互扶助（お互いに助け合い、お互いに発展していくこと）を共通の理念として運営される協同組織であり、地域農業の活性化に資する地域金融機関です。

当JAの資金は、その大半が組合員の皆様などからお預りした、大切な財産である「貯金」を源泉としています。当JAでは資金を必要とする組合員の皆様方や、地方公共団体などにもご利用いただいているいます。

当JAは、地域の一員として、農業の発展と健康で豊かな地域社会の実現に向けて、事業活動を開いています。また、JAの総合事業を通じて各種金融機能・サービス等を提供するだけでなく、地域の協同組合として、農業や助け合いを通じた社会貢献に努めています。

(2) 地域からの資金調達の状況

①貯金・定期積金残高

組合員をはじめ地域の皆様からお預りした貯金の残高は、1,232億72,172千円（うち定期積金の残高は11億11,530千円）となっています。

資格別貯金残高の内訳は右の表のとおりです。

②貯金商品

目的・期間・金額にあわせてご利用いただける各種貯金を取り扱っています。詳しい貯金商品については、本誌のP.16をご覧ください。

(単位：千円)	
組合員等	101,864,242
その他	21,407,930
(うち地方公共団体等)	(2,078,811)
合計	123,272,172

(3) 地域への資金供給の状況

①貸出金残高

組合員をはじめ地域の皆様への貸出金の残高は、305億55,710千円となっています。JAは地域金融機関として、地域社会の発展と豊かな暮らしの実現に貢献することを使命と考え、事業資金や個人向けのご融資に積極的に対応してまいりました。

資格別貸出金残高の内訳は右の表のとおりです。

②制度融資取扱い状況

農業制度資金とは、農業の担い手や集落営農組織が規模拡大や経営改善を図ろうとする場合や、新しい分野への投資を図る場合などに、必要な資金を低利で利用できる融資制度です。

農業制度資金には大きく分けて、国や地方公共団体が、①JA等民間金融機関の資金を原資とする貸し付けに利子補給などを行うもの、②財政資金を直接貸し付けるもの、③財政融資資金などを原資とするものの3タイプがあります。

③融資商品

組合員をはじめ地域の皆様の暮らしに役立つ資金や事業に必要な資金をご融資しています。詳しい融資商品については、本誌のP.17をご覧ください。

(単位：千円)	
組合員等	9,739,899
その他	20,815,810
(うち地方公共団体等)	(15,957,377)
合計	30,555,710

(4) 事業継続計画（BCP）への取組み

当JA及び子会社である株式会社武生及び株式会社越前たけふファームでは、自然災害、大火災などの緊急事態に遭遇した場合に事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、事業継続計画（Business Continuity Plan : BCP）を策定し、平常時に用うべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段などをあらかじめ取り決めています。

■事業継続における基本方針

- ① 人命保護を最優先し、被害を最小化するよう努めます。
- ② 備蓄の確保や訓練を徹底し、事前の備えに努めます。
- ③ 重要な業務を継続し、社会的責任を果たすよう努めます。

(5) 文化的・社会的貢献に関する事項（地域との繋がり）

①文化的・社会的貢献に関する事項

■「家族を描こう」コンクールへの参加

家族のふれあいや笑顔を描いた子供たちの生き生きとした絵を通して、地域の方々の明るい家庭づくりをお手伝いすることを目的としています。

■地域の清掃活動

地域の環境・景観保全のため、本支店周辺や日野川河川敷等の清掃活動を行っています。また、組合員・地域住民との連携を深め、共に暮らしやすい地域づくりを目的に、「クリーンアップキャンペーン」を行っています。

■通学路交通安全活動

通学路の交通誘導と挨拶・声掛けを通じて、子供達への見守り活動と交通安全啓発を行っています。

■各種相談会

年金の手続きや年金制度について、社会保険労務士がお客様からのご相談をお受けする年金相談会を支店を中心開催しています。

2020年にはコンサルティングセンターを開業し、専門の相談員を配置して、法律・契約・登記・税務・年金・融資・資産形成・共済（保険）などの問題に対応しています。組合員のみならず地域の方々に幅広くご利用いただくことにより、地域の活性化に取り組んでいます。

■SDGsの達成への貢献

「JA越前たけふSDGs取組方針」を策定し、「食と農を基軸に地域に根差した協同組合組織」である当JAの特性を活かし、以下の重点分野への取り組みを通じて持続可能な食と農と地域づくりを目指します。

■その他の活動

- ・例年、「農・食・遊」ふれあい祭を開催し、地域との交流に努めています。
- ・越前市、市社協等と連携し、「越前市わかちあいプロジェクト」として、生活困窮者へ支援する余剰米の寄付を募りました。



②利用者ネットワーク化への取組み

■年金受給者感謝大会の開催

■年金友の会（年金旅行・グラウンドゴルフ大会等の開催）

■年金受給予定者セミナー・年金相談会の開催

■窓口感謝デーの開催

■助け合い組織「JAやまびこ会」の運営

③情報提供活動

■広報誌の発行

広報誌「かがやき」を毎月発行し、営農情報を中心に信用・共済等の情報や、地域に密着した話題を提供しています。

■「得々情報」の発行

旬なお得情報を掲載した「得々情報」チラシを毎月新聞折り込みにて発行しています。

■ホームページや外務活動を通じた、組合員等利用者の皆様への情報提供

■「営農情報メール」にて営農情報や台風などの緊急情報を配信

■「LINE」にて、「LINEスタンプ」を販売

当JAイメージキャラクター「越前しきぶ姫」のスタンプを販売しています。

■「Instagram」にて、当JAおよび子会社の情報を投稿

裏表紙のQRコードからアクセスしてください。



④店舗体制

本店 1店舗、支店 4店舗

・当JAの「経営者保証に関するガイドライン」にかかる取組み方針

①経営者保証に依存しない融資の一層の促進について

法人個人の一体性の解消等が図られている、あるいは、解消等を図ろうとしている農業者等から資金調達の要請を受けた場合には、当該法人の経営状況、資金使途、回収可能性等を分析し総合的に判断する中で、経営者保証を求めない可能性、代替的な融資手法を活用する可能性について、取引先の意向も踏まえた上で、検討します。

②経営者保証の契約時の対応について

- 農業者等との間で保証契約を締結する場合には、主たる債務者と保証人に対し、保証契約の必要性等に関する丁寧かつ具体的な説明を行います。
- 保証金額の設定については、農業法人等の各ライフステージにおける取組意欲を阻害しないよう、形式的に保証金額を融資額と同額とはせず、保証人の資産及び収入の状況、融資額、主たる債務者の信用状況、物的担保等の設定状況、主たる債務者及び保証人の適時適切な情報開示姿勢等を総合的に勘案して設定します。

③既存の保証契約の適切な見直しについて

- 農業者等から既存の保証契約の解除等または変更等の申し入れを受けた場合には、改めて経営者保証の必要性等の検討を行うとともに、その検討結果について主たる債務者および保証人に対し、丁寧かつ具体的な説明を行います。
- 事業承継が行われた時、前経営者が負担する保証債務について、後継者に当然に引き継がせるのではなく、保証契約の必要性について改めて検討するとともに、その結果について主たる債務者及び後継者に対して丁寧かつ具体的に説明を行う。

また、前経営者から保証契約の解除を求められた場合には、保証契約の解除について適切に判断します。

④経営者保証を履行する時の対応について

経営者保証における保証債務を履行する場合には、保証人の手元に残すことのできる残存資産の範囲について、必要に応じ支援専門家とも連携しつつ、保証人の保証履行能力、経営者たる保証人の経営責任、破産手続における自由財産の考え方や標準的な世帯の必要生計費の考え方との整合性等を総合的に勘案して決定します。

7. リスク管理の状況

リスク管理体制

〔リスク管理基本方針等〕

組合員・利用者の皆様に安心してJAをご利用いただくためには、より健全性の高い経営を確保し、信頼性を高めていくことが重要です。

このため、有効な内部管理態勢を構築し、直面する様々なリスクに適切に対応すべく「リスク管理基本方針」を策定し、認識すべきリスクの種類や管理体制と仕組みなど、リスク管理の基本的な体系を整備しています。また、この基本方針に基づき、収益とリスクの適切な管理、適切な資産自己査定の実施などを通じてリスク管理体制の充実・強化に努めています。

また、昨今の国際情勢をふまえ、マネー・ローンダーリングおよびテロ資金供与等の金融サービスの濫用防止対策（マネロン等対策）の重要性はこれまでになく高まっています。当JAではマネロン等対策を重要課題の1つとして位置付け、リスクに応じた対策を適切に講じています。

①信用リスク管理

信用リスクとは、信用供与先の財務状況の悪化等により、資産（オフ・バランスを含む。）の価値が減少ないし消失し、金融機関が損失を被るリスクのことです。当JAは、個別の重要案件又は大口案件については理事会において対応方針を決定しています。また、通常の貸出取引については、本店に審査部を設置し各支店と連携を図りながら、与信審査を行っています。審査にあたっては、取引先のキャッシュ・フローなどにより償還能力の評価を行うとともに、担保評価基準など厳格な審査基準を設けて、与信判定を行っています。貸出取引において資産の健全性の維持・向上を図るため、資産の自己査定を厳正に行っています。不良債権について管理・回収方針を作成・実践し、資産の健全化に取組んでいます。また、資産自己査定の結果、貸倒引当金については「資産の償却・引当規程」に基づき必要額を計上し、資産及び財務の健全化に努めています。

②市場リスク管理

市場リスクとは、金利、為替、株式等の様々な市場のリスク・ファクターの変動により、資産・負債（オフ・バランスを含む。）の価値が変動し、損失を被るリスク、資産・負債から生み出される収益が変動し損失を被るリスクのことです。主に金利リスク、価格変動リスクなどをいいます。金利リスクとは、金利変動に伴い損失を被るリスクで、資産と負債の金利又は期間のミスマッチが存在している中で金利が変動することにより、利益が低下ないし損失を被るリスクをいいます。また、価格変動リスクとは、有価証券等の価格の変動に伴って資産価格が減少するリスクのことです。

当JAでは、金利リスク、価格変動リスクなどの市場リスクを的確にコントロールすることにより、収益力強化及び財務の安定化を図っています。このため、財務の健全性維持と収益力強化とのバランスを重視したALMを基本に、資産・負債の金利感応度分析などを実施し、金融情勢の変化に機敏に対応できる柔軟な財務構造の構築に努めています。とりわけ、有価証券運用については、市場動向や経済見通しなどの投資環境分析及び当JAの保有有価証券ポートフォリオの状況やALMなどを考慮し、理事会において運用方針を定めるとともに、経営層で構成するALM委員会を定期的に開催して、日常的な情報交換及び意思決定を行っています。運用部門は、理事会で決定した運用方針及びALM委員会で決定された方針などに基づき、有価証券の売買やリスクヘッジを行っています。運用部門が行った取引についてはリスク管理部門が適切な執行を行っているかどうかチェックし定期的にリスク量の測定を行い経営層に報告しています。

③流動性リスク管理

流動性リスクとは、運用と調達のミスマッチや予期せぬ資金の流出により、必要な資金確保が困難になる、又は通常よりも著しく高い金利での資金調達を余儀なくされることにより損失を被るリスク（資金繰りリスク）及び市場の混乱等により市場において取引ができないため、通常よりも著しく不利な価格での取引を余儀なくされることにより損失を被るリスク（市場流動性リスク）のことです。

当JAでは、資金繰りリスクについては、運用・調達について資金計画を作成し、安定的な流動性の確保に努めています。また、市場流動性リスクについては、投資判断を行う上で重要な要素と位置づけ、商品ごとに異なる流動性（換金性）を把握したうえで、運用方針などの策定の際に検討を行っています。

④オペレーション・リスク管理

オペレーション・リスクとは、業務の過程、役職員の活動もしくは、システムが不適切であること又は外生的な事象による損失を被るリスクのことです。当JAでは、収益発生を意図し能動的な要因により発生する信用リスクや市場リスク及び流動性リスク以外のリスクで、受動的に発生する事務、システム、法務などについて事務処理や業務運営の過程において、損失を被るリスクと定義しています。事務リスク、システムリスクなどについて、事務手続にかかる各種規程を理事会で定め、その有効性について内部監査や監事監査の対象とするとともに、事故・事務ミスが発生した場合は速やかに状況を把握して理事会に報告する体制を整備して、リスク発生後の対応及び改善が迅速・正確に反映できるよう努めています。

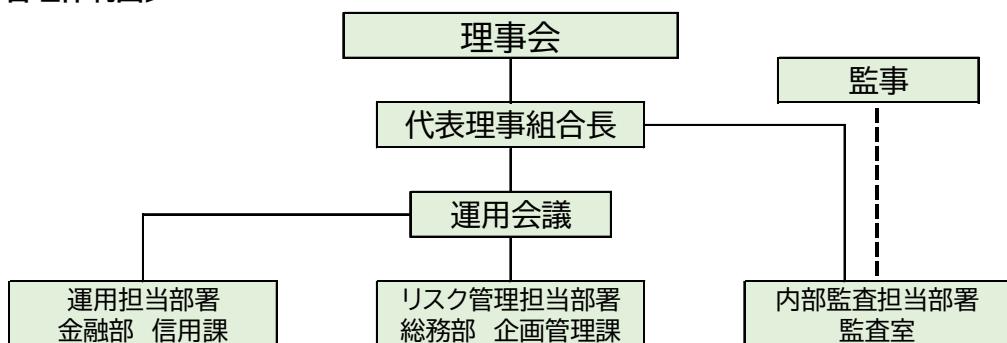
⑤事務リスク管理

事務リスクとは、役職員が正確な事務を怠る、あるいは事故・不正等を起こすことにより金融機関が損失を被るリスクのことです。当JAでは、業務の多様化や事務量の増加に対応して、正確な事務処理を行うため事務マニュアルを整備するとともに、自主検査・自店検査を実施し事務リスクの削減に努めています。また、事故・事務ミスが発生した場合には、発生状況を把握し改善を図るとともに、内部監査により重点的なチェックを行い、再発防止策を実施しています。

⑥システムリスク管理

システムリスクとは、コンピュータシステムのダウン又は誤作動等、システムの不備に伴い金融機関が損失を被るリスク、さらにコンピューターが不正に使用されることにより金融機関が損失を被るリスクのことです。当JAでは、コンピュータシステムの安定稼働のため、安全かつ円滑な運用に努めるとともに、システムの万一の災害・障害等に備え、「不測事態対応計画」を策定しています。

〔リスク管理体制図〕



法令遵守体制

〔コンプライアンス基本方針〕

利用者保護への社会的要請が高まっており、また最近の企業不祥事に対する社会の厳しい批判を鑑みれば、組合員・利用者からの信頼を得るために、法令等を遵守し、透明性の高い経営を行うことがますます重要になっています。

このため、コンプライアンス（法令等遵守）を経営の重要課題のひとつとして位置づけ、この徹底こそが不祥事を未然に防止し、ひいては組織の信頼性向上に繋がるとの観点にたち、コンプライアンスを重視した経営に取組みます。

〔コンプライアンス運営態勢〕

コンプライアンス態勢全般にかかる検討・審議を行うため、専務理事を委員長とするコンプライアンス委員会を設置するとともに、コンプライアンスの推進を行うため、本店各部門・各支店にコンプライアンス推進担当者を設置しています。

基本姿勢及び遵守すべき事項を記載した手引書「コンプライアンス・マニュアル」を策定し、研修会を行い全役職員に徹底しています。

毎年度、コンプライアンス・プログラムを策定し、実効ある推進に努めるとともに、統括部署を設置し、その進捗管理を行っています。

また、組合員・利用者の皆様の声を真摯に捉え、前向きに事業に反映するため、苦情・相談等の窓口を設置しています。

金融ADR制度への対応

①苦情処理措置の内容

当JAでは、苦情処理措置として、業務運営体制・内部規則等を整備のうえ、その内容をホームページ・チラシ等で公表するとともに、JAバンク相談所やJA共済連とも連携し、迅速かつ適切な対応に努め、苦情等の解決を図ります。

当JAの苦情等受付窓口（電話：0778-21-2604（月～金9時～17時））

②紛争解決措置の内容

当JAでは、紛争解決措置として、次の外部機関を利用しています。

・信用事業

京都弁護士会（電話：075-231-2378）

愛知県弁護士会（電話：052-203-1777）

福井弁護士会（電話：0776-23-5255）

①の窓口または一般社団法人JAバンク相談所（電話：03-6837-1359）にお申し出ください。

なお、愛知県弁護士会、京都弁護士会、福井弁護士会については、各弁護士会に直接紛争解決をお申し立ていただくことも可能です。

・共済事業

(一社) 日本共済協会 共済相談所 (電話 : 03-5368-5757)

<https://www.jcia.or.jp/advisory/index.html>

(一財) 自賠責保険・共済紛争処理機構

<https://www.jibai-adr.or.jp/>

(公財) 日弁連交通事故相談センター

(公財) 交通事故紛争処理センター

<https://n-tacc.or.jp/>

<https://www.jcstad.or.jp/>

日本弁護士連合会 弁護士費用保険ADR

<https://www.nichibenren.or.jp/activity/resolution/lac.html>

各機関の連絡先につきましては、上記ホームページをご覧いただくか、①の窓口にお問い合わせ下さい。

内部監査体制

当JAでは、内部監査部門を被監査部門から独立して設置し、経営全般にわたる管理及び各部門の業務の遂行状況を、内部管理態勢の適切性と有効性の観点から検証・評価し、改善事項の勧告などを通じて業務運営の適切性の維持・改善に努めています。

また、内部監査は、JAの本店・支店のすべてを対象とし、中期及び年度の内部監査計画に基づき実施しています。監査結果は代表理事組合長及び監事に報告したのち被監査部門に通知され、定期的に被監査部門の改善取組み状況をフォローアップしています。また、監査結果の概要を定期的に理事会に報告することとしていますが、特に重要な事項については、直ちに理事会、代表理事組合長、監事に報告し、速やかに適切な措置を講じています。

8. 自己資本の状況

自己資本比率の状況

当JAでは、多様化するリスクに対応するとともに、組合員や利用者のニーズに応えるため、財務基盤の強化を経営の重要課題として取組んでいます。内部留保に努めるとともに、不良債権処理及び業務の効率化等に取組んだ結果、2024年3月末における自己資本比率は、17.05%となりました。

経営の健全性の確保と自己資本の充実

当JAの自己資本は、組合員の普通出資によっています。

○普通出資による資本調達額

項目	内容
発行主体	越前たけふ農業協同組合
資本調達手段の種類	普通出資
コア資本に係る基礎項目に算入した額	3,168百万円 (前年度3,106百万円)

当JAは、「自己資本比率算出規程」を制定し、適正なプロセスにより正確な自己資本比率を算出して、当JAが抱える信用リスクやオペレーション・リスクの管理及びこれらのリスクに対応した十分な自己資本の維持を図るとともに、内部留保の積み増しにより自己資本の充実に努めています。

9. 主要な事業の内容

○ 信用事業

信用事業は、貯金、貸出、為替など、いわゆる銀行業務を行っています。この信用事業は、JA・信連・農林中金という三段階の組織が有機的に結びつき、「JAバンク」として大きな力を発揮しています。



©よりぞう

貯金業務

組合員の方はもちろん、地域住民の皆様や事業主の皆様からの貯金をお預かりしています。以下の各種貯金を目的、期間、金額にあわせてご利用いただいています。また、公共料金、県税、市町税、各種料金のお支払い、年金のお受け取り、給与振込等もご利用いただけます。

貯金の種類		特 色	期 間	お預入金額
総合口座	普通貯金		期間の制限なし	1 円 以上
	定期貯金	出し入れ自由。1冊の通帳に、普通貯金、定期貯金がセットでき、『貯める、増やす、借りる、払う、受取る』の5つの機能を備えた便利さ抜群の口座です。また、ご入用の際にはいつでも、お預かりしている定期貯金の90%（定期積金は掛け込み額の90%）、最高300万円まで自動的に借りることができますので、公共料金等の口座振替に安心してご利用いただけます。キャッシュカード等をセットされるとさらに便利です。普通貯金（決済用）は、貯金保険制度により全額保護されますが、利息がつきません。		
	期日指定			
	スーパー定期			
	大口定期			
	変動金利			
要求払貯金	当座貯金	安全便利な小切手、手形をご利用いただける貯金です。事業用口座として便利です。	期間の制限なし	1 円 以上
	普通貯金	出し入れ自由な、おサイフがわりの便利な貯金です。	期間の制限なし	1 円 以上
	普通貯金（決済用）	出し入れ自由。無利息ですが、貯金保険制度により全額保護されます。	期間の制限なし	1 円 以上
	貯蓄貯金	自由に引き出せる一方、5段階の金額階層別の金利が適用されます。	期間の制限なし②	1 円 以上
	通知貯金	まとまった資金の短期運用に便利です。	7 日 以 上	5 万 円 以上
定期貯金	期日指定定期貯金	1年複利の有利な貯金。期間は最高3年。1年目以降はお引出し自由。	最長3年 (据置期間1年)	1 万 円 以上
	スーパー定期貯金	金利は、市場実勢に応じ決定。	1カ月以上5年 以下・7年・10年	1 万 円 以上
	大口定期貯金	金利は、市場実勢に応じ決定。大口資金の高利回り運用に最適な貯金。	1カ月以上5年 以下・7年・10年	1,000万円以上
	変動金利定期貯金	市場実勢に応じて6カ月毎に利率変動する貯金です。個人の方は半年複利運用が可能。	3 年	1 万 円 以上
	積立式定期貯金	自由に積金感覚で預入ができます。	期間の制限なし 満定期は6カ月以上 10年以下 (据置期間1カ月以上 3年以下)	1 千 円 以上
定期	定期積金	毎月一定額の積立て、生活設計に応じた無理のない資金づくりができます。	6カ月以上 5年以内	1 千 円 以上
譲渡性貯金		大口資金の高利回り運用に最適です。満期日前に譲渡可能です。	(定期)1カ月~5年 (期日指定)7日以上 5年未満	1,000万円以上

②公共料金等の自動支払いや年金等の自動受取りはご利用できません。

貸出業務

全国のJA・信連・農林中金の店舗をはじめ、全国の銀行や信用金庫などの各店舗と為替網の生活を豊かにするための生活改善資金等を融資しています。

また、地域金融機関の役割として、地域住民の皆様の暮らしに必要な資金や、地方公共団体、農業関連産業・地元企業等、農業以外の事業へも必要な資金を貸出し、農業の振興はもとより、地域社会の発展のために貢献しています。

さらに、株日本政策金融公庫をはじめとする政府系金融機関等の代理貸付、個人向けローンも取り扱っています。



種類	資金用途	貸出期間	貸出金額
マイカーローン	自家用車の購入に要する資金	6カ月以上 15年以内	1,000万円以内
教育ローン	就学子弟の入学等に要する資金	6カ月以上 15年以内	1,000万円以内
地域農業応援資金	農業経営の改善を図るために必要な資金	25年以内	必要資金額以内 かつ5億円以内
農業近代化資金 (制度資金)	農業経営の改善を図り、農業の近代化を推進するために要する資金	資金用途に応じ 7年～20年	限度額 認定農業者等 個人1,800万円 法人20,000万円
住宅ローン	常時居住するための住宅購入、新築及び土地の購入に要する資金、他行からの借換、リフォーム資金	3年以上 50年以内	1億円以内
リフォームローン	既存住宅の増改築、改修およびその他住宅に付帯する関連設備等に要する資金	1年以上 15年以内	1,500万円以内
オーナーズローン	賃貸施設等建設に要する資金	35年以内	必要資金額以内
多目的ローン	生活全般に要する資金	6カ月以上 10年以内	500万以内
農家経済再建資金	農家を中心に、経済的再建のための資金	15年以内	債権整理額以内

為替業務

全国のJA・信連・農林中金の店舗をはじめ、全国の銀行や信用金庫などの各店舗と為替網で結び、当JAの窓口を通して全国どこの金融機関へでも振込・送金や手形・小切手等の取立が安全・確実・迅速にできます。

国債窓販・投資信託業務

投資信託は、お客様がJAにお申込みいただきお預かりした資金を「信託銀行（信託勘定）」が大切に保管・管理し「投資信託運用会社」がその資金に対して運用指図を行う仕組みです。厳正かつ効率的に運営される商品で、その成果はお客様に還元されます。投資信託資産価値は資産運用実績に応じて変動する為、元本は保証されていません。

万一、販売会社、投資信託運用会社、信託銀行（信託勘定）いずれかが破綻しても投資信託の信託財産は、法律や制度によって守られています。

その他の業務及びサービス

当JAでは、地域の皆様、一般企業・団体の皆様の幅広いニーズにお応えするため、各種サービスをご用意しています。

種類	内容
内国為替サービス	県内・全国のJAはもとより、国内の金融機関への振込・送金・代金取立などを安全・確実・迅速に行うサービスです。
自動受取サービス	給料や年金などがお客様のご指定貯金口座に自動的に振り込まれます。振り込まれた資金は、窓口はもちろんCD・ATMにより必要な時にお引出しいただけます。
自動支払サービス	電気・電話・放送受信料等公共料金のほか、高校授業料、各種クレジット代金等、月々のお支払をご指定口座から自動的にお支払いいたします。
定時振込サービス	家賃、地代、仕送り等をご指定のお振込み方法で、お客様に代わり行うサービスです。お客様の普通貯金口座から指定口座への振替はもちろん、全国の金融機関へご送金が可能です。
キャッシュサービス	当JAキャッシュカードは、カードの安全性を高めたICキャッシュカードです。JAバンクのATMによる入出金、残高照会サービスを終日無料でご利用いただけます。他行のATMをご利用の場合も、JAとのお取引内容に応じて手数料の優遇を行なう「JAバンク優遇プログラム」サービスがございます。また、福井ふるさとネットサービスとして、下記の銀行等のATMでのお引出しが手数料無料でご利用いただけます。 【提携金融機関】㈱福井銀行、㈱福邦銀行、福井信用金庫、敦賀信用金庫、小浜信用金庫、越前信用金庫
クレジットカード	「JAカード」は、三菱UFJニコスの商品性にJA独自のメリットを上乗せした、大変魅力的なクレジットカードです。年間12万円以上のカードショッピングのご利用、電気料金・携帯電話料金のクレジットカード払セットの何れかにより、翌年の年会費が無料になります。また「ロードサービス付JAカード」は安心便利なカーライフに最適です。さらに、ICキャッシュカードの機能を備えた一体型カードもお選びいただけます。
ATM機能 (現金自動預入・支払機)	キャッシュカードによる貯金のお引出し、ご入金、残高照会、通帳記帳、両替さらに全国のJA・信連・銀行等お客様ご指定口座に振込ができるほか、定期貯金の受入を行っています。
個人ネットバンク	インターネットを利用するパソコンや携帯電話から、残高照会、振込、振替などの各種サービスが24時間気軽に利用できます。また、県内JA間の振込手数料は無料です。 なお、セキュリティ対策に高度な暗号化技術(SSL 128bit)に加え、ワンタイムパスワード・リスクベース認証等の対策を講じていますので、安心してご利用いただけます。
法人ネットバンク	残高照会、振込、振替はもちろん、給与振込等のデータ伝送サービスもオフィスのパソコンでご利用できます。安心してご利用いただけるよう、電子証明書による認証や通信の暗号化はもちろん、不正送金防止に対して有効なスマートフォンによる二経路認証など、高いセキュリティの確保、維持に取組んでいます。

J AバンクアプリとJ Aネットバンクでできること



J Aバンクアプリ



○残高照会

○入出金明細照会（最大25ヵ月）

○明細ダウンロード機能

○投資信託残高照会

○定期預入明細照会



多機能

○振込・振替

○税金・公共料金支払い（ペイジー）

○定期貯金機能（定期口座開設・預入）

○投資信託残高照会

○定期預入明細照会

○各種ローン機能（繰り上げ返済等）



信用事業手数料のご案内 ※10%税込

○振入手数料（J A越前たけふ管内）

手数料種類			手数料
J A 越前たけふ 管内振込 手数料	窓口 利用	口座から振込	5万円未満1件につき 110円
			5万円以上1件につき 330円
	現金で振込	5万円未満1件につき 110円	
		5万円以上1件につき 330円	
	通帳間で振替		無料
	ATM利用		無料
個人・法人ネットバンク			無料

○振込手数料

		手数料種類	系統金融機関 あて	他行あて
為替手数料	電信 扱い	窓口利用	5万円未満1件につき	330円
			5万円以上1件につき	550円
		自動振込	5万円未満1件につき	220円
			5万円以上1件につき	440円
		ATM利用	5万円未満1件につき	110円
			5万円以上1件につき	330円
		個人ネットバンク 利用（県内JA）	5万円未満1件につき	無料
			5万円以上1件につき	無料
		個人ネットバンク 利用（県外JA）	5万円未満1件につき	110円
			5万円以上1件につき	330円
		個人ネットバンク 利用（他行）	5万円未満1件につき	220円
			5万円以上1件につき	440円
		法人ネット バンク利用	5万円未満1件につき	110円
			5万円以上1件につき	330円
	文書扱い		5万円未満1件につき	220円
			5万円以上1件につき	440円
				770円

○貸出関係

		手数料種類	手数料（税込）	
一部線上 返済手数料		住宅関連資金（ネット銀行利用は無料）	5,500円	
		生活関連資金（ネット銀行利用は無料）	3,300円	
		上記以外の資金（共済担保・貯金担保資金を除く）	3,300円	
全額線上 返済手数料		住宅関連資金	33,000円	
		生活関連資金	5,500円	
		上記以外の資金（共済担保・貯金担保資金を除く）	5,500円	
条件変更手数料		貸出利率・返済方法・返済期間の変更	5,500円	
		上記以外の資金（共済担保・貯金担保資金を除く）	5,500円	
新規担保取扱事務手数料（共済担保・貯金担保資金を除く）			33,000円	
特約期間設定手数料			5,500円	
住宅資金年末残高証明書手数料（2021年7月31日以前のご融資）			330円	
融資予定証明書発行手数料			11,000円	
確定日付手数料			1,100円	
電子契約手数料（住宅ローン）			22,000円	
電子契約手数料（その他）			1,100円	

○その他手数料

手数料種類		系統金融機関あて	他行あて
送金手数料		440円	660円
送金・振込の組戻料			660円
代金取立手数料	至急扱い	440円	880円
	普通扱い	440円	660円
不渡手形返却料			660円+実費
取立手形組戻料			660円+実費
取立手形店頭呈示料			660円+実費
各種証明書	単発		550円
発行手数料	継続（自動発行含）		330円
通帳再発行手数料			770円
証書再発行手数料			770円
I C キャッシュカード発行手数料			無料
一体型カード発行手数料			無料
各種カード再発行手数料			1,100円
キャッシュカード暗証番号照会料			無料
確定日付徴求のための手数料			1,100円
コメント手数料			1 件につき55円

手数料種類		手数料
保証小切手発行手数料（1枚あたり）		550円
個人ネットバンク	月額手数料	無料
法人ネットバンク	月額手数料（基本料）	1,100円
	月額手数料（基本料+データ伝送サービス利用）	2,200円
定時自動送金振替手数料		無料

○両替手数料

枚数	手数料	
1枚～100枚	無料	
101枚～500枚	220円	
501枚～1,000枚	330円	両替枚数は、「ご持参枚数合計」「お持ち帰り枚数合計」いずれか多い方とします。
1,001枚～1,500枚	660円	
以下500枚ごと加算	330円	

共済事業

J A共済は、J Aが行う地域密着型の総合事業の一環として、組合員・利用者の皆様の生命・傷害・家屋・財産を相互扶助によりトータルに保障しています。事業実施当初から生命保障と損害保障の両方を実施しており、個人の日常生活のうえで必要とされるさまざまな保障・ニーズにお応えできます。

J A共済取扱商品一覧

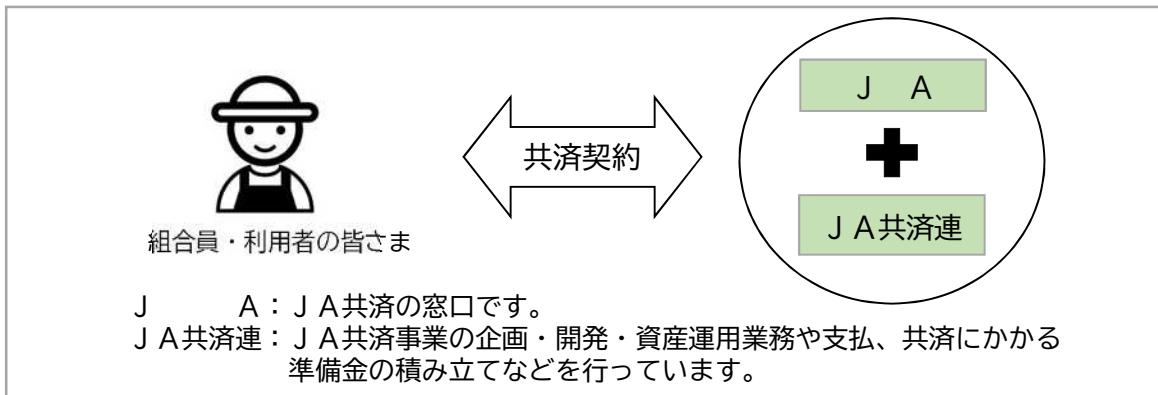
保障の目的	社会人スタート	結婚	お子さまの誕生	住宅購入	お子さまの進学	お子さまの結婚・独立	セカンドライフ
	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代		
万一のとき、ご家族のために生活費を残してあげたい方	一生涯の 万一保障					終身共済	
貯蓄しながら万一のときにも備えたい方	万一保障と貯蓄					養老生命共済	
お手頃な共済掛金で万一のときに備えたい方	共済期間が選べる 万一保障					定期生命共済	
病歴や健康状態に不安がある方	ご加入しやすい 万一保障					引受緩和型終身共済	
まとめた資金を活用したい方	一生涯の 万一保障					生存給付特則付一時払終身共済(平28.10)	
病歴や健康状態に不安がある方	ご加入しやすい 医療保障					引受緩和型医療共済	
病気やケガに備える医療保障がほしい方	充実の 医療保障					医療共済 メディフル	
がんに手厚く備えたい方	充実の がん保障					がん共済	
身体に障害を負って働けなくなったときのリスクに備えたい方	就労不能の 保障					生活障害共済 働くわたしのささエール	
身近な生活習慣病のリスクに備えたい方	特定疾病の 保障					特定重度疾病共済 身近なリスクにそなエール	
一生涯にわたる認知症の不安に備えたい方	一生涯の 認知症保障					認知症共済	
一生涯にわたる介護の不安に備えたい方	一生涯の 介護保障					介護共済	
まとめた資金を活用したい方	一生涯の 介護保障					一時払介護共済	
老後の生活資金の準備を始めたい方	老後の保障					予定利率変動型年金共済 ライフロード	
お子さま・お孫さまの教育資金を準備したい方	お子さま・ お孫さまの保障					こども共済	
火災や自然災害による建物・家財の損害に備えたい方	建物や家財の 保障					建物更生共済 むてきプラス・My家財プラス	
自動車事故による賠償やケガ、修理に備えたい方	くるまの保障					自動車共済 クルマスター	
農業において発生するさまざまなリスクに備えたい方	農業における 賠償リスクを保障					農業者賠償責任共済 ファーマスト	

※ご契約内容（主契約・特約の内容）により、多種・多様な保障パターンがございます。

お問合せ、ご確認につきましては、最寄の各支店へお願いします。

J A共済の仕組み

J A共済は、2005年4月1日から、J AとJ A共済連が共同で共済契約をお引き受けしています。J AとJ A共済連がそれぞれの役割を担い、組合員・利用者の皆さんに密着した生活総合保障活動を行っています。



【損害保険事業】

共済事業と共に損保ジャパンの代理店として事業を展開しております。損害保険をお客様のニーズに合わせて、選択しご提供させていただいております。

損保ジャパン取扱商品一覧

(法人に関する損害保険商品)

種類	内容と特徴
自動車の保険	様々なビジネスリスクに対応する補償をオーダーメイドで選択することができる保険商品です。
企業財産の保険	事務所・工場やその中にある設備什器・商品等に対する火災などのリスクに備える保険商品です。
賠償責任の保険	事業活動を行う上で、他人の身体やモノに損害を与えた場合の損害賠償責任に備える保険商品です。
事業休止の保険	火災などの災害や事故によって事業を休止した場合に減少する利益等をカバーする保険商品です。
従業員・経営者の保険	従業員や経営者の方々の業務災害や通勤災害のリスクに備える保険商品です。
事業活動全般の保険	お客様の会社に関わるリスク全般に対応した保険商品です。

(個人に関する損害保険商品)

種類	内容と特徴
自動車の保険	万全の事故・故障対応、先進のサービス、充実の補償でお客様の「安心」「安全」をお届けします。
火災・地震の保険	火災をはじめとするさまざまな災害から日常生活の思いもよらないリスクまで、大切な建物・家財を幅広くお守りします。
医療・ケガの保険	日常生活におけるさまざまなケガ(傷害)の補償や病気等で働けなくなつた時の所得を補償します。
旅行・レジャーの保険	国内・国外旅行中の思いがけない事故によるケガや損害を補償します。

〔生命保険事業〕

共済事業と共にSOMPOひまわり生命の代理店として事業を展開しております。生命保険をお客様のニーズに合わせて選択し、ご提供させていただきます。

SOMPOひまわり生命取扱商品一覧

種類	商品の内容と特徴
医療保険	病気・ケガによる入院・手術を保障します。ニーズに応じていろいろな特則・特約が付加できます。通算1000日まで保障します。
限定告知医療保険	健康に不安のある方がお申し込みいただけます。病気・ケガによる入院・手術を保障します。
認知症保険	認知症・軽度認知障害への備えや、骨折やケガ・所定の感染症による万一の保障を確保できる保険です。簡単な告知でお申し込みいただけます。
がん保険（C2）	所定のがんの治療を受けた月ごとに、がん治療給付金をお受け取りいただけます。
がん保険（C3）	がんと診断確定された場合に、がん診断給付金をお受け取りいただけます。
変額保険	万一の保障に加え、就労不能・介護への備えを確保できる保険です。お客様のニーズに応じて保険料が運用されます。

○指導事業○

指導事業は、営農指導事業と生活指導事業に大別され、それぞれ組合員の営農活動、生活活動がより効果的に行われることを目的にしています。直接収益を生み出す事業ではありませんが、信用・共済・販売等の事業の要として取組んでいます。

なお、営農指導事業とは、組合員の営農を指導し、その改善と地域における総合的な農業生産力の維持・向上を図っていく重要な事業であり、生活指導事業は、組合員農家の生活全般について指導し、組合員や地域社会の生活改善と向上を図っていく事業です。



販売事業

生産者から消費者へ、新鮮で安全・安心な農畜産物をお届けする事業を行っています。生産者が生産した農畜産物を市場に出荷するほか、当JA管内において生産された米、野菜、果樹等を特産品として全国に発信しています。

イメージキャラクターの「越前しきぶ姫」を商標登録した主食用米をはじめ、白山地区の「しらやま西瓜」やトマトの「紅しきぶ」、きゅうりの「緑しきぶ」、今庄地区のつるし柿など生産者が丹精込めた新鮮な品を消費者にお届けしています。

なお、管内の特産品は、コープたけふ各店舗や当JAホームページ内のショッピングサイト「しきぶちゃんの宝箱」でもお買い求めいただけます。

「しきぶちゃんの宝箱」

<http://shop.ja-echizentakefu.or.jp/>

「お米のフリーアクセス」

☎ 0120-353-310



系統セーフティネット（貯金者保護の取組み）

当JAの貯金は、JAバンク独自の制度である「破綻未然防止システム」と公的制度である「貯金保険制度（農水産業協同組合貯金保険制度）」との2重のセーフティネットで守られています。

「JAバンクシステム」の仕組み

組合員・利用者から一層信頼され利用される信用事業を確立するために、「再編強化法（農林中央金庫及び特定農水産業協同組合等による信用事業の再編及び強化に関する法律）」に則り、JAバンク会員（JA・信連・農林中金）総意のもと「JAバンク基本方針」に基づき、JA・信連・農林中金が一体的に取組む仕組みを「JAバンクシステム」といいます。

「JAバンクシステム」は、JAバンクの信頼性を確保する「破綻未然防止システム」と、スケールメリットときめ細かい顧客接点を生かした金融サービスの提供の充実・強化を目指す「一体的事業運営」の2つの柱で成り立っています。

「破綻未然防止システム」の機能

「破綻未然防止システム」は、JAバンクの健全性を確保し、JA等の経営破綻を未然に防止するためのJAバンク独自の制度です。具体的には、（1）個々のJA等の経営状況についてチェック（モニタリング）を行い、問題点を早期に発見、（2）経営破綻に至らないよう、早め早めに経営改善等を実施、（3）全国のJAバンクが拠出した「JAバンク支援基金※」等を活用し、個々のJAの経営健全性維持のために必要な資本注入などの支援を行います。

※2023年3月末における残高は1,651億円となっています。

「一体的事業推進」の実施

良質で高度な金融サービスを提供するため、JAバンクとして商品開発力・提案力の強化、共同運営システムの利用、全国統一のJAバンクブランドの確立等の一体的な事業推進の取組みをしています。

貯金保険制度

貯金保険制度とは、農水産業協同組合が貯金などの払い戻しができなくなった場合などに、貯金者を保護し、また資金決済の確保を図ることによって、信用秩序の維持に資することを目的とする制度で、銀行、信金、信組、労金などが加入する「預金保険制度」と同様な制度です。

なお、この制度を運営する貯金保険機構（農水産業協同組合貯金保険機構）の責任準備金残高は、2023年3月末現在で4,708億円となっています。

I

決算の状況

1. 貸借対照表

(単位:千円)

科 目	2023年度	2022年度
	2024年3月31日	2023年3月31日
(資産の部)		
1 信用事業資産	122,758,958	124,043,060
(1) 現金	588,876	643,547
(2) 預金	91,523,922	94,020,728
系統預金	87,946,487	90,479,590
系統外預金	3,577,435	3,541,137
(3) 有価証券	10,000	-
(4) 貸出金	30,555,710	29,327,590
(5) その他の信用事業資産	106,251	69,280
未収収益	74,512	58,502
その他の資産	31,738	10,777
(6) 貸倒引当金	△ 25,801	△ 18,085
2 共済事業資産	7,930	11,032
(1) その他の共済事業資産	7,930	11,032
3 経済事業資産	771,041	917,359
(1) 経済受託債権	685,507	831,606
(2) 棚卸資産	31,157	31,330
宅地等	30,707	30,717
その他の棚卸資産	450	613
(3) その他の経済事業資産	102,452	102,502
(4) 貸倒引当金	△ 48,077	△ 48,080
4 雑資産	250,236	248,264
5 固定資産	3,994,967	3,996,680
(1) 有形固定資産	3,873,022	3,856,049
建物	5,148,000	5,088,716
機械装置	2,955,042	2,900,807
土地	2,469,774	2,469,774
その他の有形固定資産	1,605,866	1,596,648
減価償却累計額	△ 8,305,662	△ 8,199,898
(2) 無形固定資産	121,944	140,631
6 外部出資	4,714,744	4,714,744
(1) 外部出資	4,714,744	4,714,744
系統出資	4,276,650	4,276,950
系統外出資	188,094	187,794
子会社等出資	250,000	250,000
7 前払年金費用	657,792	526,683
資産の部合計	133,155,669	134,457,824

科 目		(単位:千円)	
		2023年度 2024年3月31日	2022年度 2023年3月31日
(負債の部)			
1 信用事業負債		123,644,498	125,143,639
	(1) 資金	123,272,172	124,720,025
	(2) その他の信用事業負債	372,326	423,614
	未払費用	26,874	22,632
	その他の負債	345,452	400,982
2 共済事業負債		969,831	1,023,254
	(1) 共済資金	719,943	775,858
	(2) 未経過共済付加収入	239,944	237,852
	(3) 共済未払費用	9,553	9,526
	(4) その他共済事業負債	389	17
3 経済事業負債		101,570	52,467
	(1) 経済受託債務	87,532	50,147
	(2) その他の経済事業負債	14,037	2,320
4 設備借入金		86,400	108,000
5 雑負債		248,751	221,273
	(1) 未払法人税等	3,295	37,938
	(2) その他の負債	245,455	183,334
6 諸引当金		70,576	82,103
	(1) 賞与引当金	37,223	39,122
	(2) 退職給付引当金	33,352	42,981
7 繰延税金負債		147,639	90,414
負 債 の 部 合 計		125,269,267	126,721,154
(純資産の部)			
1 組合員資本		7,886,402	7,736,670
	(1) 出資金	3,168,360	3,106,445
	(2) 資本準備金	183,766	183,766
	(3) 利益剰余金	4,562,105	4,457,423
	利益準備金	1,987,402	1,937,402
	その他利益剰余金	2,574,703	2,520,021
	農業・生活関連施設積立金	125,039	125,039
	固定資産減損対策積立金	768,132	768,588
	I T 関連施設積立金	20,000	20,000
	リスク管理対策積立金	279,040	290,486
	特別積立金	142,635	142,635
	当期末処分剰余金	1,221,856	1,173,272
	(うち当期剰余金)	(198,095)	(232,217)
	(4) 処分未済持分	△ 27,830	△ 10,965
純 資 産 の 部 合 計		7,886,402	7,736,670
負債及び純資産の部合計		133,155,669	134,457,824

2. 損益計算書

(単位:千円)

科 目	2023年度	2022年度
	(自2023年4月1日 至2024年3月31日)	(自2022年4月1日 至2023年3月31日)
1 事業総利益	1,202,843	1,341,182
事業収益	1,596,189	1,669,082
事業費用	393,345	327,900
1) 信用事業収益	797,261	808,801
資金運用収益	727,783	731,186
(うち預金利息)	(428,883)	(429,553)
(うち有価証券利息)	(30)	(-)
(うち貸出金利息)	(190,155)	(180,898)
(うちその他受入利息)	(108,714)	(120,734)
役務取引等収益	32,454	30,445
その他経常利益	37,023	47,169
2) 信用事業費用	197,510	182,907
資金調達費用	31,080	37,450
(うち貯金利息)	(26,475)	(33,420)
(うち給付補填備金繰入)	(1,258)	(1,619)
(うちその他支払利息)	(3,346)	(2,411)
役務取引等費用	6,255	6,649
その他経常費用	160,174	138,807
(うち貸倒引当金繰入額)	(7,715)	(-)
(うち貸倒引当金戻入益)	(-)	(△6,223)
信用事業総利益	599,750	625,893
3) 共済事業収益	591,298	656,450
共済付加収入	515,686	537,937
その他の収益	75,612	118,513
4) 共済事業費用	41,003	43,193
共済推進費	12,565	9,105
共済保全費	6,658	8,699
その他の費用	21,779	25,387
共済事業総利益	550,295	613,257
5) 販売事業収益	113,135	102,016
販売手数料	99,281	92,146
その他の収益	13,854	9,869
6) 販売事業費用	65,275	32,283
販売費	49,384	29,698
その他の費用	15,890	2,584
販売事業総利益	47,859	69,733
7) 保管事業収益	68,297	76,128
8) 保管事業費用	49,288	30,695
保管委託料	29,535	25,424
保管雑費	19,753	5,270
保管事業総利益	19,008	45,433

科 目	(単位：千円)	
	2023年度 (自2023年4月1日 至2024年3月31日)	2022年度 (自2022年4月1日 至2023年3月31日)
9) 宅地等供給事業収益	70	-
10) 宅地等供給事業費用	152	922
宅地等供給事業総損失	82	922
11) 指導事業収入	9,548	9,773
12) 指導事業支出	29,208	28,245
指導事業収支差額	△ 19,659	△ 18,472
13) 生活文化事業収入	1,982	1,222
14) 生活文化事業支出	3,027	1,887
生活文化事業収支差額	△ 1,044	△ 664
15) 教育事業支出	7,880	7,764
教育事業収支差額	△ 7,880	△ 7,764
16) その他事業総利益	14,595	14,688
その他事業総利益	14,595	14,688
2 事業管理費	1,020,815	1,193,315
1) 人件費	686,732	873,732
2) 業務費	69,382	69,570
3) 諸税負担金	69,681	67,491
4) 施設費	187,765	170,358
5) その他事業管理費	7,253	12,162
事業利益	182,027	147,867
3 事業外収益	205,323	195,903
1) 受取出資配当金	57,153	57,153
2) 賃貸料	138,526	133,431
3) 雑収入	9,639	5,318
4) 貸倒引当金戻入益	3	0
4 事業外費用	103,606	106,846
1) 賃貸費用	103,456	106,659
2) 支払雑利息	149	183
3) 雑損失	0	-
4) 貸倒引当金繰入	0	3
経常利益	283,744	236,924
5 特別利益	148,190	91,880
1) 固定資産処分益	-	89,560
2) 一般補助金	148,190	2,320
6 特別損失	164,296	41,050
1) 固定資産処分損	2,239	7,319
2) 固定資産圧縮損	148,190	2,320
3) 減損損失	13,867	31,411
税引前当期利益	267,637	287,753
法人税、住民税及び事業税	12,317	57,699
法人税等調整額	57,224	△ 2,162
法人税等合計	69,541	55,536
当期剩余金	198,095	232,217
当期首繰越剩余金	988,933	900,130
目的積立金取崩	34,827	40,924
当期末処分剩余金	1,221,856	1,173,272

3. 注記表

2023年度	2022年度
<p>1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記</p> <p>(1) 有価証券（株式形態の外部出資を含む）の評価基準及び評価方法</p> <p>①満期保有目的の債券：償却原価法（定額法） ②子会社株式：移動平均法による原価法 ③その他有価証券 ア. 市場価格のない株式等：移動平均法による原価法</p> <p>(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法</p> <p>①宅地等（販売用不動産）については、個別法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）により行っています。</p> <p>(3) 固定資産の減価償却の方法</p> <p>①有形固定資産 定率法を採用しています。ただし、1998年4月1日以降取得した建物（建物附属設備は除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しています。 ②無形固定資産 定額法を採用しています。</p> <p>(4) 引当金の計上基準</p> <p>①貸倒引当金 貸倒引当金は、予め定めている資産査定規程、資産査定事務要領、経理規程及び資産の償却・引当規程に則り、次のとおり計上しています。 破産、特別清算等、法的に経営破綻の事実が発生している債務者（破綻先）に係る債権、及びそれと同等の状況にある債務者（実質破綻先）に係る債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しています。 また、現在は経営破綻の状況にはないが、今後、経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者（破綻懸念先）に係る債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断して必要と認められる額を計上しています。 上記以外の債権については、今後1年間の予想損失額又は今後3年間の予想損失額を見積り計上しています。予想損失額は、過去1年間又は過去3年間の貸倒実績を基礎とした貸倒実績率の過去の一定期間における平均値に基づき損失率を求め、これに将来見込み等必要な修正を加えて算定しております。 すべての債権は、資産査定規程に基づき、資産査定部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した監査室が査定結果を監査しております。</p> <p>すべての債権は、資産査定規程に基づき、資産査定部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した監査室が査定結果を監査しております。</p> <p>②賞与引当金 職員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額のうち当年度負担分を計上しています。</p> <p>③退職給付引当金 職員の退職給付に備えるため、当年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しています。なお、退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しています。</p>	<p>1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記</p> <p>(1) 有価証券（株式形態の外部出資を含む）の評価基準及び評価方法</p> <p>①子会社株式：移動平均法による原価法 ②その他有価証券 ア. 市場価格のない株式等：移動平均法による原価法</p> <p>(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法</p> <p>①宅地等（販売用不動産）については、個別法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）により行っています。</p> <p>(3) 固定資産の減価償却の方法</p> <p>①有形固定資産 定率法を採用しています。ただし、1998年4月1日以降取得した建物（建物附属設備は除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しています。 ②無形固定資産 定額法を採用しています。</p> <p>(4) 引当金の計上基準</p> <p>①貸倒引当金 貸倒引当金は、予め定めている資産査定規程、資産査定事務要領、経理規程及び資産の償却・引当規程に則り、次のとおり計上しています。 破産、特別清算等、法的に経営破綻の事実が発生している債務者（破綻先）に係る債権、及びそれと同等の状況にある債務者（実質破綻先）に係る債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しています。 また、現在は経営破綻の状況にはないが、今後、経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者（破綻懸念先）に係る債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断して必要と認められる額を計上しています。 上記以外の債権については、今後1年間の予想損失額又は今後3年間の予想損失額を見積り計上しています。予想損失額は、過去1年間又は過去3年間の貸倒実績を基礎とした貸倒実績率の過去の一定期間における平均値に基づき損失率を求め、これに将来見込み等必要な修正を加えて算定しております。 すべての債権は、資産査定規程に基づき、資産査定部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した監査室が査定結果を監査しております。</p> <p>②賞与引当金 職員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額のうち当年度負担分を計上しています。</p> <p>③退職給付引当金 職員の退職給付に備えるため、当年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しています。なお、退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しています。</p>

2023年度

(5) 収益及び費用の計上基準

当組合の利用者等との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び収益を認識する通常の時点は以下のとおりであります。

①販売事業

組合員が生産した農畜産物を当組合が集荷して共同で業者等に販売する事業であり、当組合は利用者等との契約に基づき、販売品を引き渡す義務を負っております。この利用者等に対する履行義務は、販売品の引き渡し時点で充足することから、当該時点で収益を認識しております。

②保管事業

組合員が生産した米・麦・大豆等の農産物を保管・管理する事業であり、当組合は利用者等との契約に基づき、役務提供する義務を負っております。この利用者等に対する履行義務は、農産物の保管期間にわたって充足することから、当該サービスの進捗度に応じて収益を認識しております。

③宅地等供給事業

組合員の委託に基づき行う宅地等の売渡しの仲介サービスによるものであり、利用者等との契約に基づき、役務提供する義務を負っております。この利用者等に対する履行義務は、売買当事者間において宅地等の売渡しが完了した時点において充足されると判断し、仲介した物件の引渡し時点で収益を認識しております。

④指導事業

組合員の営農にかかる各種相談・研修・経理サービスを提供する事業であり、当組合は利用者等との契約に基づき、役務提供する義務を負っております。この利用者等に対する履行義務は、主にサービスの提供が完了した時点で充足することから、当該時点で収益を認識しております。

(6) 消費税の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっています。

ただし、固定資産に係る控除対象外消費税等は、雑資産に計上し、5年間で均等償却を行っています。

(7) 記載金額の端数処理の方法

記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しており、金額千円未満の科目については、「0」で表示しています。

(8) その他計算書類等の作成のための基本となる重要な事項

①事業別収益・事業別費用の内部取引の処理方法について

当組合は、事業別の収益及び費用について、事業間取引の相殺表示を行っておりません。よって、事業別の収益及び費用については、事業間の内部取引も含めて表示しております。

ただし、損益計算書の事業収益、事業費用については、農業協同組合法施行規則にしたがい、各事業間の内部損益を除去した額を記載しております。

②米共同計算

当組合は生産者が生産した農作物を無条件委託販売により販売を行い、販売代金と販売に要する経費をプール計算することで生産者に支払いをする共同計算を行っております。そのうち、米については販売を当組合が行いプール計算を行う「JA共同計算」を行っております。

2022年度

(5) 収益及び費用の計上基準

当組合の利用者等との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び収益を認識する通常の時点は以下のとおりであります。

①販売事業

組合員が生産した農畜産物を当組合が集荷して共同で業者等に販売する事業であり、当組合は利用者等との契約に基づき、販売品を引き渡す義務を負っております。この利用者等に対する履行義務は、販売品の引き渡し時点で充足することから、当該時点で収益を認識しております。

②保管事業

組合員が生産した米・麦・大豆等の農産物を保管・管理する事業であり、当組合は利用者等との契約に基づき、役務提供する義務を負っております。この利用者等に対する履行義務は、農産物の保管期間にわたって充足することから、当該サービスの進捗度に応じて収益を認識しております。

③宅地等供給事業

組合員の委託に基づき行う宅地等の売渡しの仲介サービスによるものであり、利用者等との契約に基づき、役務提供する義務を負っております。この利用者等に対する履行義務は、売買当事者間において宅地等の売渡しが完了した時点において充足されると判断し、仲介した物件の引渡し時点で収益を認識しております。

④指導事業

組合員の営農にかかる各種相談・研修・経理サービスを提供する事業であり、当組合は利用者等との契約に基づき、役務提供する義務を負っております。この利用者等に対する履行義務は、主にサービスの提供が完了した時点で充足することから、当該時点で収益を認識しております。

(6) 消費税の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっています。

ただし、固定資産に係る控除対象外消費税等は、雑資産に計上し、5年間で均等償却を行っています。

(7) 記載金額の端数処理の方法

記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しており、金額千円未満の科目については、「0」で表示しています。

(8) その他計算書類等の作成のための基本となる重要な事項

①事業別収益・事業別費用の内部取引の処理方法について

当組合は、事業別の収益及び費用について、事業間取引の相殺表示を行っておりません。よって、事業別の収益及び費用については、事業間の内部取引も含めて表示しております。

ただし、損益計算書の事業収益、事業費用については、農業協同組合法施行規則にしたがい、各事業間の内部損益を除去した額を記載しております。

②米共同計算

当組合は生産者が生産した農作物を無条件委託販売により販売を行い、販売代金と販売に要する経費をプール計算することで生産者に支払いをする共同計算を行っております。そのうち、米については販売を当組合が行いプール計算を行う「JA共同計算」を行っております。

2023年度

共同計算の会計処理については、貸借対照表の経済受託債権に、受託販売について生じた委託者に対する立替金及び販売品の販売委託者に支払った概算金を計上しております。

また、経済受託債務に、受託販売品の販売代金を計上しております。

共同計算にかかる収入（販売代金等）と支出（概算金、検査手数料、倉庫保管料、集荷費等）の計算を行い、当組合が受け取る販売手数料を控除した残額を精算金として生産者に支払った時点において、経済受託債権及び経済受託債務の相殺後の経済受託債務残高を減少する会計処理を行っております。

③当組合が代理人として関与する取引の損益計算書の表示について

販売事業収益のうち、当組合が代理人として販売品の販売に関与している場合には、純額で収益を認識して、販売手数料として表示しております。

2022年度

共同計算の会計処理については、貸借対照表の経済受託債権に、受託販売について生じた委託者に対する立替金及び販売品の販売委託者に支払った概算金を計上しております。

また、経済受託債務に、受託販売品の販売代金を計上しております。

共同計算にかかる収入（販売代金等）と支出（概算金、検査手数料、倉庫保管料、集荷費等）の計算を行い、当組合が受け取る販売手数料を控除した残額を精算金として生産者に支払った時点において、経済受託債権及び経済受託債務の相殺後の経済受託債務残高を減少する会計処理を行っております。

③当組合が代理人として関与する取引の損益計算書の表示について

販売事業収益のうち、当組合が代理人として販売品の販売に関与している場合には、純額で収益を認識して、販売手数料として表示しております。

2. 会計方針の変更に関する注記

(1) 時価の算定に関する会計基準等の適用

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。）を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することいたしました。これによる当事業年度の計算書類への影響はありません。

3. 会計上の見積りに関する注記

(1) 繰延税金資産の回収可能性

①当事業年度の計算書類に計上した金額はありません（相殺前34,306千円）。

②会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報

繰延税金資産は、次年度以降の課税所得の見積り額を限度に、当事業年度末における将来加算一時差異の解消見込をスケジューリングして計上しています。なお、繰延税金資産の計上にあたっては、当事業年度末における将来減算一時差異の解消見込も含めてスケジューリングしています。

次年度以降の課税所得の見積りについては、中期3カ年（2024～2026年度）事業計画等を基礎として、当組合が将来獲得可能な課税所得の時期及び金額を合理的に見積っておりま

しかし、これらの見積りは将来の不確実な経営環境及び組合の経営状況の影響を受けます。よって、実際に課税所得が生じた時期及び金額が見積りと異なった場合には、次年度以降の計算書類において認識する繰延税金資産の金額に重要な影響を与える可能性があります。

また、将来の税制改正により、法定実効税率が変更された場合には、次年度以降の計算書類において認識する繰延税金資産の金額に重要な影響を与える可能性があります。

①当事業年度の計算書類に計上した金額はありません（相殺前55,265千円）。

②会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報

繰延税金資産は、次年度以降の課税所得の見積り額を限度に、当事業年度末における将来加算一時差異の解消見込をスケジューリングして計上しています。なお、繰延税金資産の計上にあたっては、当事業年度末における将来減算一時差異の解消見込も含めてスケジューリングしています。

次年度以降の課税所得の見積りについては、中期3カ年（2023～2025年度）事業計画等を基礎として、当組合が将来獲得可能な課税所得の時期及び金額を合理的に見積っておりま

しかし、これらの見積りは将来の不確実な経営環境及び組合の経営状況の影響を受けます。よって、実際に課税所得が生じた時期及び金額が見積りと異なった場合には、次年度以降の計算書類において認識する繰延税金資産の金額に重要な影響を与える可能性があります。

また、将来の税制改正により、法定実効税率が変更された場合には、次年度以降の計算書類において認識する繰延税金資産の金額に重要な影響を与える可能性があります。

2023年度

(2) 固定資産の減損

- ①当事業年度の計算書類に計上した金額
減損損失 13,867千円
- ②会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報
資産又は資産グループに減損の兆候が存在する場合には、当該資産等の割引前将来キャッシュ・フローと帳簿価額を比較して減損の要否を判定し、減損が必要な場合には当該資産等の回収可能価額に基づき減損損失を算出しています。なお、減損の兆候判定等を行う資産又は資産グループの単位は、キャッシュ・イン・フローの生成に寄与する単位としています。
減損の要否判定及び減損損失算出における将来キャッシュ・フローは過去3事業年度（2021年～2023年度）実績を基礎に、割引率については固定資産の收益率等を勘案して算出しております。
これらの仮定は将来の不確実な経営環境及び組合の経営状況の影響を受け、翌事業年度以降の計算書類に重要な影響を与える可能性があります。

(3) 貸倒引当金

- ①当事業年度の計算書類に計上した金額
貸倒引当金 73,879千円
- ②会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報
ア. 算定方法
「1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記」の「(4) 引当金の計上基準」の「①貸倒引当金」に記載しております。
イ. 主要な仮定
主要な仮定は、「債務者区分の判定における貸出先の将来の業績見通し」であります。「債務者区分の判定における貸出先の将来の業績見通し」は、各債務者の収益獲得能力を個別に評価し、設定しております。
ウ. 翌事業年度に係る計算書類に与える影響
個別貸出先の業績変化等により、当初の見積りに用いた仮定が変化した場合は、翌事業年度に係る計算書類における貸倒引当金に重要な影響を及ぼす可能性があります。

3. 貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産に係る圧縮記帳額

土地収用法、また、国庫補助金等の受領により、有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額は148,190千円であり、その内訳は次のとおりです。

建物	147,040千円
機械装置	1,150千円

(2) 減損損失累計額の表示方法

減価償却累計額には、減損損失累計額71,059千円が含まれています。

(3) リース契約により使用する重要な固定資産の内容

貸借対照表に計上した固定資産のほか、移動店舗車4台、テラーズマシン1台、共済端末機32台、共済契約タブレット端末機56台、損保ジャパン・SOMPOひまわり生命タブレット端末機15台については、リース契約により使用しています。

2022年度

(2) 固定資産の減損

- ①当事業年度の計算書類に計上した金額
減損損失 31,411千円
- ②会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報
資産又は資産グループに減損の兆候が存在する場合には、当該資産等の割引前将来キャッシュ・フローと帳簿価額を比較して減損の要否を判定し、減損が必要な場合には当該資産等の回収可能価額に基づき減損損失を算出しています。なお、減損の兆候判定等を行う資産又は資産グループの単位は、キャッシュ・イン・フローの生成に寄与する単位としています。

減損の要否判定及び減損損失算出における将来キャッシュ・フローは過去3事業年度（2020年～2022年度）実績を基礎に、割引率については固定資産の收益率等を勘案して算出しております。

これらの仮定は将来の不確実な経営環境及び組合の経営状況の影響を受け、次年度以降の計算書類に重要な影響を与える可能性があります。

(3) 貸倒引当金

- ①当事業年度の計算書類に計上した金額
貸倒引当金 66,166千円
- ②会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報
ア. 算定方法
「1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記」の「(4) 引当金の計上基準」の「①貸倒引当金」に記載しております。
イ. 主要な仮定
主要な仮定は、「債務者区分の判定における貸出先の将来の業績見通し」であります。「債務者区分の判定における貸出先の将来の業績見通し」は、各債務者の収益獲得能力を個別に評価し、設定しております。
ウ. 翌事業年度に係る計算書類に与える影響
個別貸出先の業績変化等により、当初の見積りに用いた仮定が変化した場合は、翌事業年度に係る計算書類における貸倒引当金に重要な影響を及ぼす可能性があります。

4. 貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産に係る圧縮記帳額

土地収用法、また、国庫補助金等の受領により、有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額は4,254,139千円であり、その内訳は次のとおりです。

建物	1,807,843千円
機械装置	2,029,166千円
その他の有形固定資産	417,129千円

(2) 減損損失累計額の表示方法

減価償却累計額には、減損損失累計額63,841千円が含まれています。

(3) リース契約により使用する重要な固定資産の内容

貸借対照表に計上した固定資産のほか、移動店舗車4台、テラーズマシン1台、共済端末機32台、共済契約タブレット端末機56台、損保ジャパン・SOMPOひまわり生命タブレット端末機15台については、リース契約により使用しています。

2023年度

(4) 担保に供されている資産の内容及びその金額
為替決済取引の担保として、定期預金1,500,000千円を差し入れています。

(5) 保証債務

下記の通り、当組合は株コーポ武生および株越前たけふファームの株日本政策金融公庫からの借入金に対し、債務保証を行っています。

株コーポ武生	当組合の保証額	81,760千円
株越前たけふファーム	当組合の保証額	50,000千円

(6) 子会社等に対する金銭債権及び金銭債務の総額
子会社等に対する金銭債権は、199,725千円です。
子会社等に対する金銭債務の総額は、179,486千円です。

(7) 役員に対する金銭債権及び金銭債務の総額
理事及び監事に対する金銭債権の総額は、11,486千円です。
理事及び監事に対する金銭債務はありません。

(8) 債権のうち農業協同組合法施行規則第204条第1項第1号ホ(2) (i) から(iv) までに掲げるものの額及びその合計額

債権のうち、破産更生債権及びこれらに準ずる債権額は53,296千円、危険債権額は103,905千円、三月以上延滞債権額は4,856千円、貸出条件緩和債権額はありません。

①破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。

②危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないものの、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権（破産更生債権及びこれらに準ずる債権を除く。）です。

③三月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権及び危険債権に該当しないものです。

④貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払い猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権及び三月以上延滞債権に該当しないものです。

破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権、三月以上延滞債権の合計額は162,057千円です。

なお、上記に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額です。

4. 損益計算書に関する注記

(1) 子会社等との事業取引による取引高の総額及び事業取引以外の取引による取引高の総額

①子会社等との取引による収益総額	76,012千円
うち事業取引以外の取引高	76,012千円
②子会社等との取引による費用総額	1千円
うち事業取引以外の取引高	1千円

(2) 減損損失に関する注記

①グルーピングの概要

一般資産については管理会計の単位としている基幹支店を基本に、賃貸資産及び遊休資産につい

2022年度

(4) 担保に供されている資産の内容及びその金額
為替決済取引の担保として、定期預金1,500,000千円を差し入れています。

(5) 保証債務

下記の通り、当組合は株コーポ武生および株越前たけふファームの株日本政策金融公庫からの借入金に対し、債務保証を行っています。

株コーポ武生	当組合の保証額	97,600千円
株越前たけふファーム	当組合の保証額	50,000千円

(6) 子会社等に対する金銭債権及び金銭債務の総額
子会社等に対する金銭債権は、ありません。
子会社等に対する金銭債務の総額は、268,432千円です。

(7) 役員に対する金銭債権及び金銭債務の総額
理事及び監事に対する金銭債権の総額は、27,790千円です。
理事及び監事に対する金銭債務はありません。

(8) 債権のうち農業協同組合法施行規則第204条第1項第1号ホ(2) (i) から(iv) までに掲げるものの額及びその合計額

債権のうち、破産更生債権及びこれらに準ずる債権額は46,522千円、危険債権額は117,622千円、三月以上延滞債権額は10,222千円、貸出条件緩和債権額はありません。

①破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。

②危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないものの、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権（破産更生債権及びこれらに準ずる債権を除く。）です。

③三月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権及び危険債権に該当しないものです。

④貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払い猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権及び三月以上延滞債権に該当しないものです。

破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権、三月以上延滞債権の合計額は174,367千円です。

なお、上記に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額です。

5. 損益計算書に関する注記

(1) 子会社等との事業取引による取引高の総額及び事業取引以外の取引による取引高の総額

①子会社等との取引による収益総額	43,751千円
うち事業取引以外の取引高	43,751千円
②子会社等との取引による費用総額	1千円
うち事業取引以外の取引高	1千円

(2) 減損損失に関する注記

①グルーピングの概要

一般資産については管理会計の単位としている基幹支店を基本に、賃貸資産及び遊休資産につい

2023年度

ては施設単位でグルーピングをしています。また、本店、営農センター、乾燥施設、越前たけふファーム関係については、独立したキャッシュ・フローを生み出さないものの、他の資産グループのキャッシュ・フローの生成に寄与していることから、JA全体の共用資産としています。

②減損損失を認識した資産又は資産グループの概要並びに減損損失の金額及びその内訳

当年度に減損損失を計上した固定資産は、以下のとおりです。
(単位：千円)

場所	用途	種類	金額	その他
今庄 ライス センター	遊休 資産	建 物 機械装置 その 他 (合計)	3,971 3,246 6,650 13,867	

③減損損失を認識するに至った経緯

今庄ライスセンターについては、当期において使用方法をサテライト拠点に変更したことにもともない、遊休資産として帳簿価額を回収可能価額で減額し、その差額を減損損失として認識しました。

④回収可能価額の算定方法

回収可能価額は正味売却価額を採用しております。

5. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

①金融商品に対する取組み方針

当組合は農家組合員や地域から預かった貯金を原資に、農家組合員や地方公共団体などへ貸付け、残った余裕金を福井県信用農業協同組合連合会等へ預けているほか、国債や地方債等による運用を行っています。

②金融商品の内容及びそのリスク

当組合が保有する金融資産は、主として当組合管内の組合員等に対する貸出金及び有価証券であり、貸出金は組合員等の契約不履行によってもたらされる信用リスクに晒されています。

③金融商品に係るリスク管理体制

ア. 信用リスクの管理

当組合は、個別の重要案件又は大口案件については理事会において対応方針を決定しています。また、通常の貸出取引については、本店に審査部を設置し各支店と連携を図りながら、与信審査を行っています。審査にあたっては、取引先のキャッシュ・フローなどにより償還能力の評価を行うとともに、担保評価基準など厳格な審査基準を設けて、与信判定を行っています。貸出取引において資産の健全性の維持・向上を図るため、資産の自己査定を厳正に行っています。不良債権については管理・回収方針を作成・実践し、資産の健全化に取組んでいます。

また、資産自己査定の結果、貸倒引当金については「資産の償却・引当規程」に基づき必要額を計上し、資産及び財務の健全化に努めています。

イ. 市場リスクの管理

当組合では、金利リスク、価格変動リスクなどの市場性リスクを的確にコントロールすることにより、収益化及び財務の安定化を図っています。このため、財務の健全性維持と収益力強化とのバランスを重視したALMを基本に、資産・負債の金利感応度分析などを実施し、金融情勢の変化に機敏に対応できる柔軟な財務構造の構築に努めています。

2022年度

ては施設単位でグルーピングをしています。また、本店、営農センター、乾燥施設、越前たけふファーム関係については、独立したキャッシュ・フローを生み出さないものの、他の資産グループのキャッシュ・フローの生成に寄与していることから、JA全体の共用資産としています。

②減損損失を認識した資産又は資産グループの概要並びに減損損失の金額及びその内訳

当年度に減損損失を計上した固定資産は、以下のとおりです。
(単位：千円)

場所	用途	種類	金額	その他
旧 味真野 事務所	不稼働 資産	土 地 建 物 構築物 その 他 (合計)	9,164 13,259 56 8,930 31,411	業務外 固定資 産

③減損損失を認識するに至った経緯

旧味真野事務所の資産は、2023年度の廃止に伴い減損の兆候に該当し、処分可能価額で評価しその差額を減損損失として認識しました。

④回収可能価額の算定方法

旧味真野事務所土地の回収可能価額は正味売却価額を採用しており、その時価は固定資産税評価額に基づき算定しています。

6. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

①金融商品に対する取組み方針

当組合は農家組合員や地域から預かった貯金を原資に、農家組合員や地方公共団体などへ貸付け、残った余裕金を福井県信用農業協同組合連合会等へ預けている。

②金融商品の内容及びそのリスク

当組合が保有する金融資産は、主として当組合管内の組合員等に対する貸出金であり、貸出金は組合員等の契約不履行によってもたらされる信用リスクに晒されています。

③金融商品に係るリスク管理体制

ア. 信用リスクの管理

当組合は、個別の重要案件又は大口案件については理事会において対応方針を決定しています。また、通常の貸出取引については、本店に審査部を設置し各支店と連携を図りながら、与信審査を行っています。審査にあたっては、取引先のキャッシュ・フローなどにより償還能力の評価を行うとともに、担保評価基準など厳格な審査基準を設けて、与信判定を行っています。貸出取引において資産の健全性の維持・向上を図るため、資産の自己査定を厳正に行っています。不良債権については管理・回収方針を作成・実践し、資産の健全化に取組んでいます。

また、資産自己査定の結果、貸倒引当金については「資産の償却・引当規程」に基づき必要額を計上し、資産及び財務の健全化に努めています。

イ. 市場リスクの管理

当組合では、金利リスク、価格変動リスクなどの市場性リスクを的確にコントロールすることにより、収益化及び財務の安定化を図っています。このため、財務の健全性維持と収益力強化とのバランスを重視したALMを基本に、資産・負債の金利感応度分析などを実施し、金融情勢の変化に機敏に対応できる柔軟な財務構造の構築に努めています。

2023年度

とりわけ、有価証券運用については、市場動向や経済見通しなどの投資環境分析及び当組合の保有有価証券ポートフォリオの状況やALMなどを考慮し、理事会において運用方針を定めるとともに、経営層で構成するALM委員会を定期的に開催して、日常的な情報交換及び意思決定を行っています。運用部門は、理事会で決定した運用方針及びALM委員会で決定された方針などに基づき、有価証券の売買やリスクヘッジを行っています。運用部門が行った取引についてはリスク管理部門が適切な執行を行っているかどうかチェックし定期的にリスク量の測定を行い経営層に報告しています。

(市場リスクに係る定量的情報)

当組合で保有している金融商品はすべてトレーディング目的以外の金融商品です。当組合において、主要なリスク変数である金利リスクの影響を受ける主たる金融商品は、預金、貸出金、貯金、有価証券です。

当組合では、これらの金融資産及び金融負債について、期末後1年程度の金利の合理的な予想変動幅を用いた経済価値の変動額を、金利の変動リスクの管理にあたっての定量的分析に利用しています。

金利以外のすべてのリスク変数が一定であると仮定し、当年度末現在、指標となる金利が0.1%上昇したものと想定した場合には、経済価値が150,373千円減少するものと把握しています。

当該変動額は、金利を除くリスク変数が一定の場合を前提としており、金利とその他のリスク変数の相関を考慮していません。

また、金利の合理的な予想変動幅を超える変動が生じた場合には、算定額を超える影響が生じる可能性があります。

なお、経済価値変動額の計算において、分割実行案件に係る未実行金額についても含めて計算しています。

ウ. 資金調達に係る流動性リスクの管理

当組合では、資金繰りリスクについては、運用・調達について資金計画を作成し、安定的な流動性の確保に努めています。また、市場流動性リスクについては、投資判断を行う上での重要な要素と位置付け、商品ごとに異なる流動性（換金性）を把握したうえで、運用方針などの策定の際に検討を行っています。

④金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価（時価に代わるものも含む）には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額（これに準ずる価額を含む）が含まれています。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

①金融商品の貸借対照表計上額および時価等

当年度末における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりです。

なお、市場価値のない株式等は、次表には含めておりません。

2022年度

(市場リスクに係る定量的情報)

当組合で保有している金融商品はすべてトレーディング目的以外の金融商品です。当組合において、主要なリスク変数である金利リスクの影響を受ける主たる金融商品は、預金、貸出金、貯金です。

当組合では、これらの金融資産及び金融負債について、期末後1年程度の金利の合理的な予想変動幅を用いた経済価値の変動額を、金利の変動リスクの管理にあたっての定量的分析に利用しています。

金利以外のすべてのリスク変数が一定であると仮定し、当年度末現在、指標となる金利が0.1%上昇したものと想定した場合には、経済価値が155,912千円減少するものと把握しています。

当該変動額は、金利を除くリスク変数が一定の場合を前提としており、金利とその他のリスク変数の相関を考慮していません。

また、金利の合理的な予想変動幅を超える変動が生じた場合には、算定額を超える影響が生じる可能性があります。

なお、経済価値変動額の計算において、分割実行案件に係る未実行金額についても含めて計算しています。

ウ. 資金調達に係る流動性リスクの管理

当組合では、資金繰りリスクについては、運用・調達について資金計画を作成し、安定的な流動性の確保に努めています。また、市場流動性リスクについては、投資判断を行う上での重要な要素と位置付け、商品ごとに異なる流動性（換金性）を把握したうえで、運用方針などの策定の際に検討を行っています。

④金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価（時価に代わるものも含む）には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額（これに準ずる価額を含む）が含まれています。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

①金融商品の貸借対照表計上額および時価等

当年度末における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりです。

なお、市場価値のない株式等は、次表には含めておりません。

2023年度

(単位：千円)

	貸借対照表 計上額	時 価	差 額
預 金	91,523,922	91,368,764	△155,158
有価証券	10,000	10,061	61
満期保有目的有価証券	10,000	10,061	61
貸出金	30,555,710		
貸倒引当金(*1)	△25,801		
貸倒引当金控除後	30,529,908	30,016,661	△513,247
資 産 計	122,063,831	121,395,486	△668,344
貯 金	123,272,172	123,224,069	△48,103
設備借入金	86,400	86,039	△360
負 債 計	123,358,572	123,310,108	△48,463

(*1) 貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しています。

②金融商品の時価の算定に用いた評価技法の説明
【資産】

ア. 預金

満期のない預金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっています。満期のある預金については、期間に基づく区分ごとに、リスクフリーレートである翌日物金利スワップ(Overnight Index Swap 以下OISという)のレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

イ. 有価証券

有価証券について、主に国債については、活発な市場における無調整の相場価格を利用してしています。地方債については、公表された相場価格を用いています。

ウ. 貸出金

貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異なっていない限り、時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額によっています。

一方、固定金利によるものは、貸出金の種類及び期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額をリスクフリーレートであるOISのレートで割り引いた額から貸倒引当金を控除して時価に代わる金額として算定しています。

また、延滞の生じている債権・期限の利益を喪失した債権等について、帳簿価額から貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額としています。

【負債】

ア. 貯金

要求払貯金については、決算日に要求された場合の支払額(帳簿価額)を時価とみなしています。

また、定期性貯金については、期間に基づく区分ごとに、将来のキャッシュ・フローをリスクフリーレートであるOISのレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

イ. 設備借入金

固定金利によるものは、一定の期間ごとに区分した当該借入金の元利金の合計額をリスクフリーレートであるOISのレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

③市場価格のない株式等は次のとおりであり、これらは①の金融商品の時価情報には含まれていません。

種 類	貸借対照表計上額
外部出資	4,714,744

(*1) 外部出資のうち、市場において取引されていない株式や出資金等については、「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号2019年7月4日)第5項に基づき、時価開示の対象とはしておりません。

2022年度

(単位：千円)

	貸借対照表 計上額	時 価	差 額
預 金	94,020,728	94,068,739	48,011
貸出金	29,327,590		
貸倒引当金(*1)	△18,085		
貸倒引当金控除後	29,309,504	29,313,794	4,290
資 産 計	123,330,232	123,382,534	52,301
貯 金	124,720,025	124,717,635	△2,389
設備借入金	108,000	107,827	△172
負 債 計	124,828,025	124,825,462	△2,562

(*1) 貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しています。

②金融商品の時価の算定に用いた評価技法の説明
【資産】

ア. 預金

満期のない預金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっています。満期のある預金については、期間に基づく区分ごとに、リスクフリーレートである翌日物金利スワップ(Overnight Index Swap 以下OISという)のレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

イ. 貸出金

貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異なっていない限り、時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額によっています。

一方、固定金利によるものは、貸出金の種類及び期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額をリスクフリーレートであるOISのレートで割り引いた額から貸倒引当金を控除して時価に代わる金額として算定しています。

また、延滞の生じている債権・期限の利益を喪失した債権等について、帳簿価額から貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額としています。

【負債】

ア. 貯金

要求払貯金については、決算日に要求された場合の支払額(帳簿価額)を時価とみなしています。

また、定期性貯金については、期間に基づく区分ごとに、将来のキャッシュ・フローをリスクフリーレートであるOISのレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

イ. 設備借入金

固定金利によるものは、一定の期間ごとに区分した当該借入金の元利金の合計額をリスクフリーレートであるOISのレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

③市場価格のない株式等は次のとおりであり、これらは①の金融商品の時価情報には含まれていません。

種 類	貸借対照表計上額
外部出資	4,714,744

(*1) 外部出資のうち、市場において取引されていない株式や出資金等については、「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号2019年7月4日)第5項に基づき、時価開示の対象とはしておりません。

2023年度

④金銭債権の決算日後の償還予定額 (単位:千円)

種類	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内
預金	88,023,922	—	—
有価証券	—	—	—
満期保有目的債権	—	—	—
貸出金 (*1, 2)	3,643,989	2,546,530	2,461,251
合計	91,667,911	2,546,530	2,461,251
種類	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
預金	—	—	3,500,000
有価証券	—	—	10,000
満期保有目的債権	—	—	10,000
貸出金 (*1, 2)	2,334,610	2,253,582	17,300,986
合計	2,334,610	2,253,582	20,810,986

(*1) 貸出金のうち、当座貸越485,261千円については「1年以内」に含めています。

(*2) 貸出金のうち、三月以上延滞が生じている債権・期限の利益を喪失した債権等16,213千円は償還の予定が見込まれないため、含めいません。

⑤有利子負債の決算日後の返済予定額 (単位:千円)

種類	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内
貯金(*1)	118,545,619	3,606,755	861,208
設備借入金	21,600	21,600	21,600
合計	118,567,219	3,628,355	882,808
種類	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
貯金(*1)	162,430	86,900	9,257
設備借入金	21,600	—	—
合計	184,030	86,900	9,257

(*1) 貯金のうち、要求払い貯金については「1年以内」に含めています。

6. 有価証券に関する注記

(1) 有価証券の時価、評価差額に関する事項

①満期保有目的の債券

満期保有の債券において、種類ごとの貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。

(単位:千円)

種類	貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	地方債	10,000	10,061
	小計	10,000	10,061
合計	10,000	10,061	61

7. 退職給付に関する注記

(1) 採用している退職給付制度の概要

職員の退職給付に充てるため、退職給付規程に基づき、退職一時金制度を採用しています。また、この制度に加え、りそな銀行等との契約に基づく確定給付型年金制度及び(一財)全国農林漁業団体共済会との契約に基づく退職金共済制度を採用しています。退職金共済制度の積立額は41,513千円です。

2022年度

④金銭債権の決算日後の償還予定額

(単位:千円)

種類	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内
預金	90,520,728	—	—
貸出金 (*1, 2)	2,685,720	2,730,102	2,523,949
合計	93,206,448	2,730,102	2,523,949
種類	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
預金	—	—	3,500,000
貸出金 (*1, 2)	2,409,278	2,240,722	16,721,602
合計	2,409,278	2,240,722	20,221,602

(*1) 貸出金のうち、当座貸越304,390千円については「1年以内」に含めています。

(*2) 貸出金のうち、三月以上延滞が生じている債権・期限の利益を喪失した債権等16,213千円は償還の予定が見込まれないため、含めいません。

⑤有利子負債の決算日後の返済予定額

(単位:千円)

種類	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内
貯金(*1)	118,456,133	4,567,097	1,411,118
設備借入金	21,600	21,600	21,600
合計	118,477,733	4,588,697	1,432,718
種類	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
貯金(*1)	168,175	101,523	15,977
設備借入金	21,600	21,600	—
合計	189,775	123,123	15,977

(*1) 貯金のうち、要求払い貯金については「1年以内」に含めています。

7. 退職給付に関する注記

(1) 採用している退職給付制度の概要

職員の退職給付に充てるため、退職給付規程に基づき、退職一時金制度を採用しています。また、この制度に加え、りそな銀行等との契約に基づく確定給付型年金制度及び(一財)全国農林漁業団体共済会との契約に基づく退職金共済制度を採用しています。退職金共済制度の積立額は46,859千円です。

2023年度

なお、退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しています。

(2) 退職給付引当金及び前払年金費用の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職給付引当金	42,981千円
期首における前払年金費用	△ 526,683千円
純額（期首）	△ 483,702千円
退職給付費用	△ 91,064千円
退職給付の支払額	△ 8,171千円
確定給付型年金制度への拠出金	△ 41,501千円
純額（期末）	△ 624,440千円

期末における退職給付引当金	33,352千円
期末における前払年金費用	△ 657,792千円

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び

前払年金費用の調整表

退職給付債務	813,802千円
年金資産	△ 1,438,242千円
未積立退職給付債務	△ 624,440千円

退職給付引当金	33,352千円
前払年金費用	△ 657,792千円

(4) 退職給付に関連する損益

勤務費用	△ 91,064千円
出向分組入	△ 10,525千円
割増退職金支払額等	23,436千円
退職給付費用	△ 57,102千円

(5) 特例業務負担金の将来見込額

人件費（うち法定福利費）には、厚生年金保険制度及び農林漁業団体職員共済組合制度の統合を図るために農林漁業団体職員共済組合法等を廃止する等の法律附則第57条に基づき、旧農林共済組合（存続組合）が行う特例年金等の業務に要する費用に充てるため拠出した特例業務負担金 14,418千円を含めて計上しています。

なお、同組合より示された2024年3月現在における2032年3月までの特例業務負担金の将来見込額は、84,673千円となっています。

8. 税効果会計に関する注記

(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生原因別の主な内訳等

繰延税金資産	
退職給付引当金	9,225千円
賞与引当金	10,296千円
貸倒引当金	20,426千円
無形固定資産	9,374千円
棚卸資産	6,627千円
減価償却費	9,711千円
減損損失（土地）	61,795千円
その他	14,714千円
繰延税金資産小計	142,171千円
評価性引当額	△ 107,865千円
繰延税金資産合計（A）	34,306千円
繰延税金負債	
前払年金費用	△ 181,945千円
繰延税金負債合計（B）	△ 181,945千円
繰延税金負債の純額（A）+（B）	△ 147,639千円

2022年度

なお、退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しています。

(2) 退職給付引当金及び前払年金費用の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職給付引当金	48,583千円
期首における前払年金費用	△ 568,898千円
純額（期首）	△ 520,315千円
退職給付費用	90,117千円
退職給付の支払額	△ 5,769千円
確定給付型年金制度への拠出金	△ 47,735千円
純額（期末）	△ 483,702千円

期末における退職給付引当金	42,981千円
期末における前払年金費用	△ 526,683千円

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び

前払年金費用の調整表

退職給付債務	904,251千円
年金資産	△ 1,387,953千円
未積立退職給付債務	△ 483,702千円

退職給付引当金	42,981千円
前払年金費用	△ 526,683千円

(4) 退職給付に関連する損益

勤務費用	90,117千円
出向分組入	△ 10,888千円
割増退職金支払額等	10,114千円
退職給付費用	89,343千円

(5) 特例業務負担金の将来見込額

人件費（うち法定福利費）には、厚生年金保険制度及び農林漁業団体職員共済組合制度の統合を図るために農林漁業団体職員共済組合法等を廃止する等の法律附則第57条に基づき、旧農林共済組合（存続組合）が行う特例年金等の業務に要する費用に充てるため拠出した特例業務負担金 14,524千円を含めて計上しています。

なお、同組合より示された2023年3月現在における2032年3月までの特例業務負担金の将来見込額は、101,130千円となっています。

8. 税効果会計に関する注記

(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生原因別の主な内訳等

繰延税金資産	
退職給付引当金	11,888千円
賞与引当金	10,821千円
貸倒引当金	18,287千円
無形固定資産	9,374千円
棚卸資産	6,627千円
減価償却費	9,573千円
減損損失（土地）	61,795千円
未払費用（解体費用）	5,967千円
その他	9,842千円
繰延税金資産小計	144,177千円
評価性引当額	△ 88,911千円
繰延税金資産合計（A）	55,265千円
繰延税金負債	
前払年金費用	△ 145,680千円
繰延税金負債合計（B）	△ 145,680千円
繰延税金負債の純額（A）+（B）	△ 90,414千円

2023年度

(2) 法定実効税率と法人税等負担率との差異の主な原因

法定実効税率 (調整)	27.66 %
交際費等永久に損金に算入されない項目	2.37 %
受取出資配当等の益金に算入されない項目	△ 2.95 %
事業分量配当	△ 10.24 %
住民税均等割	1.17 %
評価性引当額の増減	7.08 %
その他	0.89 %
税効果会計適用後の法人税等の負担率	25.98 %

2022年度

(2) 法定実効税率と法人税等負担率との差異の主な原因

法定実効税率 (調整)	27.66 %
交際費等永久に損金に算入されない項目	2.49 %
事業分量配当	△ 5.33 %
住民税均等割	1.26 %
評価性引当額の増減	△ 5.31 %
その他	△ 1.47 %
税効果会計適用後の法人税等の負担率	19.30 %

9. 貸貸等不動産に関する注記

当組合では、越前市、南越前町において保有する土地及び建物を賃貸の用に供しています。2022年度における当該賃貸不動産に関する賃貸損益は26,771千円（賃貸収益は賃貸料に、主な費用は賃貸費用に計上）です。

また、当該賃貸等不動産の貸借対照表計上額、当期増減額及び時価は、次のとおりです。

（単位：千円）

貸借対照表計上額			当年度末 の時価
当年度期首残高	当年度増減額	当年度末残高	
1,548,207	△6,656	1,541,551	1,192,472

（注1）貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額です。

（注2）当年度末の時価は、主として固定資産税評価額または路線価に基づいて、当組合で算定した金額です。

10. 収益認識に関する注記

(1) 収益を理解するための基礎となる情報

「1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記」の「（5）収益及び費用の計上基準」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

9. 貸貸等不動産に関する注記

当組合では、越前市、南越前町において保有する土地及び建物を賃貸の用に供しています。2022年度における当該賃貸不動産に関する賃貸損益は26,771千円（賃貸収益は賃貸料に、主な費用は賃貸費用に計上）です。

また、当該賃貸等不動産の貸借対照表計上額、当期増減額及び時価は、次のとおりです。

（単位：千円）

貸借対照表計上額			当年度末 の時価
当年度期首残高	当年度増減額	当年度末残高	
1,557,290	△9,083	1,548,207	1,207,599

（注1）貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額です。

（注2）当年度末の時価は、主として固定資産税評価額または路線価に基づいて、当組合で算定した金額です。

10. 収益認識に関する注記

(1) 収益を理解するための基礎となる情報

「1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記」の「（5）収益及び費用の計上基準」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

4. 剰余金処分計算書

(単位：千円)

科 目	2023年度	2022年度
1 当期末処分剰余金	1,221,856,778	1,173,272,355
2 任意積立金取崩額	34,827,281	40,924,952
固定資産減損対策積立金	13,867,635	31,411,191
リスク管理対策積立金	20,959,646	9,513,761
3 剰余金処分額	224,570,465	184,338,741
(1) 利益準備金	60,000,000	50,000,000
(2) 任意積立金	40,924,952	40,924,952
うち固定資産減損対策積立金	13,867,635	31,411,191
うちリスク管理対策積立金	20,959,646	9,513,761
(3) 出資配当金	30,669,117	37,956,645
普通出資に対する配当金	30,669,117	37,956,645
(4) 特別利用高配当金	99,074,067	55,457,144
4 次期繰越剰余金	997,286,313	988,933,614

(注) 1. 普通出資に対する配当の割合は、次のとおりです。

- ・2023年度 1.00%
- ・2022年度 (15カ月分) 1.25%

2. 事業分量配当金の基準は、次のとおりです。

- ・2023年度
2023年産集荷主食用米のうち、いちはまれ以外の全品種に対して税込1,000円／60kg です。
- ・2022年度
2022年集荷主食用米のうち、ハナエチゼンに対して税込700円／60kg、ハナエチゼン以外の全品種（いちはまれ、省農薬あきさかりを除く）に対して、税込500円／60kg です。

3. 目的積立金の種類、積立目的、積立目標額、期末残高は次のとおりです。

(単位：千円)

種 類	目 的	目標額	2023年度	2022年度
農業・生活関連施設積立金	農業、生活関連施設の取得	3億円	125,039	125,039
固定資産減損対策積立金	固定資産減損会計対策	8億円	768,132	768,588
I T関連施設積立金	I T関連施設の取得	3億円	20,000	20,000
リスク管理対策積立金	リスク管理の対策	3億円	279,040	290,486

4. 目的積立金の積立基準は、次の通りです。

- (1) 処分対象剰余金から利益準備金、次期繰越剰余金及び配当予定額を控除した後、繰延税金資産相当額が増加した場合は、税効果相当額は必ず積立てるものとする。
- (2) 前項の積立後に、積立目標額まで積立てるものとする。

5. 次期繰越剰余金には、営農指導、生活・文化改善事業の費用に充てるための繰越額が含まれています。

2023年度 9,904千円 2022年度 11,611千円

5. 部門別損益計算書

[2023年度]

(2023年4月1日～2024年3月31日)

(単位：千円)

区分	計	信用事業	共済事業	農業関連事業	生活その他事業	営農指導事業	共通管理費等
事業収益 ①	1,596,189	797,261	591,298	181,432	15,660	10,536	
事業費用 ②	393,345	197,510	41,003	114,564	11,059	29,208	
事業総利益③ (①-②) ③	1,202,843	599,750	550,295	66,868	4,600	△ 18,672	
事業管理費 ④	1,020,815	446,793	415,475	79,073	38,649	40,823	
(うち減価償却費) ⑤	(76,421)	(34,036)	(24,183)	(1,097)	(4,650)	(12,453)	
(うち人件費) ⑥	(686,732)	(296,873)	(285,013)	(44,580)	(32,548)	(27,716)	
※うち共通管理費 ⑦		211,830	198,470	20,000	8,177	10,044	△ 448,523
(うち減価償却費) ⑧		(24,134)	(24,134)	(1,097)	(1,491)	(3,993)	(△ 54,852)
(うち人件費) ⑨		(71,817)	(68,057)	(8,494)	(4,753)	(4,106)	(△ 157,229)
事業利益⑩ (③-④) ⑩	182,028	152,957	134,820	△12,205	△34,048	△59,495	
事業外収益 ⑪	205,323	78,369	59,328	44,162	8,420	15,042	
※うち共通分 ⑫		78,369	59,328	44,162	8,420	15,042	△ 205,323
事業外費用 ⑬	103,606	39,545	29,937	22,284	4,249	7,590	
※うち共通分 ⑭		39,545	29,937	22,284	4,249	7,590	△ 103,606
経常利益 (⑩+⑪-⑬) ⑮	283,744	191,781	164,211	9,673	△29,877	△52,043	
特別利益 ⑯	148,190	56,562	42,189	31,874	6,077	10,856	
※うち共通分 ⑰		56,562	42,189	31,874	6,077	10,856	△ 148,190
特別損失 ⑱	164,296	62,710	47,473	35,338	6,738	12,036	
※うち共通分 ⑲		62,710	47,473	35,338	6,738	12,036	△ 164,296
税引前当期利益 (⑮+⑯-⑱) ⑳	267,637	185,633	159,557	6,208	△30,537	△53,223	
営農指導事業分配賦額 A		10,644	10,644	21,289	10,644	△53,223	
営農指導事業分配賦後税引前当期利益 B (⑳-A)	267,637	174,988	148,912	△15,080	△41,182		

1. 共通管理費等及び営農指導事業の他部門への配賦基準等

(1) 共通管理費等

下記A～Eの比率を求め、各項目毎に各部門へ配賦する。

- 部門別事業管理費比率（人件費除く）
- 部門別職員数比率
- 部門別事業損益比率
- ((A～C比率合計) / 3) の比率
- 部門別事務所利用割合

○共通管理費	○事業外収益の共通部分
I. 人件費 = $(B + C) / 2$ の比率	Dの比率
II. 業務費 = C の比率	○事業外費用の共通部分
III. 施設費 = $(B \times 0.3 + C \times 0.7)$ の比率	Dの比率
IV. 減価償却費 = E の比率	○特別利益の共通部分
V. 旅費・雑費 = D の比率	Dの比率
I ~ V の合計を管理部費として各部門に配賦する。	○特別損失の共通部分
	Dの比率

(2) 営農指導事業

営農指導事業の各部門に対する貢献度合いに応じ、事業における損益を各部門に配賦する。

2. 配賦割合（1の配賦基準で算出した配賦の割合）は、次のとおりです。

区分	信用事業	共済事業	農業関連事業	生活その他事業	営農指導事業	計
共通管理費	47.3%	44.2%	4.5%	1.8%	2.2%	100.0%
(事業外収益の共通分)	38.2%	28.9%	21.5%	4.1%	7.3%	100.0%
(事業外費用の共通分)	38.2%	28.9%	21.5%	4.1%	7.3%	100.0%
(特別利益の共通分)	38.2%	28.9%	21.5%	4.1%	7.3%	100.0%
(特別損失の共通分)	38.2%	28.9%	21.5%	4.1%	7.3%	100.0%
営農指導事業	20.0%	20.0%	40.0%	20.0%		100.0%

3. 予算統制の状況

区分	当初予算額	修正額	修正後予算額c	決算額d	差引(c-d)
事業管理費	1,154,013	—	1,154,013	1,020,815	133,197
営農指導事業 収入 a	4,112	—	4,112	9,548	△ 5,436
支出 b	26,925	—	26,925	29,208	△ 2,283
差引 (a-b)	△ 22,813	—	△ 22,813	△ 19,659	△ 3,153

4. 専属事業損益の内訳

区分	信用事業	共済事業	農業関連事業	生活その他事業	営農指導事業
経常利益 a (⑮の額)	191,781	164,211	9,673	△ 29,877	△ 52,043
減価償却費 b (⑤-⑧)	9,901	48	—	3,159	8,459
共通管理費等 c (⑦-⑫+⑭)	173,006	169,079	△ 1,878	4,005	2,592
専属事業損益 a+b+c	374,688	333,340	7,795	△ 22,713	△ 40,991

[2022年度]
(2022年4月1日～2023年3月31日)

(単位：千円)

区分	計	信用事業	共済事業	農業関連事業	生活その他事業	営農指導事業	共通管理費等
事業収益 ①	1,669,082	808,801	656,450	178,145	15,910	9,773	
事業費用 ②	327,900	182,907	43,193	62,978	10,574	28,245	
事業総利益③ (①-②) ③	1,341,182	625,894	613,257	115,167	5,336	△ 18,472	
事業管理費 ④	1,193,315	510,490	492,907	97,125	35,567	57,224	
(うち減価償却費) ⑤	(66,408)	(27,783)	(20,681)	(937)	(4,331)	(12,674)	
(うち人件費) ⑥	(873,732)	(375,823)	(366,147)	(58,059)	(30,281)	(43,420)	
※うち共通管理費 ⑦		209,294	206,633	29,632	6,037	10,910	△ 462,508
(うち減価償却費) ⑧		(20,632)	(20,632)	(937)	(1,194)	(3,494)	(△ 46,891)
(うち人件費) ⑨		(81,784)	(79,922)	(11,198)	(3,437)	(4,965)	(△ 181,307)
事業利益⑩ (③-④) ⑩	147,867	115,403	120,350	18,041	△ 30,231	△ 75,696	
事業外収益 ⑪	195,903	71,088	57,654	43,168	7,045	16,946	
※うち共通分 ⑫		71,088	57,654	43,168	7,045	16,946	△ 195,903
事業外費用 ⑬	106,846	38,772	31,444	23,544	3,842	9,242	
※うち共通分 ⑭		38,772	31,444	23,544	3,842	9,242	△ 106,846
経常利益 (⑩+⑪-⑬) ⑮	236,924	147,719	146,559	37,665	△ 27,028	△ 67,992	
特別利益 ⑯	91,880	33,341	27,040	20,246	3,304	7,948	
※うち共通分 ⑰		33,341	27,040	20,246	3,304	7,948	△ 91,880
特別損失 ⑱	41,050	14,896	12,081	9,045	1,476	3,551	
※うち共通分 ⑲		14,896	12,081	9,045	1,476	3,551	△ 41,050
税引前当期利益 (⑮+⑯-⑱) ⑳	287,753	166,164	161,518	48,866	△ 25,200	△ 63,595	
営農指導事業分配賦額 A		12,719	12,719	25,438	12,719	△ 63,595	
営農指導事業分配賦 後税引前当期利益 B (⑳-A)	287,753	153,445	148,799	23,428	△ 37,919		

1. 共通管理費等及び営農指導事業の他部門への配賦基準等

(1) 共通管理費等

下記A～Eの比率を求め、各項目毎に各部門へ配賦する。

- 部門別事業管理費比率（人件費除く）
- 部門別職員数比率
- 部門別事業損益比率
- ((A～C比率合計) / 3) の比率
- 部門別事務所利用割合

○共通管理費	○事業外収益の共通部分
I. 人件費 = $(B + C) / 2$ の比率	Dの比率
II. 業務費 = C の比率	○事業外費用の共通部分
III. 施設費 = $(B \times 0.3 + C \times 0.7)$ の比率	Dの比率
IV. 減価償却費 = E の比率	○特別利益の共通部分
V. 旅費・雑費 = D の比率	Dの比率
I ~ V の合計を管理部費として各部門に配賦する。	○特別損失の共通部分
	Dの比率

(2) 営農指導事業

営農指導事業の各部門に対する貢献度合いに応じ、事業における損益を各部門に配賦する。

2. 配賦割合（1の配賦基準で算出した配賦の割合）は、次のとおりです。

区分	信用事業	共済事業	農業関連事業	生活その他事業	営農指導事業	計
共通管理費	45.2%	44.7%	6.4%	1.3%	2.4%	100.0%
(事業外収益の共通分)	36.2%	29.4%	22.0%	3.6%	8.8%	100.0%
(事業外費用の共通分)	36.2%	29.4%	22.0%	3.6%	8.8%	100.0%
(特別利益の共通分)	36.2%	29.4%	22.0%	3.6%	8.8%	100.0%
(特別損失の共通分)	36.2%	29.4%	22.0%	3.6%	8.8%	100.0%
営農指導事業	20.0%	20.0%	40.0%	20.0%		100.0%

3. 予算統制の状況

区分	当初予算額	修正額	修正後予算額c	決算額d	差引(c-d)
事業管理費	1,147,188	—	1,147,188	1,193,315	△ 46,127
営農指導事業 収入 a	2,349	—	2,349	9,773	△ 7,424
支出 b	25,193	—	25,193	28,245	△ 3,053
差引 (a-b)	△ 22,844	—	△ 22,844	△ 18,472	△ 4,371

4. 専属事業損益の内訳

区分	信用事業	共済事業	農業関連事業	生活その他事業	営農指導事業
経常利益 a (⑮の額)	147,719	146,559	37,665	△ 27,028	△ 67,992
減価償却費 b (⑤-⑧)	7,151	48	—	3,137	9,179
共通管理費等 c (⑦-⑫+⑭)	176,978	180,424	10,007	2,834	3,206
専属事業損益 a+b+c	331,849	327,032	47,673	△ 21,056	△ 55,606

1. 最近の5事業年度の主要な経営指標

(単位:千円、口、人、%)

項目	2023年度	2022年度	2022年度 (1~3月)	2021年度	2020年度
経常収益(事業収益)	1,596,189	1,669,082	430,977	1,929,594	2,104,766
信用事業収益	797,261	808,801	231,441	865,021	925,553
共済事業収益	591,298	656,450	175,529	706,265	704,237
農業関連事業収益	181,432	178,145	19,276	311,994	449,118
その他事業収益	26,196	25,683	4,731	46,312	25,855
経常利益	283,744	236,924	63,998	241,644	230,895
当期剰余金	198,095	232,217	15,033	211,095	210,370
出資金	3,168,360	3,106,445	3,029,275	3,000,650	2,970,445
(出資口数)	(633,672)	(621,289)	(605,855)	(600,130)	(594,089)
純資産額	7,886,402	7,736,670	7,480,709	7,530,004	7,374,080
総資産額	133,155,669	134,457,824	135,248,664	137,468,666	136,325,239
貯金等残高	123,272,172	124,720,025	125,994,784	128,802,241	127,561,118
貸出金残高	30,555,710	29,327,590	28,495,586	27,426,568	24,526,545
有価証券残高	10,000	—	—	—	—
剰余金配当金額	129,743	93,413	42,460	102,078	90,060
出資配当額	30,669	37,956	—	29,483	28,725
特別利用高配当額	99,074	55,457	42,460	72,595	61,335
職員数(うち常勤含む)	135	145	161	170	181
単体自己資本比率	17.05%	16.90%	16.12%	15.27%	14.77%

- (注) 1. 経常収益は各事業収益の合計額を表しています。
 2. 当期剰余金は、銀行等の当期利益に相当するものです。
 3. 信託業務の取り扱いは行っていません。
 4. 「単体自己資本比率」は、「農業協同組合等がその経営の健全性を判断するための基準」
 (2006年金融庁・農水省告示第2号)に基づき算出しています。

2. 利益総括表

(単位:千円、%)

項目	2023年度	2022年度	増減
資金運用収支	696,703	693,735	2,968
役務取引等収支	26,199	23,795	2,404
その他信用事業収支	△ 123,151	△ 91,637	△ 31,514
信用事業粗利益	722,902	717,532	5,370
(信用事業粗利益率)	(0.47)	(0.49)	(△ 0.02)
事業粗利益	1,331,350	1,389,562	△ 58,212
(事業粗利益率)	(1.00)	(1.03)	(△ 0.03)
事業純益	310,535	196,247	114,288
実質事業純益	310,535	196,247	114,288
コア事業純益	310,535	196,247	114,288
コア事業純益 (投資信託解約損益を除く)	310,535	196,247	114,288

3. 資金運用収支の内訳

(単位：千円、%)

項目	2023年度			2022年度		
	平均残高	利息	利回	平均残高	利息	利回
資金運用勘定	125,749,684	727,783	0.58	126,699,248	731,186	0.58
うち預金	96,118,872	537,597	0.56	97,442,167	550,288	0.56
うち有価証券	4,672	30	0.64	—	—	—
うち貸出金	29,626,140	190,155	0.64	29,257,081	180,898	0.62
資金調達勘定	128,111,390	26,624	0.02	129,360,787	33,603	0.03
うち貯金・定期積金	128,018,499	26,475	0.02	129,246,278	33,420	0.03
うち借入金	92,891	149	0.16	114,509	183	0.16
総資金利ざや	—	—	0.55	—	—	0.55

(注) 1. 総資金利ざや=資金運用利回り-資金調達原価率(資金調達利回り+経費率)
 2. 資金運用勘定の利息欄の預金には、信連からの事業利用分量配当金、奨励金が含まれています。

4. 受取・支払利息の増減額

(単位：千円)

項目	2023年度増減額	2022年度増減額
受取利息	△ 3,403	572,816
うち預金	△ 12,691	433,056
うち有価証券	30	—
うち貸出金	9,257	139,760
支払利息	△ 6,979	24,139
うち貯金・定期積金	△ 6,945	24,007
うち借入金	△ 34	132
差引	3,576	548,677

(注) 1. 増減額は前年度対比です。
 2. 受取利息の預金には、信連からの事業利用分量配当金、奨励金が含まれています。

1. 信用事業

(1) 賟金に関する指標

①科目別貯金平均残高

(単位：千円、%)

種類	2023年度		2022年度		増減
流動性貯金	58,645,911	(45.8)	55,889,430	(43.2)	2,756,480
定期性貯金	69,357,240	(54.1)	73,348,514	(56.8)	△ 3,991,273
その他の貯金	14,086	(0.0)	6,918	(0.0)	7,167
計	128,017,237	(100.0)	129,244,863	(100.0)	△ 1,227,625
譲渡性貯金	-	(0.0)	-	(0.0)	-
合計	128,017,237	(100.0)	129,244,863	(100.0)	△ 1,227,625

(注) 1. 流動性貯金=当座貯金+普通貯金+貯蓄貯金+通知貯金

2. 定期性貯金=定期貯金+定期積金

3. () 内は構成比です。

②定期貯金残高（法定）

(単位：千円、%)

種類	2023年度		2022年度		増減
定期貯金	62,869,765	(98.2)	66,729,373	(100.0)	△ 3,859,608
うち固定金利定期	62,867,816	(99.9)	66,727,424	(100.0)	△ 3,859,608
うち変動金利定期	1,948	(0.0)	1,948	(0.0)	-

(注) 1. 固定金利定期：預入時に満期日までの利率が確定する定期貯金

2. 変動金利定期：預入期間中の市場金利の変化に応じて金利が変動する定期貯金

3. () 内は構成比です。

(2) 貸出金等に関する指標

①科目別貸出金平均残高

(単位：千円)

種類	2023年度		2022年度		増減
手形貸付金	2,000		4,441		△ 2,441
証書貸付金	26,306,449		26,414,120		△ 107,671
当座貸越	330,536		343,447		△ 12,910
割引手形	-		-		-
金融機関貸付	2,989,071		2,500,000		489,071
合計	29,628,056		29,262,009		366,047

②貸出金の金利条件別内訳残高

(単位：千円、%)

種類	2023年度		2022年度		増減
固定金利貸出	26,534,458	(86.8)	25,470,003	(86.8)	1,064,455
変動金利貸出	3,535,990	(11.5)	3,553,196	(12.1)	△ 17,205
その他金利貸出	485,261	(1.5)	304,390	(1.0)	180,870
合計	30,555,710	(100.0)	29,327,590	(100.0)	1,228,119

③貸出金の担保別内訳残高

(単位：千円)

種類	2023年度	2022年度	増減
貯金・定期積金等	167,019	182,199	△ 15,179
有価証券	-	-	-
動産	-	-	-
不動産	1,028,104	444,999	583,104
その他担保物	851,994	959,632	△ 107,637
小計	2,047,118	1,586,831	460,287
農業信用基金協会保証	6,374,187	6,284,778	89,409
その他保証	41,849	22,854	18,995
小計	6,416,036	6,307,632	108,404
信用	22,092,555	21,433,126	659,428
合計	30,555,710	29,327,590	1,228,119

④債務保証見返額の担保別内訳残高

(単位：千円)

種類	2023年度	2022年度	増減
貯金・定期積金等	-	-	-
有価証券	-	-	-
動産	-	-	-
不動産	-	-	-
その他担保物	-	-	-
小計	-	-	-
信用	-	-	-
合計	-	-	-

⑤貸出金の使途別内訳残高

(単位：千円、%)

種類	2023年度	2022年度	増減
設備資金	10,245,389	(33.5)	10,025,311
運転資金	20,310,320	(66.5)	19,302,278
合計	30,555,710	(100.0)	29,327,590

(注) () 内は構成比です。

⑥貸出金の業種別残高

(単位：千円、%)

種類	2023年度	2022年度	増減
農業	1,096,605	(4.1)	1,195,984
林業	15,496	(0.1)	15,440
水産業	-	(0.0)	912
製造業	1,702,400	(5.5)	1,642,652
鉱業	-	(0.0)	1,852
建設・不動産業	1,445,296	(4.6)	1,543,331
電気・ガス・熱供給水道業	61,546	(0.2)	69,554
運輸・通信業	194,837	(0.6)	171,114
金融・保険業	3,725,566	(12.1)	2,705,427
卸売・小売・サービス業・飲食業	1,463,347	(4.7)	1,269,477
地方公共団体	15,957,377	(52.2)	16,150,413
その他	4,893,235	(15.9)	4,561,429
合計	30,555,710	(100.0)	29,327,590

(注) () 内は構成比(貸出金全体に対する割合)です。

⑦主要な農業関係の貸出金残高

(i) 営農類型別

(単位：百万円)

種類	2023年度	2022年度	増減
農業	697	548	149
穀作	314	295	18
野菜・園芸	234	80	154
果樹・樹園農業	28	23	4
工芸作物	-	-	-
養豚・肉牛・酪農	17	10	6
養鶏・養卵	-	-	-
養蚕	-	-	-
その他農業	103	137	△ 33
農業関連団体等	-	-	-
合計	697	548	149

- (注) 1. 農業関係の貸出金とは、農業者、農業法人および農業関連団体等に対する農業生産・農業経営に必要な資金や、農産物の生産・加工・流通に関係する事業に必要な資金等が該当します。なお、上記⑥の貸出金の業種別残高の「農業」は、農業者や農業法人等に対する貸出金の残高です。
2. 「その他農業」には、複合経営で主たる業種が明確に位置づけられない者、農業サービス業、農業所得が從となる農業者等が含まれています。
3. 「農業関連団体等」には、JAや全農（経済連）とその子会社等が含まれます。

(ii) 資金種類別

[貸出金]

(単位：百万円)

種類	2023年度	2022年度	増減
プロパー資金	675	525	150
農業制度資金	22	22	△ 0
農業近代化資金	18	18	-
その他制度資金	4	4	△ 0
合計	697	548	149

- (注) 1. プロパー資金とは、当JA原資の資金を融資しているもののうち、制度資金以外のものをいいます。
2. 農業制度資金には、①地方公共団体が直接的または間接的に融資するもの、②地方公共団体が利子補給等を行うことでJAが低利で融資するもの、③日本政策金融公庫が直接融資するものがあり、ここでは①の転貸資金と②を対象としています。
3. その他制度資金には、農業経営改善促進資金（スーパーS資金）や農業経営負担軽減支援資金などが該当します。

[受託貸出金]

(単位：百万円)

種類	2023年度	2022年度	増減
日本政策金融公庫資金	-	-	-
その他	-	-	-
合計	-	-	-

- (注) 日本政策金融公庫は、農業（旧農林漁業金融公庫）にかかる資金をいいます。

⑧農協法に基づく開示債権の状況及び金融再生法開示債権区分に基づく債権の保全状況

(単位：千円、%)

債権区分	2023年度	2022年度
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	53,296	46,522
危険債権	103,905	117,622
要管理債権	4,856	10,222
三月以上延滞債権	4,856	10,222
貸出条件緩和債権	-	-
小計 (A)	162,057	174,367
保全額(合計) (B)	162,088	174,415
担保・保証	136,287	156,330
引当	25,801	18,085
保全率(B/A)	100.0	100.0
正常債権	30,427,870	29,171,402
合計	30,589,927	29,345,768

1. 破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始、更生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権をいいます。
2. 危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権をいいます。
3. 要管理債権とは、4. 「三月以上延滞債権」に該当する貸出金と5. 「貸出条件緩和債権」に該当する貸出金の合計額をいいます。
4. 三月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で、破綻更生債権及びこれらに準ずる債権および危険債権に該当しないものをいいます。
5. 貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で、破綻更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権及び三月以上延滞債権に該当しないものをいいます。
6. 正常債権とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、上記に掲げる債権以外のものに区分される債権をいいます。

⑨元本補てん契約のある信託に係る貸出金のリスク管理債権の状況

該当する取引はありません。

⑩貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額

(単位：千円)

区分		一般貸倒引当金	個別貸倒引当金	合計
2023年度	期首残高	51	66,114	66,166
	期中増加額	30	25,771	25,801
	期中減少額	-	-	-
	その他	51	18,037	18,089
期末残高		30	73,848	73,879
2022年度	期首残高	52	72,334	72,386
	期中増加額	51	18,037	18,088
	期中減少額	-	-	-
	その他	52	24,257	24,309
期末残高		51	66,114	66,165

⑪貸出金償却の額

(単位：千円)

項目	2023年度	2022年度
貸出金償却額	-	-

(3) 内国為替取扱実績

(単位：千件、千円)

種類	2023年度		2022年度	
	仕向	被仕向	仕向	被仕向
送金・振込為替	件数	24	139	23
	金額	15,867,002	32,771,184	15,279,978
代金取立為替	件数	-	-	0
	金額	-	-	3,680
雑為替	件数	0	0	0
	金額	97,316	1,102,825	97,939
合計	件数	24	139	24
	金額	15,964,319	33,874,010	15,381,599
				33,040,224

(4) 有価証券に関する指標

①種類別有価証券平均残高

(単位：千円)

種類	2023年度	2022年度	増減
国債	-	-	-
地方債	4,672	-	-
政府保証債	-	-	-
金融債	-	-	-
短期社債	-	-	-
社債	-	-	-
株式	-	-	-
その他の証券	-	-	-
合計	4,672	-	-

(注) 貸付有価証券は有価証券の種類ごとに区分して記載しています。

②商品有価証券種類別平均残高

該当する取引はありません。

③有価証券残存期間別残高

(単位：千円)

種類	1年以下	1年超3年以下	3年超5年以下	5年超7年以下	7年超10年以下	10年超	期間の定めのないもの	合計
2023年度								
国債	-	-	-	-	-	-	-	-
地方債	-	-	-	-	10,000	-	-	-
政府保証債	-	-	-	-	-	-	-	-
金融債	-	-	-	-	-	-	-	-
短期社債	-	-	-	-	-	-	-	-
社債	-	-	-	-	-	-	-	-
株式	-	-	-	-	-	-	-	-
その他の証券	-	-	-	-	-	-	-	-
2022年度								
国債	-	-	-	-	-	-	-	-
地方債	-	-	-	-	-	-	-	-
政府保証債	-	-	-	-	-	-	-	-
金融債	-	-	-	-	-	-	-	-
短期社債	-	-	-	-	-	-	-	-
社債	-	-	-	-	-	-	-	-
株式	-	-	-	-	-	-	-	-
その他の証券	-	-	-	-	-	-	-	-

(5) 有価証券等の時価情報等

①有価証券の時価情報等

[売買目的有価証券]

(単位：千円)

	2023年度			2022年度		
	貸借対照表 計上額	当年度の損益に 含まれた評価差額	貸借対照表 計上額	当年度の損益に 含まれた評価差額		
売買目的有価証券	-	-	-	-	-	-

[満期保有目的の債券]

(単位：千円)

	種類	2023年度			2022年度		
		貸借対照表 計上額	時価	差額	貸借対照表 計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	国債	-	-	-	-	-	-
	地方債	10,000	10,061	61	-	-	-
	政府保証債	-	-	-	-	-	-
	金融債	-	-	-	-	-	-
	短期社債	-	-	-	-	-	-
	社債	-	-	-	-	-	-
	その他の証券	-	-	-	-	-	-
小計		10,000	10,061	61	-	-	-
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	国債	-	-	-	-	-	-
	地方債	-	-	-	-	-	-
	政府保証債	-	-	-	-	-	-
	金融債	-	-	-	-	-	-
	短期社債	-	-	-	-	-	-
	社債	-	-	-	-	-	-
	その他の証券	-	-	-	-	-	-
小計		-	-	-	-	-	-
合計		10,000	10,061	61	-	-	-

[その他有価証券]

(単位：千円)

	種類	2023年度			2022年度		
		貸借対照表 計上額	取得原価 又は償却原価	差額	貸借対照表 計上額	取得原価 又は償却原価	差額
貸借対照表計上額が取得原価又は償却原価を超えるもの	株式	-	-	-	-	-	-
	債券	-	-	-	-	-	-
	国債	-	-	-	-	-	-
	地方債	-	-	-	-	-	-
	短期社債	-	-	-	-	-	-
	社債	-	-	-	-	-	-
	その他の証券	-	-	-	-	-	-
小計		-	-	-	-	-	-
貸借対照表計上額が取得原価又は償却原価を超えないもの	株式	-	-	-	-	-	-
	債券	-	-	-	-	-	-
	国債	-	-	-	-	-	-
	地方債	-	-	-	-	-	-
	短期社債	-	-	-	-	-	-
	社債	-	-	-	-	-	-
	その他の証券	-	-	-	-	-	-
小計		-	-	-	-	-	-
合計		-	-	-	-	-	-

② 金銭の信託の時価情報

[運用目的の金銭の信託]

(単位：千円)

	2023年度		2022年度	
	貸借対照表 計上額	当年度の損益に 含まれた評価差額	貸借対照表 計上額	当年度の損益に 含まれた評価差額
運用目的の金銭の信託	-	-	-	-

[満期保有目的の金銭の信託]

(単位：千円)

	2023年度					2022年度				
	貸借 対照表 計上額	時 価	差 額	うち時価が 貸借対照表 計上額を超 えるもの	うち時価が 貸借対照表 計上額を超 えないもの	貸借 対照表 計上額	時 価	差 額	うち時価が 貸借対照表 計上額を超 えるもの	うち時価が 貸借対照表 計上額を超 えないもの
満期保有目 的の金銭の 信託	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(注) 「うち時価が貸借対照表計上額を超えるもの」 「うち時価が貸借対照表計上額を超えないもの」 はそれぞれ「差額」 の内訳です。

[その他の金銭の信託]

(単位：千円)

	2023年度					2022年度				
	貸借 対照表 計上額	取得原価	差 額	うち貸借対 照表計上額 が取得原価 を超えるも の	うち貸借対 照表計上額 が取得原価 を超えない もの	貸借 対照表 計上額	取得原価	差 額	うち貸借対 照表計上額 が取得原価 を超えるも の	うち貸借対 照表計上額 が取得原価 を超えない もの
その他の 金銭の信託	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(注) 「うち貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの」 「うち貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの」 はそれぞれ「差額」 の内訳です。

③ デリバティブ取引、金融等デリバティブ取引、有価証券関連店頭デリバティブ取引
該当する取引はありません。

(6) 預かり資産の状況

① 投資信託残高（ファンドラップ含む）

(単位：千円)

項目	2023年度	2022年度
投資信託残高 (ファンドラップ含む)	146,224	94,294

(注) 投資信託残高（ファンドラップ含む）は「約定日基準」に基づく算出です。

② 残高有り投資信託口座数

(単位：件)

項目	2023年度	2022年度
残高有り投資信託口座数	139	89

2. 共済事業

(1) 長期共済新契約高・長期共済保有高

(単位：件数、千円)

種類	2023年度			2022年度		
	件数	新契約高	保有高	件数	新契約高	保有高
生命系	終身共済	12,814	1,233,807	116,570,943	12,978	1,688,532
	定期生命共済	205	1,096,400	2,649,400	141	219,000
	養老生命共済	3,794	142,400	15,826,556	4,560	320,450
	うちこども共済	2,115	114,600	5,321,700	2,204	203,500
	医療共済	7,114	3,500	842,200	7,298	-
	がん共済	327	-	78,500	341	-
	定期医療共済	144	-	169,500	162	-
	介護共済	709	295,076	1,618,777	657	92,673
	認知症共済	16	-	-	8	-
	生活障害共済	144	-	-	138	-
	特定重度疾病共済	186	-	-	172	-
	年金共済	4,869	-	90,000	4,940	-
建物系	建物更生共済	12,664	11,746,980	169,661,563	13,039	12,485,800
	合計	42,986	14,518,163	307,507,441	44,434	14,806,455
					321,537,888	

(注) 「種類」欄は、主たる共済種類ごとに記載し、「金額」欄は当該共済種類ごとに保障金額（生命系共済は死亡保障の金額（附加された特約金額等を含む））を記載しています。

(2) 医療系共済の入院共済金額保有高

(単位：件数、千円)

種類	2023年度			2022年度		
	件数	新契約高	保有高	件数	新契約高	保有高
医療共済	7,114	10 63,968	39,251 357,530	7,298	10 81,947	43,560 282,920
がん共済	327	25	2,450	341	30	2,580
定期医療共済	144	-	751	162	-	843
合計	7,585	35 63,968	42,452 357,530	7,801	40 81,947	46,983 282,920

(注) 「種類」欄は主たる共済種類ごとに記載し、「金額」欄は当該共済種類ごとに共済金額を記載しています。なお、同一の共済種類に主たる共済金額が複数ある場合は、新たに欄を追加して記載するとともに、共済種類ごとの合計欄を記載しています。

(3) 介護系その他の共済の共済金額保有高

(単位：件数、千円)

種類	2023年度			2022年度		
	件数	新契約高	保有高	件数	新契約高	保有高
介護共済	709	339,738	2,574,285	657	130,438	2,348,112
認知症共済	16	11,000	33,500	8	22,500	22,500
生活障害共済（一時金型）	115	95,000	1,136,800	109	115,000	1,126,800
生活障害共済（年金定期型）	29	2,000	40,700	29	27,000	39,700
特定重度疾病共済	186	27,000	278,500	172	59,000	258,000

(注) 「種類」欄は主たる共済種類ごとに記載し、「金額」欄は当該共済種類ごとに共済金額を記載しています。

(4) 年金共済の年金保有高

(単位：件数、千円)

種類	2023年度			2022年度		
	件数	新契約高	保有高	件数	新契約高	保有高
年金開始前	3,136	33,960	2,158,214	3,246	41,988	2,247,688
年金開始後	1,733	-	1,009,368	1,694	-	980,817
合計	4,869	33,960	3,167,582	4,940	41,988	3,228,505

(注) 「金額」欄は、年金年額について記載しています。

(5) 短期共済新契約高

(単位：件、千円)

種類	2023年度			2022年度		
	件数	金額	掛金	件数	金額	掛金
火災共済	1,456	21,508,240	21,775	1,520	22,125,360	22,509
自動車共済	9,490	-	418,184	9,503	-	415,403
傷害共済	8,740	27,847,000	1,655	7,611	23,924,500	1,665
団体定期生命共済	-	-	-	-	-	-
定額定期生命共済	1	4,000	16	1	4,000	16
賠償責任共済	39	-	654	21	-	219
自賠責共済	2,510	-	43,088	2,434	-	46,663
合計	22,236	-	485,375	21,090	-	486,478

(注) 「種類」欄は主たる共済種類ごとに記載し、「金額」欄は当該共済種類ごとに保障金額（死亡保障又は火災保障を伴わない共済の金額欄は斜線。）を記載しています。

(6) 損保ジャパン保険料実績

(単位：千円)

種類	2023年度		2022年度	
	J A越前たけふ	(株)コープ武生	J A越前たけふ	(株)コープ武生
自動車保険	7,646	1,223	7,965	997
自賠責保険	-	1,111	-	2,123
火災保険	115,112	87	161,212	688
障害・その他の保険	151,453	2,421	201,026	3,809

(注)(株)コープ武生の保険料実績については子会社の財務諸表に反映されています。

(7) SOMPOひまわり生命保険料実績

(単位：件、千円)

種類	2023年度		2022年度	
	件数	保険料	件数	保険料
医療 (限定告知・認知症・がん含む)	205	12,895	163	1,134

3. 農業関連事業取扱実績

(1) 買取購買品（生産資材）取扱実績

該当なし

(2) 受託販売品取扱実績

(単位：千円)

種類	2023年度		2022年度	
	販売高	手数料	販売高	手数料
米	2,044,584	95,169	1,630,001	88,922
麦	18,815	2,837	22,594	1,418
豆・雑穀	20,673	458	13,945	713
野菜	73,653	620	93,467	794
果実	18,803	166	20,832	247
花き・花木	898	8	903	8
畜産物	2,343	21	2,094	18
林産物	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
合計	2,179,771	99,281	1,783,839	92,124

(3) 保管事業取扱実績

(単位：千円)

項目	2023年度	2022年度
収益	保管料	68,297
	荷役料	-
	その他の収益	-
計	68,297	76,128
費用	保管材料費	-
	保管委託料	29,535
	保管雑費	19,753
計	49,288	30,695

(4) 加工事業取扱実績

該当なし

(5) 利用事業取扱実績

該当なし

4. 生活その他事業取扱実績

(1) 買取購買品（生活物資）取扱実績

該当なし

(2) 介護事業取扱実績

該当なし

5. 指導事業取扱実績

(1) 指導事業取扱実績

(単位：千円)

項 目		2023年度	2022年度
収入	指導補助金	7,067	8,839
	賦課金収入	-	-
	実費収入	3,468	1,383
	受入委託料	994	773
計		11,530	10,995
支出	営農改善費	29,208	28,245
	生活文化事業費	2,708	1,651
	教育情報費	7,880	7,764
	健康管理事業費	318	236
計		40,115	37,897

1. 利益率

(単位：%)

項目	2023年度	2022年度	増減
総資産経常利益率	0.21	0.18	0.03
資本経常利益率	3.68	3.15	0.53
総資産当期純利益率	0.15	0.17	△ 0.02
資本当期純利益率	2.57	3.09	△ 0.52

- (注) 1. 総資産経常利益率 = 経常利益／総資産（債務保証見返を除く）平均残高×100
 2. 資本経常利益率 = 経常利益／純資産勘定平均残高×100
 3. 総資産当期純利益率 = 当期剩余金（税引後）／総資産（債務保証見返りを除く）平均残高×100
 4. 資本当期純利益率 = 当期剩余金（税引後）／純資産勘定平均残高×100

2. 貯貸率・貯証率

(単位：%)

区分	2023年度	2022年度
貯貸率	期末	24.79
	期中平均	23.14
貯証率	期末	0.01
	期中平均	0.00

- (注) 1. 貯貸率（期末） = 貸出金残高／貯金残高×100
 2. 貯貸率（期中平均） = 貸出金平均残高／貯金平均残高×100
 3. 貯証率（期末） = 有価証券残高／貯金残高×100
 4. 貯証率（期中平均） = 有価証券平均残高／貯金平均残高×100

3. 職員一人当たり指標

(単位：千円)

項目	2023年度	2022年度
信用事業	貯金残高	913,127
	貸出金残高	226,338
共済事業	長期共済保有高	2,277,832
経済事業	購買品取扱高	-
	販売品取扱高	16,881

4. 一店舗当たり指標

(単位：千円)

項目	2023年度	2022年度
貯金残高	30,818,043	31,180,006
貸出金残高	7,638,927	7,331,898
長期共済保有高	76,876,860	80,384,472
購買品供給高	-	-

1. 自己資本の構成に関する事項

(単位：千円)

項目	2023年度	2022年度
コア資本にかかる基礎項目		
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る組合員資本の額	7,756,659	7,643,256
うち、出資金及び資本準備金の額	3,352,126	3,290,211
うち、再評価積立金の額	-	-
うち、利益剰余金の額	4,562,105	4,457,423
うち、外部流出予定額 (△)	△ 129,743	△ 93,413
うち、上記以外に該当するものの額	△ 27,830	△ 10,965
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	30	51
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	30	51
うち、適格引当金コア資本算入額	-	-
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	-	-
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	-	-
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の四十五パーセントに相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	-	-
コア資本にかかる基礎項目の額 (イ)	7,756,690	7,643,308
コア資本にかかる調整項目		
無形固定資産（モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。）の額の合計額	121,944	140,631
うち、のれんに係るものの額	-	-
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	121,944	140,631
繰延税金資産（一時差異に係るものを除く。）の額	-	-
適格引当金不足額	-	-
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	-	-
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	-	-
前払年金費用の額	657,792	526,683
自己保有普通出資等（純資産の部に計上されるものを除く。）の額	-	-
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	-	-
少数出資金融機関等の対象普通出資等の額	-	-
特定項目に係る十パーセント基準超過額	-	-
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに関連するものの額	-	-
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	-	-
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関連するものの額	-	-

(単位：千円)

項目		2023年度	2022年度
コア資本に係る調整項目の額	(口)	779,736	667,315
自己資本			
自己資本の額（（イ）—（口））	（ハ）	6,976,953	6,975,993
リスク・アセット等			
信用リスク・アセットの額の合計額		39,096,032	39,137,690
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額		—	—
うち、他の金融機関等向けエクスポート		—	—
うち、上記以外に該当するものの額		—	—
オペレーション・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額		1,805,510	2,116,567
信用リスク・アセット調整額		—	—
オペレーション・リスク相当額調整額		—	—
リスク・アセット等の額の合計額	（二）	40,901,543	41,254,257
自己資本比率			
自己資本比率（（ハ）／（二））		17.05%	16.90%

- (注) 1. 「農業協同組合等がその経営の健全性を判断するための基準」(2006年金融庁・農水省告示第2号)に基づき算出しています。
2. 当JAは、信用リスク・アセット額の算出にあたっては標準的手法、適格金融資産担保の適用については信用リスク削減手法の簡便手法を、オペレーション・リスク相当額の算出にあたっては基礎的手法を採用しています。
3. 当JAが有するすべての自己資本とリスクを対比して、自己資本比率を計算しています。

2. 自己資本の充実度に関する事項

(1) 信用リスクに対する所要自己資本の額及び区分ごとの内訳

(単位：千円)

信用リスク・アセット	2023年度			2022年度		
	エクスポート ジャヤーの 期末残高	リスク・ アセット額 a	所要自己 資本額 b = a × 4 %	エクスポート ジャヤーの 期末残高	リスク・ アセット額 a	所要自己 資本額 b = a × 4 %
現金	588,867	-	-	643,547	-	-
我が国の中央政府及び中央銀行向け	-	-	-	-	-	-
外国の中央政府及び中央銀行向け	-	-	-	-	-	-
国際決済銀行等向け	-	-	-	-	-	-
我が国的地方公共団体向け	15,976,922	-	-	16,150,792	-	-
外国の中央政府等以外の公共部門向け	-	-	-	-	-	-
国際開発銀行向け	-	-	-	-	-	-
地方公共団体金融機関向け	-	-	-	-	-	-
我が国の政府関係機関向け	-	-	-	-	-	-
地方三公社向け	-	-	-	-	-	-
金融機関及び第一種金融商品取引業者向け	95,307,943	19,061,588	762,436	96,764,431	19,352,888	774,115
法人等向け	931,976	909,842	36,393	743,773	722,418	28,896
中小企業等向け及び個人向け	1,041,526	684,608	27,384	1,120,753	740,045	29,601
抵当権付住宅ローン	305,617	102,813	4,112	389,472	131,092	5,243
不動産取得等事業向け	235,148	229,538	9,181	330,733	320,005	12,800
三月以上延滞等	9,903	12,989	519	9,569	13,171	526
取立未済手形	31,737	6,347	253	9,571	1,914	76
信用保証協会等保証付	6,378,392	630,266	25,210	6,288,884	620,193	24,807
株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	-	-	-	-	-	-
共済約款貸付	-	-	-	-	-	-
出資等	748,934	748,934	29,957	748,934	748,934	29,957
（うち出資等のエクスポートジャヤー）	748,934	748,934	29,957	748,934	748,934	29,957
（うち重要な出資のエクスポートジャヤー）	-	-	-	-	-	-
上記以外	10,892,831	16,709,102	668,364	10,656,212	16,487,029	659,481
（うち他の金融機関等の対象資本等調達手段のうち対象普通出資等及びその他外部TLAC関連調達手段に該当するもの以外のものに係るエクスポートジャヤー）	-	-	-	-	-	-
（うち農林中央金庫又は農業協同組合連合会の対象資本調達手段に係るエクスポートジャヤー）	3,965,810	9,914,525	396,581	3,965,810	9,914,525	396,581
（うち特定項目のうち調整項目に算入されない部分に係るエクスポートジャヤー）	-	-	-	-	-	-
うち総株主等の議決権の百分の十を超える議決権を保有している他の金融機関等に係るその他外部TLAC関連調達手段に関するエクスポートジャヤー）	-	-	-	-	-	-
（うち総株主等の議決権の百分の十を超える議決権を保有していない他の金融機関等に係るその他外部TLAC関連調達手段に係る5%基準額を上回る部分に係るエクスポートジャヤー）	-	-	-	-	-	-
（うち上記以外のエクスポートジャヤー）	6,927,021	6,794,577	271,783	6,690,402	6,572,504	262,900
証券化	-	-	-	-	-	-
（うちSTC要件適用分）	-	-	-	-	-	-
（うち非STC要件適用分）	-	-	-	-	-	-

(単位：千円)

信用リスク・アセット	2023年度			2022年度		
	エクスポート ジャーの 期末残高	リスク・ アセット額 a	所要自己 資本額 b = a × 4 %	エクスポート ジャーの 期末残高	リスク・ アセット額 a	所要自己 資本額 b = a × 4 %
再証券化	-	-	-	-	-	-
リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポートジャー	-	-	-	-	-	-
(うちルックスルーワイド)	-	-	-	-	-	-
(うちマンデート方式)	-	-	-	-	-	-
(うち蓋然性方式250%)	-	-	-	-	-	-
(うち蓋然性方式400%)	-	-	-	-	-	-
(うちフォールバック方式)	-	-	-	-	-	-
経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるものの額	-	-	-	-	-	-
他の金融機関等の対象資本調達手段に係るエクスポートジャーに係る経過措置によりリスク・アセットの額に算入されなかったものの額(△)	-	-	-	-	-	-
標準的手法を適用するエクスポートジャー別計	132,449,812	39,096,032	1,563,841	133,856,676	39,137,690	1,565,507
CVAリスク相当額÷8%	-	-	-	-	-	-
中央精算機関連エクスポートジャー	-	-	-	-	-	-
合計(信用リスク・アセットの額)	132,449,812	39,096,032	1,563,841	133,856,676	39,137,690	1,565,507
オペレーションナル・リスクに対する 所要自己資本の額 <基礎的手法>	オペレーションナル・リスク相 当額を8%で除して得た額 a 1,805,510	所要自己資本額 b = a × 4 % 72,220	オペレーションナル・リスク相 当額を8%で除して得た額 a 2,116,567	所要自己資本額 b = a × 4 % 84,662		
所要自己資本額計	リスク・アセット等(分母)計 a 40,901,543	所要自己資本額 b = a × 4 % 1,636,061	リスク・アセット等(分母)計 a 41,254,257	所要自己資本額 b = a × 4 % 1,650,170		

- (注) 1. 「リスク・アセット額」の欄には、信用リスク削減効果適用後のリスク・アセット額を原エクスポートジャーの種類ごとに記載しています。
2. 「エクスポートジャー」とは、リスクにさらされている資産(オフ・バランスを含む)のことをいい、具体的には貸出金や有価証券等が該当します。
3. 「三月以上延滞等」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3カ月以上延滞している債務者に係る債務者に係るエクスポートジャー及び「金融機関向け及び第一種金融商品取引業者向け」、「法人等向け」等においてリスク・ウェイトが150%になったエクスポートジャーのことです。
4. 「出資等」とは、出資等エクスポートジャー、重要な出資のエクスポートジャーが該当します。
5. 「証券化(証券化エクスポートジャー)」とは、原資産にかかる信用リスクを優先劣後構造のある二以上のエクスポートジャーに階層化し、その一部または全部を第三者に移転する性質を有する取引にかかるエクスポートジャーのことです。
6. 「経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるもの」とは、土地再評価差額金に係る経過措置によるリスク・アセットの額および調整項目にかかる経過措置によりなお従前の例によるものとしてリスク・アセットの額に算入したものが該当します。
7. 「上記以外」には、未決済取引・その他の資産(固定資産等)・間接清算参加者向け・信用リスク削減手法として用いる保証またはクレジットデリバティブの免責額が含まれます。
8. オペレーションナル・リスク相当額の算出にあたって、当JAでは基礎的手法を採用しています。
<オペレーションナル・リスク相当額を8%で除して得た額の算出方法(基礎的手法)>

(粗利益(正の値の場合に限る)×15%)の直近3年間の合計額

_____ ÷ 8 %
直近3年間のうち粗利益が正の値であった年数

3. 信用リスクに関する事項

(1) 標準的手法に関する事項

当JAでは自己資本比率算出にかかる信用リスク・アセット額は告示に定める標準的手法により算出しています。

また、信用リスク・アセットの算出にあたって、リスク・ウェイトの判定に当たり使用する格付等は、次のとおりです。

①リスク・ウェイトの判定に当たり使用する格付けは、以下の適格格付機関による依頼格付けのみ使用し、非依頼格付は使用しないこととしています。

適格格付機関
株式会社格付投資情報センター（R&I）
株式会社日本格付研究所（JCR）
ムーディーズ・インベスタートス・サービス・インク（Moody's）
S&Pグローバル・レーティング（S&P）
フィッチレーティングスリミテッド（Fitch）

(注) 「リスク・ウェイト」とは、当該資産を保有するために必要な自己資本額を算出するための掛目のことです。

②リスク・ウェイトの判定に当たり使用する適格格付機関の格付またはカントリーリスク・スコアは、主に以下のとおりです。

エクスポートヤー	適格格付機関	カントリー・リスク・スコア
金融機関向け エクスポートヤー		日本貿易保険
法人等向け エクスポートヤー（長期）	R&I、Moody's、 JCR、S&P、Fitch	
法人等向け エクスポートヤー（短期）	R&I、Moody's、 JCR、S&P、Fitch	

(2) 信用リスクに関するエクスポートヤー(地域別、業種別、残存期間別)及び三月以上延滞エクスポートヤーの期末残高

(単位：千円)

	信用リスクに関するエクスポートヤーの残高	2023年度			2022年度			三月以上延滞エクスポートヤー	
		うち 貸出金等	うち 債券	三月以上延滞エクスポートヤー	うち 貸出金等	うち 債券			
				2023年度					
国 内	132,449,812	30,589,973	10,036	9,903	133,856,676	29,345,782	-	9,569	
国 外	-	-	-	-	-	-	-	-	
地域別残高計	132,449,812	30,589,973	10,036	9,903	133,856,676	29,345,782	-	9,569	

(単位：千円)

		2023年度				2022年度			
		信用リスクに 関するエクス ポージャーの 残高			三月以上 延滞エク スポート ジヤー	信用リスクに 関するエクス ポージャーの 残高			三月以上 延滞エク スポート ジヤー
法 人	農業		133,741	133,741			79,206	79,206	
	林業	-	-	-	-	-	-	-	-
	水産業	-	-	-	-	-	-	-	-
	製造業	479,354	479,354	-	-	350,604	350,604	-	-
	鉱業	-	-	-	-	-	-	-	-
	建設・不動産業	279,963	279,963	-	-	297,988	297,988	-	-
	電気・ガス・熱 供給・水道業	-	-	-	-	-	-	-	-
	運輸・通信業	-	-	-	-	-	-	-	-
	金融・保険業	95,262,155	3,512,246	-	-	96,732,777	2,505,716	-	-
	卸売・小売・飲 食・サービス業	250,394	250,394	-	-	60,519	60,519	-	-
	日本国政府・ 地方公共団体	10,684,376	10,674,339	10,036	-	10,757,250	10,757,250	-	-
	その他	10,182,752	5,390,481	-	-	10,252,233	5,496,263	-	-
個人	個人	9,860,202	9,860,202	-	9,903	9,785,466	9,785,466	-	9,569
	その他	5,316,872	9,214	-	-	5,540,629	12,766	-	-
業種別残高計		132,449,812	30,589,937	10,036	9,903	133,856,676	29,345,782	-	9,569
1年以下		88,610,360	584,957	-	90,847,966	325,753	-	-	-
1年超3年以下		956,944	956,944	-	1,209,349	1,209,349	-	-	-
3年超5年以下		1,365,417	1,365,417	-	1,442,784	1,442,784	-	-	-
5年超7年以下		3,347,047	3,347,047	-	2,478,335	2,478,335	-	-	-
7年超10年以下		3,874,221	3,864,184	10,036	4,230,999	4,230,999	-	-	-
10年超		23,826,814	20,056,520	-	23,207,524	19,471,022	-	-	-
期限の定めのないもの		10,469,006	414,865	-	10,439,717	187,537	-	-	-
残存期間別残高計		132,449,812	30,589,937	10,036	133,856,676	29,345,782	-	-	-
平均残高計		131,120,797	29,628,147	4,672		131,792,835	29,262,762	-	-

- (注) 1. 信用リスクに関するエクスポートジヤーの残高には、資産（自己資本控除となるもの、証券化工エクスポートジヤーに該当するもの、リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポートジヤーに該当するもの、証券化工エクスポートジヤーに該当するものを除く）並びにオフ・バランス取引及び派生商品取引の与信相当額を含みます。
2. 「貸出金等」とは、貸出金のほか、コミットメント及びその他のデリバティブ以外のオフ・バランスシート・エクスポートジヤーを含んでいます。「コミットメント」とは、契約した期間及び融資枠の範囲でお客様のご請求に基づき、金融機関が融資を実行する契約のことをいいます。「貸出金等」にはコミットメントの融資可能残額も含めています。
3. 「三月以上延滞エクスポートジヤー」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3カ月以上延滞しているエクスポートジヤーをいいます。
4. 「その他」には、ファンドのうち個々の資産の把握が困難な資産や固定資産等が該当します。

(3) 貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額

(単位：千円)

	2023年度				2022年度					
	期首 残高	期中 増加額	期中減少額		期末残高	期首 残高	期中 増加額	期中減少額		
			目的使用	その他				目的使用		
一般貸倒引当金	51	30	-	51	30	52	51	-	52	
個別貸倒引当金	66,114	25,771	- 18,037	73,848	72,334	18,037	- 24,257	66,114		

(4) 業種別の個別貸倒引当金の期末残高・期中増減額及び貸出金償却の額 (単位:千円)

		2023年度					2022年度						
		期首 残高	期中 増加額	期中減少額		期末 残高	貸出金 償却	期首 残高	期中 増加額	期中減少額			
		目的 使用	その他					目的 使用	その他				
	国内	66,114	25,771	-	18,037	73,848	-	72,334	18,037	-	24,257	66,114	-
	国外	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	地域別計	66,114	25,771	-	18,037	73,848	-	72,334	18,037	-	24,257	66,114	-
法人	農業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	林業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	水産業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	製造業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	鉱業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	建設	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	不動産業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	電気・ガス・ 熱供給・水道業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	運輸・通信業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	金融・保険業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	卸売・小売・飲食・サービス業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	上記以外	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	個人	66,114	25,771	-	18,037	73,848	-	72,334	18,037	-	24,257	66,114	-
	業種別計	66,114	25,771	-	18,037	73,848	-	72,334	18,037	-	24,257	66,114	-

(5) 信用リスク削減効果勘案後の残高及びリスク・ウェイト1250%を適用する残高

(単位:千円)

		2023年度			2022年度		
		格付あり	格付なし	計	格付あり	格付なし	計
信用勘案後残高削減効果	リスク・ウェイト0%	-	16,869,696	16,869,696	-	17,114,903	17,114,903
	リスク・ウェイト2%	-	-	-	-	-	-
	リスク・ウェイト4%	-	-	-	-	-	-
	リスク・ウェイト10%	-	6,302,658	6,302,658	-	6,201,925	6,201,925
	リスク・ウェイト20%	-	95,339,681	95,339,681	-	96,774,003	96,774,003
	リスク・ウェイト35%	-	293,754	293,754	-	375,543	375,543
	リスク・ウェイト50%	-	-	-	-	-	-
	リスク・ウェイト75%	-	913,658	913,658	-	987,649	987,649
	リスク・ウェイト100%	-	8,755,872	8,755,872	-	8,427,270	8,427,270
	リスク・ウェイト150%	-	8,680	8,680	-	9,569	9,569
	リスク・ウェイト250%	-	3,965,810	3,965,810	-	3,965,810	3,965,810
	その他	-	-	-	-	-	-
	リスク・ウェイト1250%	-	-	-	-	-	-
計		-	132,449,812	132,449,812	-	133,856,676	133,856,676

(注) 1. 信用リスクに関するエクスポートジャヤの残高には、資産（自己資本控除となるもの、リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポートジャヤに該当するもの、証券化エクスポートジャヤに該当するものを除く）並びにオフ・バランス取引及び派生商品取引の与信相当額を含みます。

2. 「格付あり」にはエクスポージャーのリスク・ウェイト判定において格付を使用しているもの、「格付なし」にはエクスポージャーのリスク・ウェイト判定において格付を使用していないものを記載しています。なお格付は適格格付機関による依頼格付のみ使用しています。

3. 経過措置によってリスク・ウェイトを変更したエクスポージャーについては、経過措置適用後のリスク・ウェイトによって集計しています。また、経過措置によってリスク・アセットを算入したものについても集計の対象としています。

4. 1250%には、非同時決済取引に係るもの、信用リスク削減手法として用いる保証又はクレジット・デリバティブの免責額に係るもの、重要な出資に係るエクスポートジャーナなどリスク・ウェイト1250%を適用したエクスポートジャーナがあります

4. 信用リスク削減手法に関する事項

(1) 信用リスク削減手法に関するリスク管理の方針及び手続の概要

「信用リスク削減手法」とは、自己資本比率算出における信用リスク・アセット額の算出において、エクスポートジヤーに対して一定の要件を満たす担保や保証等が設定されている場合に、エクスポートジヤーのリスク・ウェイトに代えて、担保や保証人に対するリスク・ウェイトを適用するなど信用リスク・アセット額を軽減する方法です。

当JAでは、信用リスク削減手法を「自己資本比率算出規程」にて定めています。

信用リスク削減手法として、「適格金融資産担保」、「保証」、「貸出金と自組合貯金の相殺」を適用しています。

適格金融資産担保付取引とは、エクスポートジヤーの信用リスクの全部又は一部が、取引相手又は取引相手のために第三者が提供する適格金融資産担保によって削減されている取引をいいます。

当JAでは、適格金融資産担保取引について信用リスク削減手法の簡便手法を用いています。

保証については、被保証債権の債務者よりも低いリスク・ウェイトが適用される中央政府等、我が国地方公共団体、地方公共団体金融機関、我が国政府関係機関、外国の中央政府以外の公共部門、国際開発銀行、及び金融機関又は証券会社、これら以外の主体で長期格付を付与しているものを適格保証人とし、エクスポートジヤーのうち適格保証人に保証された被保証部分について、被保証債権のリスク・ウェイトに代えて、保証人のリスク・ウェイトを適用しています。

貸出金と自組合貯金の相殺については、①取引相手の債務超過、破産手続開始の決定その他これらに類する事由にかかわらず、貸出金と自組合貯金の相殺が法的に有効であることを示す十分な根拠を有していること、②同一の取引相手との間で相殺契約下にある貸出金と自組合貯金をいずれの時点においても特定することができること、③自組合貯金が継続されないリスクが監視及び管理されていること、④貸出金と自組合貯金の相殺後の額が、監視および管理されていること、の条件をすべて満たす場合に、相殺契約下にある貸出金と自組合貯金の相殺後の額を信用リスク削減手法適用後のエクスポートジヤー額としています。

担保に関する評価及び管理方針は、一定のルールのもと定期的に担保確認及び評価の見直しを行っています。なお、主要な担保の種類は、自組合貯金です。

(2) 信用リスク削減手法が適用されたエクスポートジヤーの額

(単位：千円)

区分	2023年度		2022年度	
	適格金融資産担保	保証	適格金融資産担保	保証
地方公共団体金融機関向け	-	-	-	-
我が国政府関係機関向け	-	-	-	-
地方三公社向け	-	-	-	-
金融機関向け及び第一種金融商品取引業者向け	-	-	-	-
法人等向け	-	-	-	-
中小企業等向け及び個人向け	-	-	2,000	-
抵当権住宅ローン	-	-	-	-
不動産取得等事業向け	-	-	-	-
三月以上延滞等	-	-	-	-
証券化	-	-	-	-
中央精算機関関連	-	-	-	-
上記以外	-	-	-	-
合計	-	-	2,000	-

- (注) 1. 「エクスポートジヤー」とは、リスクにさらされている資産（オフ・バランスを含む）のことをいい、主なものとしては貸出金や有価証券等が該当します。
2. 「三月以上延滞等」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3ヶ月以上延滞している債務者に係るエクスポートジヤー及び「金融機関向け及び第一種金融商品取引業者向け」、「法人等向け」等においてリスク・ウェイトが150%になったエクスポートジヤーのことです。
3. 「証券化（証券化工エクスポートジヤー）」とは、原資産にかかる信用リスクを優先劣後構造のある二以上のエクスポートジヤーに階層化し、その一部または全部を第三者に移転する性質を有する取引にかかるエクスポートジヤーのことです。
4. 「上記以外」には、現金・外国の中央政府及び中央銀行向け・国際決済銀行等向け・外国の中央政府等以外の公共部門向け・国際開発銀行向け・取立未済手形・未済取引・その他の資産（固定資産等）が含まれます。

5. 派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項

該当する取引はありません。

6. 証券化工エクスポートジヤーに関する事項

該当する取引はありません。

7. 出資その他これに類するエクスポートジヤーに関する事項

（1）出資その他これに類するエクスポートジヤーに関するリスク管理の方針及び手続の概要

「出資その他これに類するエクスポートジヤー」とは、主に貸借対照表上の有価証券勘定及び外部出資勘定の株式又は出資として計上されているものであり、当JAにおいては、これらを①子会社および関連会社株式、②その他有価証券、③系統および系統外出資に区分して管理しています。①子会社および関連会社については、経営上も密接な連携を図ることにより、当JAの事業のより効率的運営を目的として、株式を保有しています。これらの会社の経営については毎期の決算書類の分析の他、毎月定期的な連絡会議を行う等適切な業況把握に努めています。

②その他の有価証券については中長期的な運用目的で保有するものであり、適切な市場リスクの把握およびコントロールに努めています。具体的には、市場動向や経済見通しなどの投資環境分析及びポートフォリオの状況やALMなどを考慮し、理事会で運用方針を定めるとともに経営層で構成するALM委員会を定期的に開催して、日常的な情報交換及び意思決定を行っています。運用部門は、理事会で決定した運用方針及びALM委員会で決定された取引方針などに基づき、有価証券の売買やリスクヘッジを行っています。運用部門が行った取引については、企画管理部門が適切な執行を行っているかどうかチェックし、定期的にリスク量の測定を行い経営層に報告しています。

③系統出資については、会員としての総会等への参画を通じた経営概況の監督に加え、日常的な協議を通じた連合会等、の財務健全化を求めており、系統外出資についても同様の対応を行っています。

なお、これらの出資その他これに類するエクスポートジヤーの評価等については、①子会社および関連会社については、取得原価を記載し、毀損の状況に応じて子会社等損失引当金を、②その他有価証券については時価評価を行った上で、取得原価との評価差額については、「その他有価証券評価差額金」として純資産の部に計上しています。③系統および系統外出資については、取得原価を記載し、毀損の状況に応じて外部出資等損失引当金を設定しています。また、評価等重要な会計方針の変更等があれば、注記表にその旨記載することとしています。

(2) 出資その他これに類するエクスポージャーの貸借対照表計上額及び時価 (単位：千円)

	2023年度		2022年度	
	貸借対照表計上額	時価評価額	貸借対照表計上額	時価評価額
上 場	-	-	-	-
非 上 場	4,714,744	4,714,744	4,714,744	4,714,744
合 計	4,714,744	4,714,744	4,714,744	4,714,744

(3) 出資その他これに類するエクスポージャーの売却及び償却に伴う損益 (単位：千円)

2023年度			2022年度		
売却益	売却損	償却額	売却益	売却損	償却額
-	-	-	-	-	-

(4) 貸借対照表で認識され、損益計算書で認識されない評価損益の額（保有目的区分をその他有価証券としている株式・出資の評価損益等） (単位：千円)

2023年度		2022年度	
評価益	評価損	評価益	評価損
-	-	-	-

(5) 貸借対照表及び損益計算書で認識されない評価損益の額（子会社・関連会社株式の評価損益等） (単位：千円)

2023年度		2022年度	
評価益	評価損	評価益	評価損
-	-	-	-

8. リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャーに関する事項

(単位：千円)

	2023年度	2022年度
ルックスルーア方式を適用するエクスポージャー	-	-
マンデート方式を適用するエクspoージャー	-	-
蓋然性方式（250%）を適用するエクspoージャー	-	-
蓋然性方式（400%）を適用するエクspoージャー	-	-
フォールバック方式（1250%）を適用するエクspoージャー	-	-

9. 金利リスクに関する事項

(1) 金利リスクの算定手法の概要

金利リスクとは、金利変動に伴い損失を被るリスクで、資産と負債の金利又は期間のミスマッチが存在する中で金利が変動することにより、利益が減少ないし損失を被るリスクをいいます。

当JAでは、金利リスク量を計算する際の基本的な事項を「金利リスク量計算要領」に、またリスク情報の管理・報告にかかる事項を「余裕金運用等にかかるリスク管理手続」に定定め、適切なリスクコントロールに努めています。具体的な金利リスクの算定方法、管理方および手続については以下のとおりです。

リスク管理の方針および手続の概要

・リスク管理および計測の対象とする金利リスクの考え方および範囲に関する説明

当JAでは、金利リスクを重要なリスクの一つとして認識し、適切な管理体制のもとで他の市場リスクと一体的に管理をしています。金利リスクのうち銀行勘定の金利リスク（IRRBB）については、個別の管理指標の設定やモニタリング体制の整備などにより厳正な管理に努めています。

・リスク管理およびリスクの削減の方針に関する説明

当JAでは、ALM委員会のもと、自己資本に対するIRRBBの比率の管理や収支シミュレーションの分析などを行いリスク削減に努めています。

・金利リスク計測の頻度

毎月末を基準日として、月次でIRRBBを計測しています。

金利リスクの算定手法の概要

当JAでは、経済価値ベースの金利リスク量（ΔEVE）については、金利感応ポジションにかかる基準日時点のイールドカーブに基づき計算されたネット現在価値と、標準的な金利ショックを与えたイールドカーブに基づき計算されたネット現在価値の差により算出しており、金利ショックの幅は、上方パラレルシフト、下方パラレルシフト、下方パラレルシフト、ステップ化の3シナリオによる金利ショック（通貨ごとに異なるショック幅）を適用しております。

・流動性貯金に割り当てられた金利改定の平均満期

要求払貯金の金利リスク量は、明確な金利改定間隔がなく、貯金者の要求によって隨時払い出される要求払貯金のうち、引き出されることなく長期間金融機関に滞留する貯金をコア貯金と定義し、①過去5年の最低残高、②過去5年の最大年間流出量を現残高から差し引いた残高、③差し引いた残高、④現残高の50%相当額のうち、最小の額を上限とし、0～5年の期間に均等に振り分けて（平均残存2.5年）リスク量を算定しています。

流動性貯金に割り当てられた金利改定の平均満期は0.002年です。

・流動性貯金に割り当てられた最長の金利改定満期

流動性に割り当てられた最長の金利改定満期は5年です。

・流動性貯金への満期の割り当て方法（コア貯金モデル等）およびその前提

流動性貯金への満期の割り当て方法については、金融庁が定める保守的な前提を採用しています。

・固定金利貸出の期限前返済や定期貯金の早期解約に関する前提

固定金利貸出の期限前返済や定期貯金の早期解約について考慮していません。

・複数の通貨の集計方法およびその前提

通貨別に算出した金利リスクの正值を合算しています。通貨間の相関等は考慮していません。

・スプレッドに関する前提（計算にあたって割引金利やキャッシュ・フローに含めるかどうか）

一定の前提を置いたスプレッドを考慮してキャッシュ・フローを展開しています。なお、当該スプレッドは金利変動ショックの設定上は不变としています。

・内部モデルの使用等、ΔEVEおよびΔNIIに重大な影響を及ぼすその他の前提、前事業年度末の開示からの変動に関する説明

内部モデルは使用しておりません。

・計測値の解釈や重要性に関するその他の説明

該当ありません。

△EVEおよび△NII以外の金利リスクを計測している場合における、当該金利リスクに関する事項

・金利ショックに関する説明

リスク資本配賦管理としてVaRで計測する市場リスク量を算定しています。

・金利リスク計測の前提およびその意味(特に、農協法自己資本開示告示に基づく定量的開示の対象となる△EVEおよび△NIIと大きく異なる点

特段ありません。

(2) 金利リスクに関する事項

(単位：百万円)

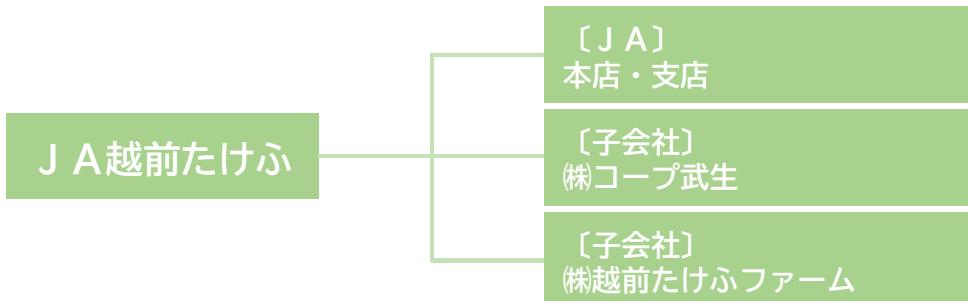
IRRBB 1 : 金利リスク					
項番		△EVE		△NII	
		当期末	前期末	当期末	前期末
1	上方パラレルシフト	1,391	1,442	-	-
2	下方パラレルシフト	-	-	21	7
3	ステイープ化	1,572	1,636		
4	フラット化	-	-		
5	短期金利上昇	-	-		
6	短期金利低下	64	-		
7	最大値	1,572	1,636	21	7
		当期末		前期末	
8	自己資本の額		6,976		6,975

1. グループの概況

(1) グループの事業系統図

J A越前たけふのグループは、当 J A、子会社2社で構成されています。

このうち、当年度及び前年度において連結自己資本比率を算出する対象となる連結子会社は2社です。なお、連結自己資本比率を算出する対象となる連結グループと、連結財務諸表規則に基づき連結の範囲に含まれる会社に、相違はありません。



(2) 子会社等の状況

名 称	(株)コープ武生	(株)越前たけふファーム
主たる営業所又は事務所の所在地	越前市平出2丁目1-10	越前市本多2丁目10-22
事業の内容	小売業	農業
設立年月日	1977年7月1日	2020年1月17日
資本金又は出資金	200,000千円	50,000千円
当 J Aの議決権比率	100%	100%
当 J A及び他の子会社等の議決権比率	100%	100%

(3) 連結事業概況（2023年度）

①事業の概況

2023年度の当 J Aの連結決算は、子会社を連結しています。

連結決算の内容は、連結経常利益321.4百万円、連結当期剰余金226.1百万円、連結純資産8,028百万円、連結総資産134,098百万円で、連結自己資本比率は17.3%となりました。

②連結子会社等の事業概況

〔株〕コープ武生

小売業界においては、電気・ガスなどのエネルギーコストの上昇、包装・資材の高騰や物流コストの増加、また円安水準の長期化による物価高の影響により、未だに個人消費は低迷しコロナ禍前を下回っている状況が続いている。また、少子高齢化による慢性的な人口減少により、小売業において人手不足が深刻な課題となっています。

このような情勢の中、4年ぶりに「農・食・遊」ふれあい祭りを開催し、組合員をはじめ地域の利用者の方々に多くご来場いただきました。また、コープ武生LINEアカウントを作成し、既存顧客の囲い込みと若者世代の獲得に取組みました。

【生活部・資材課】

本年度より本格的に新予約供給システムを導入し、迅速な商品引渡・配達業務を行いました。12月には肥料、2月には農薬・生産資材の予約注文の取りまとめを行い、3月より引取、配達を開始しましたが、悪天候の影響等による引取量の減少と、新予約供給システム導入による供給計上時期の変更によって、売上高は前年度に比べ大きく減少となり、肥料については、303,757千円、農薬については153,806千円の実績となりました。

生産資材については、予約供給での減少はありましたが、補助事業の水田センサーの売上があり、100,293千円の実績となりました。農舎・住宅については、屋根・シャッター等の無料点検を定期的に広報誌へ掲載した効果により15,261千円の実績となりました。精米については、新型コロナウイルスの分類移行に伴い、販売数量が増加し1,781,400千円の実績となりました。

(単位：千円)

区分	2023年度	2022年度	2022年度（1～3月）	2021年度
売上高	2,424,086	2,270,646	326,829	2,247,493
経常利益	98,047	129,725	△ 5,696	115,834

【生活部・機械課】

農機事業については、メーカーと協力して見込客への訪問推進や、展示会開催、チラシ配布にて販売増に努めました。また大型補助事業もあり、農機具の売上高は272,792千円の実績となりました。

自動車事業については、車検満了情報等を中心にお客様に営業活動を行い販売増に努めましたが、新車価格の値上げによる買い控えや一部メーカーの不正で生産停止が起きたことで販売台数が減少しております。その結果自動車の売上高は、202,619千円の実績となりました。

車検関係では、車検到来リストをもとにお客様への早めの車検アプローチで入庫をお願いしてきた結果、入庫台数は1,216台の実績となりました。

(単位：千円)

区分	2023年度	2022年度	2022年度（1～3月）	2021年度
売上高	759,601	687,567	149,193	705,183
経常利益	34,385	42,110	12,252	40,861

【生活部・燃料課】

市況価格は、政府が石油元売り会社に対し小売価格の高騰を抑制するため支給している補助金の効果により、価格の上昇は抑えられているものの依然として高値が続いております。

南条給油所は、11月10日にセルフ給油所としてリニューアルオープンしました。

このような中、石油・オイル部門の売上高は、大幅な価格の上昇もあり825,176千円の実績となりました。また、主要4油種の販売数量については、月2回の給油所感謝デー、南条給油所で

のイベント（リニューアルオープン60日祭、ウインターマーケット）の実施及び農耕油・暖房用灯油の予約取りまとめを行って参りましたが、南条給油所の工事休業もあり6,095KLの実績となりました。

（単位：千円）

区分	2023年度	2022年度	2022年度（1～3月）	2021年度
売上高	961,973	967,179	283,573	994,369
経常利益	60,440	48,711	19,505	67,050

【店舗部・店舗課】

マーケット事業については、相次ぐ食品値上げの状況の中、地域性を活かした地場生鮮品と地元メーカー品の販売強化に努めました。また、販促の日程調整やチラシ内容の見直しを行い、売上増に努めました。

みどり館については、地域一番の地場農産物及び加工品の品揃えを充実させ、併せて食品スーパーと融合させた「食のワンストップショッピング」型の店舗として、11月3日にファーマーズマーケットみどり館としてリニューアルオープンし、新規顧客を含め来店客数が増えたことで、順調に売上が伸びました。その結果、マーケット3店舗の売上高は、1,491,003千円の実績となりました。

葬祭事業においては簡素化が進んでいる状況ですが、取扱件数が増えたことで前年を大きく上回る実績を上げました。また、宴会及び会館法事についてもコロナ禍以降、本格的に再開したことで取扱件数が伸び、外販センター売上高は493,708千円の実績となりました。

（単位：千円）

区分	2023年度	2022年度	2022年度（1～3月）	2021年度
売上高	1,984,711	1,943,749	461,799	2,027,897
経常利益	△ 34,063	△ 68,013	△ 23,615	△ 29,596

全事業所の事業成果の推移

（単位：千円）

区分	2023年度	2022年度	2022年度（1～3月）	2021年度
売上高	6,130,373	5,869,142	1,221,395	5,974,943
利益高	54,923	38,583	△ 35,751	△ 31,809
総資産	1,617,347	1,385,610	1,349,814	1,165,549



【(株)越前たけふファーム】

今年よりJAにおいて新たに配属された専任の担い手農家専門員(TAC)との情報交換を密にし、農繁期に向け担い手農家を中心とした各事業の利用を進めてまいります。

農業支援事業においては、新しく施肥管理機のレンタルを開始するとともに、昨年導入した水田除草機を増台し、有機栽培農家の作業を支援します。また、夏そばと秋そばの二毛作による生産拡大と北陸新幹線延伸に伴う越前おろしそばのブランド化を目指し、管内全域で刈取作業を受託するための汎用コンバインを導入していく予定です。

4月から今庄RC、西部CE及び良質米出荷施設の倉庫部分の賃借料をJAへ移管しますが、より一層のコスト削減に努め、収支の改善を図ります。

【水稻育苗事業】

本年の受注数は、温湯消毒種子が12,002kg、発芽苗が92,991枚の予約状況です。

温湯消毒については3月19日より作業を開始しており、播種作業については4月3日からハナエチゼンを皮切りに開始する予定です。

今後、消毒・浸種・催芽・発芽のそれぞれの段階において適切な管理を行いながら、健全な温湯消毒種子と発芽苗の出荷に努めます。

(単位：千円)

区分	2024年度(1～3月)	2023年度	2022年度	2021年度
売上高	-	53,543	56,802	56,053
経常利益	△5,217	1,191	4,497	△9,150

【大規模乾燥調製貯蔵施設事業】

3月末における各施設の主食用米の在庫数量は、中央CE7,413俵、南条CE650俵、良質米出荷施設18,110俵、全施設合計26,173俵となっており、例年以上に順調に出庫しています。

中央CEについても順調に粉摺り作業を行っており、5月上旬には完了する予定です。南条CEについては、3月末に粉摺りを完了しています。東部CEについては、飼料用米取引先の出庫状況を見ながら粉摺り作業を行います。

各施設とも本格的な稼働期に入るまでに補修と点検、人員の確保など円滑な業務運営を目指します。

昨年度は施設稼働時の作業事故も発生したため、事故防止マニュアルを作成し、安全管理に努めてきました。今年度も作業事故の起こらないように安全管理に努めながら作業していきます。

2024年度より、当管内で夏そばの栽培の推進を行っており、6月末から南条CEでの荷受を予定しています。時期的に大麦の荷受終了直後ということもあり品種混合などの事故がないよう注意しながら稼働の準備をしていきます。

(単位：千円)

区分	2024年度(1～3月)	2023年度	2022年度	2021年度
売上高	65	129,980	135,145	121,136
経常利益	△25,753	△36,093	△21,338	36,224

【入出庫保管業務】

入出庫保管業務については、米の出庫も順調で常温倉庫の在庫数量も951俵と昨年に比べ1,500俵減少しています。今年度も気温上昇に伴い、4月中旬に低温倉庫及び良質米出荷施設への移動保管を行いながら品質管理に努めます。

4月に白山常温倉庫の準低温化工事が完了することで、従来の紙袋保管に加え、白山・坂口地区の慣行栽培の担い手フレコンも集荷し、良質米出荷施設に集中するフレコン保管の軽減を図ります。

米の保管管理については、農産物検査員による年5回の倉庫巡回などを予定しており、品質管理と事故防止に努めてまいります。

(単位：千円)

区分	2024年度（1～3月）	2023年度	2022年度	2021年度
売上高	6,579	29,474	23,605	12,470
経常利益	5,938	23,743	19,160	4,871

【農産物検査事業】

3月末の農産物検査数量は、主食用米として倉前検査27.5俵、中央CE8,354俵、南条CE8,874俵の合計17,255.5俵とあわせて飼料用米で408tの検査実績となりました。

昨年度から穀粒判別機を国検の機械鑑定にも対応した機器に更新したため、各倉庫での検査も迅速に行えるようになりました。

検査員については3人の検査員を登録し35人となりました。今後は指導的検査員を1名追加するとともに若手検査員の育成を行い、倉前・施設の農産物の検査対応をしていきます。

(単位：千円)

区分	2024年度（1～3月）	2023年度	2022年度	2021年度
売上高	1,156	7,356	7,363	5,709
経常利益	714	4,580	4,774	4,144

全事業の事業成果の推移

(単位：千円)

区分	2024年度（1～3月）	2023年度	2022年度	2021年度
売上高	7,839	220,735	222,916	195,369
利益高	△ 25,448	△ 16,254	927	10,602
総資産	40,442	66,402	94,744	99,954

(4) 最近5年間の連結ベースの主要な経営指標

(単位：千円、%)

項目	2023年度	2022年度	2022年度 (1～3月)	2021年	2020年
連結経常収益（事業収益）	1,709,873	1,844,537	1,660,533	8,110,737	8,403,105
信用事業収益	805,061	808,801	231,441	864,421	924,018
共済事業収益	591,298	656,450	175,529	706,265	704,237
農業関連事業収益	181,432	178,145	19,276	311,994	449,118
その他事業収益	132,082	201,141	1,234,287	8,632,442	6,325,732
連結経常利益	321,415	275,754	4,385	339,719	325,968
連結当期剰余金	226,103	244,049	△ 41,318	189,454	258,886
連結純資産額	8,028,111	7,850,340	7,582,546	7,688,168	7,553,911
連結総資産額	134,098,369	135,292,668	136,078,063	138,123,404	137,017,135
連結自己資本比率	17.30	16.93	16.14	15.21	14.59

(注) 「連結自己資本比率」は、「農業協同組合等がその経営の健全性を判断するための基準」（2006年金融庁・農水省告示第2号）に基づき算出しています。

(5) 連結貸借対照表

(単位：千円)

科 目	2023年度	2022年度
	(2024年3月31日)	(2023年3月31日)
(資 産 の 部)		
1 信用事業資産	122,579,720	124,057,483
(1) 現金及び預金	92,133,561	94,678,698
(2) 有価証券	10,000	-
(3) 貸出金	30,355,710	29,327,590
(4) その他の信用事業資産	106,251	69,280
(5) 貸倒引当金	△ 25,801	△ 18,085
2 共済事業資産	7,930	11,032
3 経済事業資産	1,452,757	1,552,727
(1) 受取手形及び経済事業未収金	386,784	341,134
(2) 棚卸資産	322,005	325,423
(3) その他の経済事業資産	792,044	934,250
(4) 貸倒引当金	△ 48,077	△ 48,080
4 雑資産	506,107	362,545
5 固定資産	4,469,674	4,367,406
(1) 有形固定資産	4,323,874	4,201,880
建物	5,780,947	5,674,932
機械装置	3,306,691	3,224,951
土地	2,475,642	2,475,642
その他の有形固定資産	1,994,737	1,860,566
減価償却累計額	△ 9,184,143	△ 9,034,211
(2) 無形固定資産	145,799	165,526
その他の無形固定資産	145,799	165,526
6 外部出資	4,464,754	4,464,754
(1) 外部出資	4,464,754	4,464,754
7 退職給付に係る資産	617,424	476,717
資産の部合計	134,098,369	135,292,668

(単位：千円)

科 目	2023年度	2022年度
	(2024年3月31日)	(2023年3月31日)
(負 債 の 部)		
1 信用事業負債	123,465,840	124,876,137
(1) 賀金	123,093,417	124,452,523
(2) その他の信用事業負債	372,422	423,614
2 共済事業負債	969,831	1,023,254
(1) 共済資金	719,943	775,858
(2) その他の共済事業負債	249,887	247,396
3 経済事業負債	617,072	633,052
(1) 支払手形及び経済事業未払金	523,723	576,414
(2) その他の経済事業負債	93,349	56,637
4 設備借入金	211,018	255,600
5 雑負債	528,385	431,737
6 諸引当金	137,433	138,348
(1) 賞与引当金	50,894	50,710
(2) ポイント引当金	86,539	87,638
7 繰延税金負債	140,676	84,196
負債の部合計		126,070,257
(純 資 産 の 部)		
1 組合員資本	8,028,111	7,850,340
(1) 出資金	3,168,360	3,106,445
(2) 資本準備金	183,766	183,766
(3) 利益剰余金	4,706,355	4,573,633
(4) 処分未済持分	△ 27,830	△ 10,965
(5) 子会社の所有する親組合出資金	△ 2,540	△ 2,540
純資産の部合計		8,028,111
負債及び純資産の部合計		134,098,369
		135,292,668

(6) 連結損益計算書

(単位：千円)

科 目	2023年度	2022年度
	(自2023年4月1日 至2024年3月31日)	(自2022年4月1日 至2023年3月31日)
1 事業総利益	1,709,873	1,844,537
(1) 信用事業収益	805,061	808,800
資金運用収益	735,584	731,184
(うち預金利息)	(436,684)	(429,552)
(うち有価証券利息)	(30)	(-)
(うち貸出金利息)	(190,155)	(180,898)
(うちその他受入利息)	(108,714)	(120,734)
役務取引等収益	32,454	30,445
その他経常収益	37,023	47,169
(2) 信用事業費用	197,509	182,906
資金調達費用	31,078	37,449
(うち貯金利息)	(26,473)	(33,418)
(うち給付補填備金繰入)	(1,258)	(1,619)
(うちその他支払利息)	(3,346)	(2,411)
役務取引等費用	6,255	6,649
その他経常費用	160,174	138,807
(うち貸倒引当金繰入額)	(7,715)	(△ 6,223)
信用事業総利益	607,552	625,893
(3) 共済事業収益	591,298	656,450
共済付加収入	515,686	537,937
その他の収益	75,612	118,513
(4) 共済事業費用	41,003	43,193
共済推進費及び共済保全費	19,223	17,805
その他の費用	21,779	25,387
共済事業総利益	550,295	613,257
(5) 購買事業収益	6,197,416	5,925,694
購買品供給高	6,130,373	5,876,981
購買手数料	12,698	-
その他の収益	54,343	48,713
(6) 購買事業費用	5,698,191	5,422,336
購買品供給原価	5,431,942	5,151,330
購買供給費	235,846	244,328
その他の費用	30,402	26,677
購買事業総利益	499,224	503,358
(7) 販売事業収益	113,135	102,016
販売手数料	99,281	92,146
その他の収益	13,854	9,869

(単位：千円)

科 目	2023年度	2022年度
	(自2023年4月1日 至2024年3月31日)	(自2022年4月1日 至2023年3月31日)
(8) 販売事業費用	65,275	32,283
販売費	49,384	29,698
その他の費用	15,890	2,584
販売事業総利益	47,859	69,733
(9) その他事業収益	94,493	101,813
(10) その他事業費用	89,553	69,519
その他事業総利益	4,940	32,294
2 事業管理費	1,493,926	1,651,697
(1) 人件費	975,447	1,166,847
(2) その他事業管理費	518,478	484,850
事　業　利　益	215,948	192,839
3 事業外収益	211,700	193,556
(1) 受取雑利息	1	2
(2) 受取出資配当金	57,153	57,153
(3) 賃貸料	141,422	123,319
(4) 貸倒引当金戻入	3	0
(5) ポイント引当金戻入	2,293	3,872
(6) 雜収入	10,825	9,208
4 事業外費用	106,232	110,641
(1) 支払利息	1,551	1,408
(2) 賃貸費用	103,456	106,659
(3) その他貸倒引当金繰入	0	347
(4) 雜損失	1,224	2,225
経　常　利　益	321,415	275,755
5 特別利益	148,190	91,880
(1) 固定資産処分益	-	89,560
(2) 一般補助金	148,190	2,320
6 特別損失	164,296	41,050
(1) 固定資産処分損	2,239	7,319
(2) 固定資産圧縮損	148,190	2,320
(3) 減損損失	13,867	31,411
税金等調整前当期利益	305,308	326,584
法人税、住民税及び事業税	22,723	81,918
法人税等調整額	56,480	617
法人税等合計	79,204	82,536
当期剩余金	226,103	244,048

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科 目	2023年度	2022年度
	(自2023年4月1日 至2024年3月31日)	(自2022年4月1日 至2023年3月31日)
1 事業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期利益	305,308	326,584
減価償却費	194,519	183,431
減損損失	13,867	13,315
貸倒引当金の増加額	7,712	△ 8,076
賞与引当金の増加額	183	△ 7,462
退職給付に係る負債の増加額	△ 9,598	△ 8,853
その他引当金等の増加額	△ 1,099	△ 3,872
信用事業資金運用収益	△ 735,553	△ 731,184
信用事業資金調達費用	31,078	37,449
受取雑利息及び受取出資配当金	△ 57,155	△ 57,155
その他固定資産関係損益	0	△ 97,224
支払雑利息	1,551	1,408
(信用事業活動による資産及び負債の増減)		
貸出金の純増減	△ 1,028,119	△ 832,003
預金の純増減	1,000,000	2,500,000
貯金の純増減	△ 1,359,106	△ 1,303,809
その他の信用事業資産の純増減	△ 20,960	△ 2,921
その他の信用事業負債の純増減	△ 49,922	195,732
(共済事業活動による資産及び負債の増減)		
共済資金の純増減	△ 55,915	35,724
未経過共済付加収入の純増減	2,092	△ 6,305
その他の共済事業資産の純増減	3,102	△ 10,492
その他の共済事業負債の純増減	398	5,329
(経済事業活動による資産及び負債の増減)		
受取手形及び経済事業未収金の純増減	△ 45,649	△ 135,432
経済受託債権の純増減	142,155	76,345
棚卸資産の純増減	3,417	57,573
支払手形及び経済事業未払金の純増減	△ 52,691	18,345
経済受託債務の純増減	37,385	1,710
その他の経済事業資産の純増減	50	-
その他の経済事業負債の純増減	△ 674	6,419

(単位：千円)

科 目	2023年度	2022年度
	(自2023年4月1日 至2024年3月31日)	(自2022年4月1日 至2023年3月31日)
(その他の資産及び負債の増減)		
他の資産の純増減	△ 274,670	129,679
他の負債の純増減	185,744	△ 83,366
未払消費税等の増減額	△ 70,223	75,863
信用事業資金運用による収入	719,544	730,797
信用事業資金調達による支出	△ 32,347	△ 45,594
事業分量配当金の支払額	△ 93,382	△ 42,460
小 計	△ 1,238,959	1,019,495
雑利息及び出資配当金の受取額	57,155	57,155
雑利息の支払額	△ 1,613	△ 1,288
法人税等の支払額	△ 67,323	△ 52,559
事業活動によるキャッシュ・フロー	1,250,739	1,022,803
2 投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△ 10,000	-
補助金の受入による収入	166,774	2,320
固定資産の取得による支出	△ 477,429	△ 95,969
固定資産の売却による収入	-	124,281
外部出資の売却等による収入	-	968
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 320,654	31,600
3 財務活動によるキャッシュ・フロー		
設備借入金の返済による支出	△ 44,582	△ 37,440
出資の増額による収入	227,775	200,345
出資の払戻しによる支出	△ 129,105	△ 89,505
持分の取得による支出	△ 27,830	△ 10,965
財務活動によるキャッシュ・フロー	26,258	62,435
4 現金及び現金同等物の増減額	△ 1,545,136	1,116,838
5 現金及び現金同等物の期首残高	4,078,698	2,961,859
6 現金及び現金同等物の期末残高	2,533,561	4,078,698

(8) 連結注記表

2023年度	2022年度											
<p>1. 作成のための基本となる重要な事項に関する注記</p> <p>(1) 連結の範囲に関する事項 連結される子会社等は、(株)コープ武生と(株)越前たけふファームの2社です。</p> <p>(2) 連結される子会社及び子法人等の事業年度に関する事項 連結される子会社等の決算日は、(株)コープ武生は3月末日、(株)越前たけふファームは12月末日となっています。</p> <p>(3) 連結される子会社及び子法人等の資産及び負債の評価に関する事項 連結される子会社等の資産及び負債の評価については、全面時価評価法を採用しています。</p> <p>(4) 剰余金処分項目等の扱いに関する事項 連結剰余金計算書は、連結会計年度において確定した利益処分に基づいて作成しています。</p> <p>(5) 連結キャッシュ・フロー計算書における現金及び現金同等物の範囲</p> <p>①現金及び現金同等物の資金の範囲 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、連結貸借対照表上の「現金」及び「預金」のうち、「現金」及び「預金」中の当座預金、普通預金及び通知預金となっています。</p> <p>②現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目的金額との関係</p> <table> <tbody> <tr> <td>現金及び預金勘定</td> <td>92,133,561千円</td> </tr> <tr> <td>別段預金、定期性預金及び譲渡性預金</td> <td>89,600,000千円</td> </tr> <tr> <td>現金及び現金同等物</td> <td>2,533,561千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 重要な会計方針に係る事項に関する注記</p> <p>(1) 有価証券（株式形態の外部出資を含む）の評価基準及び評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ①満期保有目的の債券：償却原価法（定額法） ②子会社株式：移動平均法による原価法 ③その他有価証券 <ul style="list-style-type: none"> ア. 市場価格のない株式等：移動平均法による原価法 <p>(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ①購買品（数量管理品）については、総平均法による原価法（収益性の低下による簿価切り下げの方法）により行っています。 ②購買品（売価管理品）については、売価還元法による原価法（収益性の低下による簿価切り下げの方法）により行っています。 ③購買品（農機具）については、個別法による原価法（収益性の低下による簿価切り下げの方法）により行っています。 ④宅地等（販売用不動産）については、個別法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）により行っています。 ⑤購買品（農機部品）及び、その他の棚卸資産については、最終仕入原価法による原価法（収益性の低下による簿価切り下げの方法）により行っています。 <p>(3) 固定資産の減価償却の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ①有形固定資産 定率法を採用しています。ただし、1998年4月1日以降取得した建物（建物附属設備は除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しています。 ②無形固定資産 定額法を採用しています。 <p>1. 作成のための基本となる重要な事項に関する注記</p> <p>(1) 連結の範囲に関する事項 連結される子会社等は、(株)コープ武生と(株)越前たけふファームの2社です。</p> <p>(2) 連結される子会社及び子法人等の事業年度に関する事項 連結される子会社等の決算日は、(株)コープ武生は3月末日、(株)越前たけふファームは12月末日となっています。</p> <p>(3) 連結される子会社及び子法人等の資産及び負債の評価に関する事項 連結される子会社等の資産及び負債の評価については、全面時価評価法を採用しています。</p> <p>(4) 剰余金処分項目等の扱いに関する事項 連結剰余金計算書は、連結会計年度において確定した利益処分に基づいて作成しています。</p> <p>(5) 連結キャッシュ・フロー計算書における現金及び現金同等物の範囲</p> <p>①現金及び現金同等物の資金の範囲 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、連結貸借対照表上の「現金」及び「預金」のうち、「現金」及び「預金」中の当座預金、普通預金及び通知預金となっています。</p> <p>②現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目的金額との関係</p> <table> <tbody> <tr> <td>現金及び預金勘定</td> <td>94,678,698千円</td> </tr> <tr> <td>別段預金、定期性預金及び譲渡性預金</td> <td>90,600,000千円</td> </tr> <tr> <td>現金及び現金同等物</td> <td>4,078,698千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 重要な会計方針に係る事項に関する注記</p> <p>(1) 有価証券（株式形態の外部出資を含む）の評価基準及び評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ①子会社株式：移動平均法による原価法 ②その他有価証券 <ul style="list-style-type: none"> ア. 市場価格のない株式等：移動平均法による原価法 <p>(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ①購買品（数量管理品）については、総平均法による原価法（収益性の低下による簿価切り下げの方法）により行っています。 ②購買品（売価管理品）については、売価還元法による原価法（収益性の低下による簿価切り下げの方法）により行っています。 ③購買品（農機具）については、個別法による原価法（収益性の低下による簿価切り下げの方法）により行っています。 ④宅地等（販売用不動産）については、個別法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）により行っています。 ⑤購買品（農機部品）及び、その他の棚卸資産については、最終仕入原価法による原価法（収益性の低下による簿価切り下げの方法）により行っています。 <p>(3) 固定資産の減価償却の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ①有形固定資産 定率法を採用しています。ただし、1998年4月1日以降取得した建物（建物附属設備は除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しています。 ②無形固定資産 定額法を採用しています。 	現金及び預金勘定	92,133,561千円	別段預金、定期性預金及び譲渡性預金	89,600,000千円	現金及び現金同等物	2,533,561千円	現金及び預金勘定	94,678,698千円	別段預金、定期性預金及び譲渡性預金	90,600,000千円	現金及び現金同等物	4,078,698千円
現金及び預金勘定	92,133,561千円											
別段預金、定期性預金及び譲渡性預金	89,600,000千円											
現金及び現金同等物	2,533,561千円											
現金及び預金勘定	94,678,698千円											
別段預金、定期性預金及び譲渡性預金	90,600,000千円											
現金及び現金同等物	4,078,698千円											

(8) 連結注記表

	2023年度	2022年度
(4) 引当金の計上基準		
①貸倒引当金		
貸倒引当金は、予め定めている資産査定規程、資産査定事務要領、経理規程及び資産の償却・引当規程に則り、次のとおり計上しています。		
破産、特別清算等、法的に経営破綻の事実が発生している債務者（破綻先）に係る債権、及びそれと同等の状況にある債務者（実質破綻先）に係る債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しています。		
また、現在は経営破綻の状況にはないが、今後、経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者（破綻懸念先）に係る債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断して必要と認められる額を計上しています。		
上記以外の債権については、今後1年間の予想損失額又は今後3年間の予想損失額を見積り計上しています。予想損失額は、過去1年間又は過去3年間の貸倒実績を基礎とした貸倒実績率の過去の一定期間における平均値に基づき損失率を求め、これに将来見込み等必要な修正を加えて算定しております。		
すべての債権は、資産査定規程に基づき、資産査定部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した監査室が査定結果を監査しております。		
②賞与引当金		
職員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額のうち当年度負担分を計上しています。		
③退職給付引当金		
職員の退職給付に備えるため、当年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しています。なお、退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しています。		
(5) 収益及び費用の計上基準		
当組合の利用者等との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び収益を認識する通常の時点は以下のとおりであります。		
①販売事業		
組合員が生産した農畜産物を当組合が集荷して共同で業者等に販売する事業であり、当組合は利用者等との契約に基づき、販売品を引き渡す義務を負っております。この利用者等に対する履行義務は、販売品の引き渡し時点で充足することから、当該時点での収益を認識しております。		
②保管事業		
組合員が生産した米・麦・大豆等の農産物を保管・管理する事業であり、当組合は利用者等との契約に基づき、役務提供する義務を負っております。この利用者等に対する履行義務は、農産物の保管期間にわたって充足することから、当該サービスの進捗度に応じて収益を認識しております。		
③宅地等供給事業		
組合員の委託に基づき行う宅地等の売渡しの仲介サービスによるものであり、利用者等との契約に基づき、役務提供する義務を負っております。		

2023年度

この利用者等に対する履行義務は、売買当事者間において宅地等の売渡しが完了した時点において充足されると判断し、仲介した物件の引渡時点で収益を認識しております。

④指導事業

組合員の営農にかかる各種相談・研修・経理サービスを提供する事業であり、当組合は利用者等との契約に基づき、役務提供する義務を負っております。この利用者等に対する履行義務は、主にサービスの提供が完了した時点で充足することから、当該時点で収益を認識しております。

⑤生活事業

農業生産に必要な資材と生活に必要な物資を共同購入し、利用者に供給する事業であり、当社は利用者等との契約に基づき、商品を引き渡す義務を負っています。この利用者等に対する履行義務は、商品の引渡し時点で充足することから、当該時点で収益を認識しております。

(6) 消費税の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっています。

ただし、固定資産に係る控除対象外消費税等は、雑資産に計上し、5年間で均等償却を行っています。

(7) 記載金額の端数処理の方法

記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しており、金額千円未満の科目については、「0」で表示しています。

(8) その他計算書類等の作成のための基本となる重要な事項

①事業別収益・事業別費用の内部取引の処理方法について

当組合は、事業別の収益及び費用について、事業間取引の相殺表示を行っておりません。よって、事業別の収益及び費用については、事業間の内部取引も含めて表示しております。

ただし、損益計算書の事業収益、事業費用については、農業協同組合法施行規則にしたがい、各事業間の内部損益を除去した額を記載しております。

②米共同計算

当組合は生産者が生産した農作物を無条件委託販売により販売を行い、販売代金と販売に要する経費をプール計算することで生産者に支払いをする共同計算を行っております。そのうち、米については販売を当組合が行いプール計算を行う「JA共同計算」を行っております。

共同計算の会計処理については、貸借対照表の経済受託債権に、受託販売について生じた委託者に対する立替金及び販売品の販売委託者に支払った概算金を計上しております。

また、経済受託債務に、受託販売品の販売代金を計上しております。

共同計算にかかる収入（販売代金等）と支出（概算金、検査手数料、倉庫保管料、集荷費等）の計算を行い、当組合が受け取る販売手数料を控除した残額を精算金として生産者に支払った時点において、経済受託債権及び経済受託債務の相殺後の経済受託債務残高を減少する会計処理を行っております。

③当組合が代理人として関与する取引の損益計算書の表示について

販売事業収益のうち、当組合が代理人として販売品の販売に関与している場合には、純額で収益を認識して、販売手数料として表示しております。

2022年度

この利用者等に対する履行義務は、売買当事者間において宅地等の売渡しが完了した時点において充足されると判断し、仲介した物件の引渡時点で収益を認識しております。

④指導事業

組合員の営農にかかる各種相談・研修・経理サービスを提供する事業であり、当組合は利用者等との契約に基づき、役務提供する義務を負っております。この利用者等に対する履行義務は、主にサービスの提供が完了した時点で充足することから、当該時点で収益を認識しております。

⑤生活事業

農業生産に必要な資材と生活に必要な物資を共同購入し、利用者に供給する事業であり、当社は利用者等との契約に基づき、商品を引き渡す義務を負っています。この利用者等に対する履行義務は、商品の引渡し時点で充足することから、当該時点で収益を認識しております。

(6) 消費税の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっています。

ただし、固定資産に係る控除対象外消費税等は、雑資産に計上し、5年間で均等償却を行っています。

(7) 記載金額の端数処理の方法

記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しており、金額千円未満の科目については、「0」で表示しています。

(8) その他計算書類等の作成のための基本となる重要な事項

①事業別収益・事業別費用の内部取引の処理方法について

当組合は、事業別の収益及び費用について、事業間取引の相殺表示を行っておりません。よって、事業別の収益及び費用については、事業間の内部取引も含めて表示しております。

ただし、損益計算書の事業収益、事業費用については、農業協同組合法施行規則にしたがい、各事業間の内部損益を除去した額を記載しております。

②米共同計算

当組合は生産者が生産した農作物を無条件委託販売により販売を行い、販売代金と販売に要する経費をプール計算することで生産者に支払いをする共同計算を行っております。そのうち、米については販売を当組合が行いプール計算を行う「JA共同計算」を行っております。

共同計算の会計処理については、貸借対照表の経済受託債権に、受託販売について生じた委託者に対する立替金及び販売品の販売委託者に支払った概算金を計上しております。

また、経済受託債務に、受託販売品の販売代金を計上しております。

共同計算にかかる収入（販売代金等）と支出（概算金、検査手数料、倉庫保管料、集荷費等）の計算を行い、当組合が受け取る販売手数料を控除した残額を精算金として生産者に支払った時点において、経済受託債権及び経済受託債務の相殺後の経済受託債務残高を減少する会計処理を行っております。

③当組合が代理人として関与する取引の損益計算書の表示について

販売事業収益のうち、当組合が代理人として販売品の販売に関与している場合には、純額で収益を認識して、販売手数料として表示しております。

3. 会計上の見積りに関する注記

(1) 繰延税金資産の回収可能性

①当事業年度の計算書類に計上した金額はありません（相殺前34,306千円）。

②会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報

繰延税金資産は、次年度以降の課税所得の見積り額を限度に、当事業年度末における将来加算一時差異の解消見込をスケジューリングして計上しています。なお、繰延税金資産の計上にあたっては、当事業年度末における将来減算一時差異の解消見込も含めてスケジューリングしています。

次年度以降の課税所得の見積りについては、中期3カ年（2024～2026年度）事業計画等を基礎として、当組合が将来獲得可能な課税所得の時期及び金額を合理的に見積っております。

しかし、これらの見積りは将来の不確実な経営環境及び組合の経営状況の影響を受けます。よって、実際に課税所得が生じた時期及び金額が見積りと異なった場合には、次年度以降の計算書類において認識する繰延税金資産の金額に重要な影響を与える可能性があります。

また、将来の税制改正により、法定実効税率が変更された場合には、次年度以降の計算書類において認識する繰延税金資産の金額に重要な影響を与える可能性があります。

(2) 固定資産の減損

①当事業年度の計算書類に計上した金額

減損損失 13,867千円

②会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報
資産又は資産グループに減損の兆候が存在する場合には、当該資産等の割引前将来キャッシュ・フローと帳簿価額を比較して減損の要否を判定し、減損が必要な場合には当該資産等の回収可能価額に基づき減損損失を算出しています。なお、減損の兆候判定等を行う資産又は資産グループの単位は、キャッシュ・イン・フローの生成に寄与する単位としています。

減損の要否判定及び減損損失算出における将来キャッシュ・フローは過去3事業年度（2021年～2023年度）実績を基礎に、割引率については固定資産の収益率等を勘案して算出しております。

これらの仮定は将来の不確実な経営環境及び組合の経営状況の影響を受け、次年度以降の計算書類に重要な影響を与える可能性があります。

(3) 貸倒引当金

①当事業年度の計算書類に計上した金額

貸倒引当金 73,879千円

②会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報

ア. 算定方法

「2. 重要な会計方針に係る事項に関する注記」の「(4) 引当金の計上基準」の「①貸倒引当金」に記載しております。

3. 会計方針の変更に関する注記

(1) 時価の算定に関する会計基準等の適用

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。）を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することいたしました。これによる当事業年度の計算書類への影響はありません。

4. 会計上の見積りに関する注記

(1) 繰延税金資産の回収可能性

①当事業年度の計算書類に計上した金額はありません（相殺前55,265千円）。

②会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報

繰延税金資産は、次年度以降の課税所得の見積り額を限度に、当事業年度末における将来加算一時差異の解消見込をスケジューリングして計上しています。なお、繰延税金資産の計上にあたっては、当事業年度末における将来減算一時差異の解消見込も含めてスケジューリングしています。

次年度以降の課税所得の見積りについては、中期3カ年（2023～2025年度）事業計画等を基礎として、当組合が将来獲得可能な課税所得の時期及び金額を合理的に見積っております。

しかし、これらの見積りは将来の不確実な経営環境及び組合の経営状況の影響を受けます。よって、実際に課税所得が生じた時期及び金額が見積りと異なった場合には、次年度以降の計算書類において認識する繰延税金資産の金額に重要な影響を与える可能性があります。

また、将来の税制改正により、法定実効税率が変更された場合には、次年度以降の計算書類において認識する繰延税金資産の金額に重要な影響を与える可能性があります。

(2) 固定資産の減損

①当事業年度の計算書類に計上した金額

減損損失 31,411千円

②会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報

資産又は資産グループに減損の兆候が存在する場合には、当該資産等の割引前将来キャッシュ・フローと帳簿価額を比較して減損の要否を判定し、減損が必要な場合には当該資産等の回収可能価額に基づき減損損失を算出しています。なお、減損の兆候判定等を行う資産又は資産グループの単位は、キャッシュ・イン・フローの生成に寄与する単位としています。

減損の要否判定及び減損損失算出における将来キャッシュ・フローは過去3事業年度（2020年～2022年度）実績を基礎に、割引率については固定資産の収益率等を勘案して算出しております。

これらの仮定は将来の不確実な経営環境及び組合の経営状況の影響を受け、次年度以降の計算書類に重要な影響を与える可能性があります。

(3) 貸倒引当金

①当事業年度の計算書類に計上した金額

貸倒引当金 66,166千円

②会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報

ア. 算定方法

「2. 重要な会計方針に係る事項に関する注記」の「(4) 引当金の計上基準」の「①貸倒引当金」に記載しております。

2023年度

イ. 主要な仮定

主要な仮定は、「債務者区分の判定における貸出先の将来の業績見通し」であります。「債務者区分の判定における貸出先の将来の業績見通し」は、各債務者の収益獲得能力を個別に評価し、設定しております。

ウ. 翌事業年度に係る計算書類に与える影響

個別貸出先の業績変化等により、当初の見積りに用いた仮定が変化した場合は、翌事業年度に係る計算書類における貸倒引当金に重要な影響を及ぼす可能性があります。

4. 貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産に係る圧縮記帳額

土地収用法、また、国庫補助金等の受領により、有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額は148,190千円であり、その内訳は次のとおりです。

建物	147,040千円
機械装置	1,150千円

(2) 減損損失累計額の表示方法

減価償却累計額には、減損損失累計額71,059千円が含まれています。

(3) リース契約により使用する重要な固定資産の内容

貸借対照表に計上した固定資産のほか、移動店舗車4台、テラーズマシン1台、共済端末機32台、共済契約タブレット端末機56台、損保ジャパン・SOMPOひまわり生命タブレット端末機15台、POSレジ9台、精算機8台、みどり館におけるショーケース・空調・冷却設備一式については、リース契約により使用しています。

(4) 担保に供されている資産の内容及びその金額

為替決済取引の担保として、定期預金1,500,000千円を差し入れています。

(5) 保証債務

下記の通り、当組合は(株)コープ武生および(株)越前たけふファームの(株)日本政策金融公庫からの借入金に対し、債務保証を行っています。

(株)コープ武生 当組合の保証額 81,760千円
(株)越前たけふファーム

当組合の保証額 50,000千円

(6) 子会社等に対する金銭債権及び金銭債務の総額

子会社等に対する金銭債権は、199,725千円です。子会社等に対する金銭債務の総額は、179,486千円です。

(7) 役員に対する金銭債権及び金銭債務の総額

理事及び監事に対する金銭債権の総額は、11,486千円です。

理事及び監事に対する金銭債務はありません。

(8) 債権のうち農業協同組合法施行規則第204条第1項第1号ホ(2) (i) から(iv) までに掲げるものの額及びその合計額

債権のうち、破産更生債権及びこれらに準ずる債権額は53,296千円、危険債権額は103,905千円、三月以上延滞債権額は4,856千円、貸出条件緩和債権額はありません。

①破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。

2022年度

イ. 主要な仮定

主要な仮定は、「債務者区分の判定における貸出先の将来の業績見通し」であります。「債務者区分の判定における貸出先の将来の業績見通し」は、各債務者の収益獲得能力を個別に評価し、設定しております。

ウ. 翌事業年度に係る計算書類に与える影響

個別貸出先の業績変化等により、当初の見積りに用いた仮定が変化した場合は、翌事業年度に係る計算書類における貸倒引当金に重要な影響を及ぼす可能性があります。

5. 貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産に係る圧縮記帳額

土地収用法、また、国庫補助金等の受領により、有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額は4,254,139千円であり、その内訳は次のとおりです。

建物	1,807,843千円
機械装置	2,029,166千円
その他の有形固定資産	417,129千円

(2) 減損損失累計額の表示方法

減価償却累計額には、減損損失累計額63,841千円が含まれています。

(3) リース契約により使用する重要な固定資産の内容

貸借対照表に計上した固定資産のほか、移動店舗車4台、テラーズマシン1台、共済端末機32台、共済契約タブレット端末機56台、損保ジャパン・SOMPOひまわり生命タブレット端末機15台、POSレジ9台、精算機8台については、リース契約により使用しています。

(4) 担保に供されている資産の内容及びその金額

為替決済取引の担保として、定期預金1,500,000千円を差し入れています。

(5) 保証債務

下記の通り、当組合は(株)コープ武生および(株)越前たけふファームの(株)日本政策金融公庫からの借入金に対し、債務保証を行っています。

(株)コープ武生 当組合の保証額 97,600千円
(株)越前たけふファーム

当組合の保証額 50,000千円

(6) 子会社等に対する金銭債権及び金銭債務の総額

子会社等に対する金銭債権は、ありません。

子会社等に対する金銭債務の総額は、268,432千円です。

(7) 役員に対する金銭債権及び金銭債務の総額

理事及び監事に対する金銭債権の総額は、27,790千円です。

理事及び監事に対する金銭債務はありません。

(8) 債権のうち農業協同組合法施行規則第204条第1項第1号ホ(2) (i) から(iv) までに掲げるものの額及びその合計額

債権のうち、破産更生債権及びこれらに準ずる債権額は46,522千円、危険債権額は117,622千円、三月以上延滞債権は10,222千円、貸出条件緩和債権額はありません。

①破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。

2023年度

- ②危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないものの、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権（破産更生債権及びこれらに準ずる債権を除く。）です。
- ③三月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権及び危険債権に該当しないものです。
- ④貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払い猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権及び三月以上延滞債権に該当しないものです。
- 破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権、三月以上延滞債権の合計額は162,057千円です。
- なお、上記に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額です。

5. 損益計算書に関する注記

(1) 子会社等との事業取引による取引高の総額及び事業取引以外の取引による取引高の総額	
①子会社等との取引による収益総額	76,012千円 うち事業取引以外の取引高 76,012千円
②子会社等との取引による費用総額	1千円 うち事業取引以外の取引高 1千円

(2) 減損損失に関する注記

①グループの概要

一般資産については管理会計の単位としている基幹支店を基本に、賃貸資産及び遊休資産については施設単位でグループ化をしています。また、本店、営農センター、乾燥施設、越前たけふファーム関係については、独立したキャッシュ・フローを生み出さないものの、他の資産グループのキャッシュ・フローの生成に寄与していることから、JA全体の共用資産としています。

②減損損失を認識した資産又は資産グループの概要並びに減損損失の金額及びその内訳

当年度に減損損失を計上した固定資産は、以下のとおりです。
(単位：千円)

場所	用途	種類	金額	その他
今庄 ライス センター	遊休 資産	建物 機械装置 その他 (合計)	3,971 3,246 6,650 13,867	

③減損損失を認識するに至った経緯

今庄ライスセンターについては、当期において使用方法をサテライト拠点に変更したことによる、遊休資産として帳簿価額を回収可能価額で減額し、その差額を減損損失として認識しました。

④回収可能価額の算定方法

回収可能価額は正味売却価額を採用しております。

2022年度

- ②危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないものの、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権（破産更生債権及びこれらに準ずる債権を除く。）です。
- ③三月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権及び危険債権に該当しないものです。
- ④貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払い猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権及び三月以上延滞債権に該当しないものです。
- 破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権、三月以上延滞債権の合計額は174,367千円です。
- なお、上記に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額です。

6. 損益計算書に関する注記

(1) 子会社等との事業取引による取引高の総額及び事業取引以外の取引による取引高の総額

①子会社等との取引による収益総額	43,751千円
うち事業取引以外の取引高	43,751千円
②子会社等との取引による費用総額	1千円
うち事業取引以外の取引高	1千円

(2) 減損損失に関する注記

①グループの概要

一般資産については管理会計の単位としている基幹支店を基本に、賃貸資産及び遊休資産については施設単位でグループ化をしています。また、本店、営農センター、乾燥施設、越前たけふファーム関係については、独立したキャッシュ・フローを生み出さないものの、他の資産グループのキャッシュ・フローの生成に寄与していることから、JA全体の共用資産としています。

②減損損失を認識した資産又は資産グループの概要並びに減損損失の金額及びその内訳

当年度に減損損失を計上した固定資産は、以下のとおりです。
(単位：千円)

場所	用途	種類	金額	その他
旧 味真野 事務所	不稼働 資産	土地 建物 構築物 その他 (合計)	9,164 13,259 56 8,930 31,411	業務外 固定資 産

③減損損失を認識するに至った経緯

旧味真野事務所の資産は、2023年度の廃止に伴い減損の兆候に該当し、処分可能価額で評価しその差額を減損損失として認識しました。

④回収可能価額の算定方法

旧味真野事務所土地の回収可能価額は正味売却価額を採用しており、その時価は固定資産税評価額に基づき算定しています。

6. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

①金融商品に対する取組み方針

当組合は農家組合員や地域から預かった貯金を原資に、農家組合員や地方公共団体などへ貸付け、残った余裕金を福井県信用農業協同組合連合会等へ預けているほか、国債や地方債等による運用を行っています。

②金融商品の内容及びそのリスク

当組合が保有する金融資産は、主として当組合管内の組合員等に対する貸出金及び有価証券であり、貸出金は組合員等の契約不履行によってもたらされる信用リスクに晒されています。

③金融商品に係るリスク管理体制

ア. 信用リスクの管理

当組合は、個別の重要な案件又は大口案件については理事会において対応方針を決定しています。また、通常の貸出取引については、本店に審査部を設置し各支店と連携を図りながら、与信審査を行っています。審査にあたっては、取引先のキャッシュ・フローなどにより償還能力の評価を行うとともに、担保評価基準など厳格な審査基準を設けて、与信判定を行っています。貸出取引において資産の健全性の維持・向上を図るため、資産の自己査定を厳正に行っています。不良債権については管理・回収方針を作成・実践し、資産の健全化に取組んでいます。

また、資産自己査定の結果、貸倒引当金については「資産の償却・引当規程」に基づき必要額を計上し、資産及び財務の健全化に努めています。

イ. 市場リスクの管理

当組合では、金利リスク、価格変動リスクなどの市場性リスクを的確にコントロールすることにより、収益化及び財務の安定化を図っています。このため、財務の健全性維持と収益力強化とのバランスを重視したALMを基本に、資産・負債の金利感応度分析などを実施し、金融情勢の変化に機敏に対応できる柔軟な財務構造の構築に努めています。

とりわけ、有価証券運用については、市場動向や経済見通しなどの投資環境分析及び当組合の保有有価証券ポートフォリオの状況やALMなどを考慮し、理事会において運用方針を定めるとともに、経営層で構成するALM委員会を定期的に開催して、日常的な情報交換及び意思決定を行っています。運用部門は、理事会で決定した運用方針及びALM委員会で決定された方針などに基づき、有価証券の売買やリスクヘッジを行っています。運用部門が行った取引についてはリスク管理部門が適切な執行を行っているかどうかチェックし定期的にリスク量の測定を行い経営層に報告しています。

(市場リスクに係る定量的情報)

当組合で保有している金融商品はすべてトレーディング目的以外の金融商品です。当組合において、主要なリスク変数である金利リスクの影響を受ける主たる金融商品は、預金、貸出金、貯金、有価証券です。

当組合では、これらの金融資産及び金融負債について、期末後1年程度の金利の合理的な予想変動幅を用いた経済価値の変動額を、金利の変動リスクの管理にあたっての定量的分析に利用しています。

7. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

①金融商品に対する取組み方針

当組合は農家組合員や地域から預かった貯金を原資に、農家組合員や地方公共団体などへ貸付け、残った余裕金を福井県信用農業協同組合連合会等へ預けています。

②金融商品の内容及びそのリスク

当組合が保有する金融資産は、主として当組合管内の組合員等に対する貸出金であり、貸出金は組合員等の契約不履行によってもたらされる信用リスクに晒されています。

③金融商品に係るリスク管理体制

ア. 信用リスクの管理

当組合は、個別の重要な案件又は大口案件については理事会において対応方針を決定しています。また、通常の貸出取引については、本店に審査部を設置し各支店と連携を図りながら、与信審査を行っています。審査にあたっては、取引先のキャッシュ・フローなどにより償還能力の評価を行うとともに、担保評価基準など厳格な審査基準を設けて、与信判定を行っています。貸出取引において資産の健全性の維持・向上を図るため、資産の自己査定を厳正に行っています。不良債権については管理・回収方針を作成・実践し、資産の健全化に取組んでいます。

また、資産自己査定の結果、貸倒引当金については「資産の償却・引当規程」に基づき必要額を計上し、資産及び財務の健全化に努めています。

イ. 市場リスクの管理

当組合では、金利リスク、価格変動リスクなどの市場性リスクを的確にコントロールすることにより、収益化及び財務の安定化を図っています。このため、財務の健全性維持と収益力強化とのバランスを重視したALMを基本に、資産・負債の金利感応度分析などを実施し、金融情勢の変化に機敏に対応できる柔軟な財務構造の構築に努めています。

(市場リスクに係る定量的情報)

当組合で保有している金融商品はすべてトレーディング目的以外の金融商品です。当組合において、主要なリスク変数である金利リスクの影響を受ける主たる金融商品は、預金、貸出金、貯金です。

当組合では、これらの金融資産及び金融負債について、期末後1年程度の金利の合理的な予想変動幅を用いた経済価値の変動額を、金利の変動リスクの管理にあたっての定量的分析に利用しています。

2023年度

金利以外のすべてのリスク変数が一定であると仮定し、当年度末現在、指標となる金利が0.1%上昇したものと想定した場合には、経済価値が150,373千円減少するものと把握しています。

当該変動額は、金利を除くリスク変数が一定の場合を前提としており、金利とその他のリスク変数の相関を考慮していません。

また、金利の合理的な予想変動幅を超える変動が生じた場合には、算定額を超える影響が生じる可能性があります。

なお、経済価値変動額の計算において、分割実行案件に係る未実行金額についても含めて計算しています。

ウ. 資金調達に係る流動性リスクの管理

当組合では、資金繰りリスクについては、運用・調達について資金計画を作成し、安定的な流動性の確保に努めています。また、市場流動性リスクについては、投資判断を行う上での重要な要素と位置付け、商品ごとに異なる流動性（換金性）を把握したうえで、運用方針などの策定の際に検討を行っています。

④金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価（時価に代わるものも含む）には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額（これに準ずる価額を含む）が含まれています。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等による場合、当該価額が異なることもあります。

（2）金融商品の時価等に関する事項

①金融商品の貸借対照表計上額および時価等

当年度末における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりです。

なお、市場価値のない株式等は、次表には含めておりません。

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
預 金	91,530,924	91,375,766	△155,158
有価証券	10,000	10,061	61
満期保有の有価証券	10,000	10,061	61
貸出金	30,355,710		
貸倒引当金（*1）	△25,801		
貸倒引当金控除後	30,329,908	29,816,661	△513,247
資 産 計	121,870,832	121,202,488	△668,344
貯 金	123,093,417	123,045,314	△48,103
設備借入金	211,018	210,658	△360
負 債 計	123,304,435	123,255,972	△48,463

（*1）貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しています。

②金融商品の時価の算定に用いた評価技法の説明

【資産】

ア. 預金

満期のない預金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっています。満期のある預金については、期間に基づく区分ごとに、リスクフリーレートである翌日物金利スワップ（Overnight Index Swap 以下OISという）のレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

イ. 有価証券

有価証券について、主に国債については、活発な市場における無調整の相場価格を利用しています。地方債については、公表された相場価格を用いています。

2022年度

金利以外のすべてのリスク変数が一定であると仮定し、当年度末現在、指標となる金利が0.1%上昇したものと想定した場合には、経済価値が155,912千円減少するものと把握しています。

当該変動額は、金利を除くリスク変数が一定の場合を前提としており、金利とその他のリスク変数の相関を考慮していません。

また、金利の合理的な予想変動幅を超える変動が生じた場合には、算定額を超える影響が生じる可能性があります。

なお、経済価値変動額の計算において、分割実行案件に係る未実行金額についても含めて計算しています。

ウ. 資金調達に係る流動性リスクの管理

当組合では、資金繰りリスクについては、運用・調達について資金計画を作成し、安定的な流動性の確保に努めています。また、市場流動性リスクについては、投資判断を行う上での重要な要素と位置付け、商品ごとに異なる流動性（換金性）を把握したうえで、運用方針などの策定の際に検討を行っています。

④金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価（時価に代わるものも含む）には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額（これに準ずる価額を含む）が含まれています。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等による場合、当該価額が異なることもあります。

（2）金融商品の時価等に関する事項

①金融商品の貸借対照表計上額および時価等

当年度末における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりです。

なお、市場価値のない株式等は、次表には含めておりません。

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
預 金	94,023,428	94,071,439	48,011
貸出金	29,327,590		
貸倒引当金（*1）	△18,085		
貸倒引当金控除後	29,309,504	29,313,794	4,290
資 産 計	123,332,932	123,385,233	52,301
貯 金	124,452,523	124,450,134	△2,389
設備借入金	255,600	255,428	△172
負 債 計	124,196,923	124,194,361	△2,562

（*1）貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しています。

②金融商品の時価の算定に用いた評価技法の説明

【資産】

ア. 預金

満期のない預金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっています。満期のある預金については、期間に基づく区分ごとに、リスクフリーレートである翌日物金利スワップ（Overnight Index Swap 以下OISという）のレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

2023年度

ウ. 貸出金

貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異なっていない限り、時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額によっています。

一方、固定金利によるものは、貸出金の種類及び期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額をリスクフリーレートであるOISのレートで割り引いた額から貸倒引当金を控除して時価に代わる金額として算定しています。

また、延滞の生じている債権・期限の利益を喪失した債権等について、帳簿価額から貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額としています。

【負債】

ア. 賯金

要求払賃金については、決算日に要求された場合の支払額(帳簿価額)を時価とみなしています。

また、定期性貯金については、期間に基づく区分ごとに、将来のキャッシュ・フローをリスクフリーレートであるOISのレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

イ. 設備借入金

固定金利によるものは、一定の期間ごとに区分した当該借入金の元利金の合計額をリスクフリーレートであるOISのレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

③市場価格のない株式等は次のとおりであり、これらは①の金融商品の時価情報には含まれていません。

(単位：千円)

種類	貸借対照表計上額
外部出資	4,464,754

(*1) 外部出資のうち、市場において取引されていない株式や出資金等については、「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号2019年7月4日) 第5項に基づき、時価開示の対象とはしておりません。

④金銭債権の決算日後の償還予定額
(単位：千円)

種類	1年以内	1年超2年以内	2年超3年以内
預金	88,030,924	—	—
有価証券	—	—	—
満期保有目的債権	—	—	—
貸出金 (*1, 2)	3,643,989	2,546,530	2,461,251
合計	91,674,913	2,546,530	2,461,251
種類	3年超4年以内	4年超5年以内	5年超
預金	—	—	3,500,000
有価証券	—	—	10,000
満期保有目的債権	—	—	10,000
貸出金 (*1, 2)	2,334,610	2,253,582	17,300,986
合計	2,334,610	2,253,582	20,810,986

(*1) 貸出金のうち、当座貸越485,261千円については「1年以内」に含めています。

(*2) 貸出金のうち、三月以上延滞が生じている債権・期限の利益を喪失した債権等16,213千円は償還の予定が見込まれないため、含めていません。

2022年度

イ. 貸出金

貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異なっていない限り、時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額によっています。

一方、固定金利によるものは、貸出金の種類及び期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額をリスクフリーレートであるOISのレートで割り引いた額から貸倒引当金を控除して時価に代わる金額として算定しています。

また、延滞の生じている債権・期限の利益を喪失した債権等について、帳簿価額から貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額としています。

【負債】

ア. 賯金

要求払賃金については、決算日に要求された場合の支払額(帳簿価額)を時価とみなしています。

また、定期性貯金については、期間に基づく区分ごとに、将来のキャッシュ・フローをリスクフリーレートであるOISのレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

イ. 設備借入金

固定金利によるものは、一定の期間ごとに区分した当該借入金の元利金の合計額をリスクフリーレートであるOISのレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。

③市場価格のない株式等は次のとおりであり、これらは①の金融商品の時価情報には含まれていません。

(単位：千円)

種類	貸借対照表計上額
外部出資	4,464,754

(*1) 外部出資のうち、市場において取引されていない株式や出資金等については、「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号2019年7月4日) 第5項に基づき、時価開示の対象とはしておりません。

④金銭債権の決算日後の償還予定額
(単位：千円)

種類	1年以内	1年超2年以内	2年超3年以内
預金	90,523,428	—	—
貸出金 (*1, 2)	2,685,720	2,730,102	2,523,949
合計	93,209,148	2,730,102	2,523,949
種類	3年超4年以内	4年超5年以内	5年超
預金	—	—	3,500,000
貸出金 (*1, 2)	2,409,278	2,240,722	16,721,602
合計	2,409,278	2,240,722	20,221,602

(*1) 貸出金のうち、当座貸越304,390千円については「1年以内」に含めています。

(*2) 貸出金のうち、三月以上延滞が生じている債権・期限の利益を喪失した債権等16,213千円は償還の予定が見込まれないため、含めていません。

2023年度

⑤有利子負債の決算日後の返済予定額 (単位:千円)

種類	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内
貯金(*1)	118,366,867	3,606,755	861,208
設備借入金	21,600	21,600	21,600
合計	118,388,467	3,628,355	882,808
種類	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
貯金(*1)	162,430	86,900	9,257
設備借入金	21,600	-	-
合計	184,030	86,900	9,257

(*1) 貯金のうち、要求払い貯金については「1年以内」に含めています。

7. 有価証券に関する注記

(1) 有価証券の時価、評価差額に関する事項は、次の通りです。

①満期保有目的の債券

満期保有の債券において、種類ごとの貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。
(単位:千円)

種類	貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	地方債	10,000	10,061
	小計	10,000	10,061
合計		10,000	10,061

8. 退職給付に関する注記

(1) 採用している退職給付制度の概要

職員の退職給付に充てるため、退職給与規程に基づき、退職一時金制度を採用しています。また、この制度に加え、りそな銀行等との契約に基づく確定給付型年金制度及び(一財)全国農林漁業団体共済会との契約に基づく退職金共済制度を採用しています。
退職金共済制度の積立額は61,691千円です。

なお、退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しています。

(2) 退職給付引当金及び前払年金費用の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職給付引当金	49,728千円
期首における前払年金費用	△ 526,683千円
純額(期首)	△ 476,717千円
退職給付費用	△ 88,467千円
退職給付の支払額	△ 8,171千円
確定給付型年金制度への拠出金	△ 43,829千円
純額(期末)	△ 617,424千円

期末における退職給付引当金	40,367千円
期末における前払年金費用	△ 657,792千円

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び

前払年金費用の調整表	
退職給付債務	840,996千円
年金資産	△ 1,435,914千円
未積立退職給付債務	△ 594,917千円

2022年度

⑤有利子負債の決算日後の返済予定額 (単位:千円)

種類	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内
貯金(*1)	118,456,133	4,567,097	1,411,118
設備借入金	21,600	21,600	21,600
合計	118,210,233	4,588,697	1,432,718
種類	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
貯金(*1)	168,175	101,523	15,977
設備借入金	21,600	21,600	21,600
合計	189,775	123,123	15,977

(*1) 貯金のうち、要求払い貯金については「1年以内」に含めています。

8. 退職給付に関する注記

(1) 採用している退職給付制度の概要

職員の退職給付に充てるため、退職給与規程に基づき、退職一時金制度を採用しています。また、この制度に加え、りそな銀行等との契約に基づく確定給付型年金制度及び(一財)全国農林漁業団体共済会との契約に基づく退職金共済制度を採用しています。
退職金共済制度の積立額は64,496千円です。

なお、退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しています。

(2) 退職給付引当金及び前払年金費用の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職給付引当金	57,658千円
期首における前払年金費用	△ 568,898千円
純額(期首)	△ 510,078千円
退職給付費用	90,355千円
退職給付の支払額	△ 5,769千円
確定給付型年金制度への拠出金	△ 50,063千円
純額(期末)	△ 476,717千円

期末における退職給付引当金	69,931千円
期末における前払年金費用	△ 526,683千円

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び

前払年金費用の調整表	
退職給付債務	928,873千円
年金資産	△ 1,385,625千円
未積立退職給付債務	△ 456,751千円

2023年度

退職給付引当金	62,874千円
前払年金費用	△ 657,792千円

(4) 退職給付に関連する損益

勤務費用	△ 88,467千円
割増退職金支払額等	23,436千円
退職給付費用	△ 65,031千円

(5) 特例業務負担金の将来見込額

人件費(うち法定福利費)には、厚生年金保険制度及び農林漁業団体職員共済組合制度の統合を図るための農林漁業団体職員共済組合法等を廃止する等の法律附則第57条に基づき、旧農林共済組合(存続組合)が行う特例年金等の業務に要する費用に充てるため拠出した特例業務負担金 14,418千円を含めて計上しています。

なお、同組合より示された2024年3月現在における2032年3月までの特例業務負担金の将来見込額は、84,673千円となっています。

9. 税効果会計に関する注記

(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生原因別の主な内訳等

繰延税金資産	
退職給付引当金	11,361千円
賞与引当金	14,458千円
貸倒引当金	20,426千円
無形固定資産	9,374千円
棚卸資産	6,627千円
減価償却費	9,712千円
減損損失(土地)	61,795千円
未払費用(解体費用)	3,497千円
その他	14,714千円
繰延税金資産小計	149,134千円
評価性引当額	△ 107,865千円
繰延税金資産合計(A)	41,268千円
繰延税金負債	
前払年金費用	△ 181,945千円
繰延税金負債合計(B)	△ 181,945千円
繰延税金負債の純額(A) + (B)	△ 140,676千円

(2) 法定実効税率と法人税等負担率との差異の主な原因

法定実効税率	27.66 %
(株)コープ武生	30.46 %
(株)越前たけふファーム (調整)	34.09 %
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.95 %
受取出資配当金等の益金に算入されない項目	△ 2.42 %
事業分量配当	△ 8.39 %
住民税均等割	1.12 %
評価性引当額の増減	5.80 %
その他	△ 2.29 %
税効果会計適用後の法人税等の負担率	22.86 %

10. 賃貸等不動産に関する注記

当組合では、越前市、南越前町において保有する土地及び建物を賃貸の用に供しています。2023年度における当該賃貸不動産に関する賃貸損益は37,966千円(賃貸収益は賃貸料に、主な費用は賃貸費用に計上)です。

2022年度

退職給付引当金	69,931千円
前払年金費用	△ 526,683千円

(4) 退職給付に関連する損益

勤務費用	90,355千円
割増退職金支払額等	10,114千円
退職給付費用	100,470千円

(5) 特例業務負担金の将来見込額

人件費(うち法定福利費)には、厚生年金保険制度及び農林漁業団体職員共済組合制度の統合を図るための農林漁業団体職員共済組合法等を廃止する等の法律附則第57条に基づき、旧農林共済組合(存続組合)が行う特例年金等の業務に要する費用に充てるため拠出した特例業務負担金 14,524千円を含めて計上しています。

なお、同組合より示された2023年3月現在における2032年3月までの特例業務負担金の将来見込額は、101,130千円となっています。

9. 税効果会計に関する注記

(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生原因別の主な内訳等

繰延税金資産	
退職給付引当金	14,015千円
賞与引当金	14,349千円
貸倒引当金	18,287千円
無形固定資産	9,374千円
棚卸資産	6,627千円
減価償却費	9,578千円
減損損失(土地)	61,795千円
未払費用(解体費用)	5,967千円
その他	10,406千円
繰延税金資産小計	150,401千円
評価性引当額	△ 88,911千円
繰延税金資産合計(A)	61,484千円
繰延税金負債	
前払年金費用	△ 145,680千円
繰延税金負債合計(B)	△ 145,680千円
繰延税金負債の純額(A) + (B)	△ 84,196千円

(2) 法定実効税率と法人税等負担率との差異の主な原因

法定実効税率	27.66 %
(株)コープ武生	30.46 %
(株)越前たけふファーム (調整)	34.09 %
交際費等永久に損金に算入されない項目	2.20 %
事業分量配当	△ 4.70 %
住民税均等割	1.07 %
評価性引当額の増減	△ 4.68 %
その他	0.32 %
税効果会計適用後の法人税等の負担率	24.56 %

10. 賃貸等不動産に関する注記

当組合では、越前市、南越前町において保有する土地及び建物を賃貸の用に供しています。2022年度における当該賃貸不動産に関する賃貸損益は26,771千円(賃貸収益は賃貸料に、主な費用は賃貸費用に計上)です。

2023年度

また、当該賃貸等不動産の貸借対照表計上額、当期増減額及び時価は、次のとおりです。

(単位：千円)

貸借対照表計上額		当年度末の時価
当年度期首残高	当年度増減額	
1,554,074	△18,390	1,547,418
		1,238,582

(注1) 貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額です。

(注2) 当年度末の時価は、主として固定資産税評価額または路線価に基づいて、当組合で算定した金額です。

11. 収益認識に関する注記

(1) 収益を理解するための基礎となる情報

「2. 重要な会計方針に係る事項に関する注記」の「(5) 収益及び費用の計上基準」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

2022年度

また、当該賃貸等不動産の貸借対照表計上額、当期増減額及び時価は、次のとおりです。

(単位：千円)

貸借対照表計上額		当年度末の時価
当年度期首残高	当年度増減額	
1,563,157	△9,083	1,554,074
		1,253,709

(注1) 貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額です。

(注2) 当年度末の時価は、主として固定資産税評価額または路線価に基づいて、当組合で算定した金額です。

11. 収益認識に関する注記

(1) 収益を理解するための基礎となる情報

「2. 重要な会計方針に係る事項に関する注記」の「(5) 収益及び費用の計上基準」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(9) 連結剰余金計算書

(単位：千円)

科 目	2023年度	2022年度
(資本剰余金の部)		
1 資本剰余金期首残高	183,766	183,766
2 資本剰余金増加高	-	-
3 資本剰余金減少高	-	-
4 資本剰余金期末残高	183,766	183,766
(利益剰余金の部)		
1 利益剰余金期首残高	4,573,633	4,372,045
2 利益剰余金増加高	226,103	244,048
当期剰余金	226,103	244,048
3 利益剰余金減少高	93,382	42,460
配当金	93,382	42,460
4 利益剰余金期末残高	4,706,355	4,573,633

(10) 農協法に基づく開示債権

(単位：千円、%)

債権区分	2023年度	2022年度
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	53,296	46,522
危険債権	103,905	117,622
要管理債権	4,856	10,222
三月以上延滞債権	4,856	10,222
貸出条件緩和債権	-	-
小 計 (A)	162,057	174,367
保全額(合計) (B)	162,088	174,415
担保・保証	136,287	156,330
引 当	25,801	18,085
保全率(B/A)	100.0	100.0
正常債権	30,427,870	29,171,402
合 計	30,589,927	29,345,768

1. 破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始、更生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権をいいます。
2. 危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権をいいます。
3. 要管理債権とは、4. 「三月以上延滞債権」に該当する貸出金と5. 「貸出条件緩和債権」に該当する貸出金の合計額をいいます。
4. 三月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で、破綻更生債権及びこれらに準ずる債権および危険債権に該当しないものをいいます。
5. 貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で、破綻更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権及び三月以上延滞債権に該当しないものをいいます。
6. 正常債権とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、上記に掲げる債権以外のものに区分される債権をいいます。

(11) 連結ベースの事業別経営収益等

(単位：千円)

区分	項目	2023年度	2022年度
信用事業	事業収益	805,061	808,801
	経常利益	191,781	147,719
	資産の額	122,579,720	124,057,483
共済事業	事業収益	591,298	656,450
	経常利益	164,211	146,559
	資産の額	7,930	11,032
農業関連事業	事業収益	181,432	178,145
	経常利益	9,673	37,665
	資産の額	1,452,757	1,552,727
その他事業	事業収益	6,223,613	5,951,378
	経常利益	△ 44,250	△ 56,190
	資産の額	10,057,960	9,671,424
計	事業収益	7,801,406	7,594,775
	経常利益	321,415	275,755
	資産の額	134,098,369	135,292,668

(注) 連結事業収益は、銀行等の連結経常収益に相当するものです。

2. 連結自己資本の充実の状況

2024年3月末における連結自己資本比率は、17.30%となりました。

連結自己資本は、組合員の一般出資によっています。

○普通出資による資本調達額

項目	内 容
発行主体	越前たけふ農業協同組合
資本調達手段の種類	普通出資
コア資本に係る基礎項目 に算入した額	3,168百万円（前年度3,106百万円）

当連結グループでは、適正なプロセスにより連結自己資本比率を正確に算出し、JAを中心¹に信用リスクやオペレーショナル・リスクの管理及びこれらのリスクに対応した十分な自己資本の維持を図るとともに、内部留保の積み増しにより自己資本の充実に努めています。

(注) 出資金のうち後配出資以外のものを一般出資と呼んでいます。

(1) 連結自己資本の構成に関する事項

(単位：千円)

項目	2023年度	2022年度
コア資本にかかる基礎項目		
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る組合員資本の額	7,928,770	7,759,498
うち、出資金及び資本準備金の額	3,352,126	3,290,211
うち、再評価積立金の額	–	–
うち、利益剰余金の額	4,706,355	4,573,633
うち、外部流出予定額 (△)	△ 129,711	△ 93,382
うち、上記以外に該当するものの額	△ 27,830	△ 10,965
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	30	51
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	30	51
うち、適格引当金コア資本算入額	–	–
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	–	–
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	–	–
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の四十五パーセントに相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	–	–
コア資本にかかる基礎項目の額 (イ)	7,928,801	7,759,550
コア資本にかかる調整項目		
無形固定資産（モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。）の額の合計額	145,799	165,526
うち、のれんに係るものの額	–	–
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	145,799	165,526
繰延税金資産（一時差異に係るものを除く。）の額	–	–
適格引当金不足額	–	–
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	–	–
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	–	–
前払年金費用の額	657,792	526,683
自己保有普通出資等（純資産の部に計上されるものを除く。）の額	–	–
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	–	–
少数出資金融機関等の対象普通出資等の額	–	–
特定項目に係る十パーセント基準超過額	–	–
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに関連するものの額	–	–
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	–	–
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関連するものの額	–	–

(単位：千円)

項目		2023年度	2022年度
コア資本に係る調整項目の額	(口)	803,592	692,209
自己資本			
自己資本の額（（イ）—（口））	（ハ）	7,125,208	7,067,340
リスク・アセット等			
信用リスク・アセットの額の合計額		38,140,628	38,340,487
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額		—	—
うち、他の金融機関等向けエクスポート		—	—
うち、上記以外に該当するものの額		—	—
オペレーション・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額		3,047,955	3,395,335
信用リスク・アセット調整額		—	—
オペレーション・リスク相当額調整額		—	—
リスク・アセット等の額の合計額	（二）	41,188,584	41,735,822
自己資本比率			
自己資本比率（（ハ）／（二））		17.30%	16.93%

- (注) 1. 「農業協同組合等がその経営の健全性を判断するための基準」(2006年金融庁・農水省告示第2号)に基づき算出しています。
2. 当JAは、信用リスク・アセット額の算出にあたっては標準的手法、適格金融資産担保の適用については信用リスク削減手法の簡便手法を、オペレーション・リスク相当額の算出にあたっては基礎的手法を採用しています。
3. 当JAが有するすべての自己資本とリスクを対比して、自己資本比率を計算しています。

(2) 連結自己資本の充実度に関する事項

①信用リスクに対する所要自己資本の額及び区分ごとの内訳

(単位：千円)

信用リスク・アセット	2023年度			2022年度		
	エクスポート ジャヤーの 期末残高	リスク・ アセット額 a	所要自己 資本額 b = a × 4 %	エクスポート ジャヤーの 期末残高	リスク・ アセット額 a	所要自己 資本額 b = a × 4 %
現金	602,637	-	-	655,270	-	-
我が国の中央政府及び中央銀行向け	-	-	-	-	-	-
外国の中央政府及び中央銀行向け	-	-	-	-	-	-
国際決済銀行等向け	-	-	-	-	-	-
我が国の地方公共団体向け	15,976,922	-	-	16,150,792	-	-
外国の中央政府等以外の公共部門向け	-	-	-	-	-	-
国際開発銀行向け	-	-	-	-	-	-
地方公共団体金融機関向け	-	-	-	-	-	-
我が国の政府関係機関向け	-	-	-	-	-	-
地方三公社向け	-	-	-	-	-	-
金融機関及び第一種金融商品取引業者向け	91,530,924	18,306,184	732,247	94,023,428	18,804,685	752,187
法人等向け	731,976	709,842	28,393	743,773	722,418	28,896
中小企業等向け及び個人向け	1,041,526	684,608	27,384	1,120,753	740,045	29,601
抵当権付住宅ローン	305,617	102,813	4,112	389,472	131,092	5,243
不動産取得等事業向け	235,148	229,538	9,181	330,733	320,005	12,800
三月以上延滞等	9,903	12,989	519	9,569	13,171	526
取立未済手形	31,737	6,347	253	9,571	1,914	76
信用保証協会等保証付	6,378,392	630,266	25,210	6,288,884	620,193	24,807
株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	-	-	-	-	-	-
共済約款貸付	-	-	-	-	-	-
出資等	498,982	748,934	29,957	499,932	499,932	19,997
(うち出資等のエクスポート ジャヤー)	498,982	748,934	29,957	499,932	499,932	19,997
(うち重要な出資のエクスポート ジャヤー)	-	-	-	-	-	-
上記以外	10,892,831	16,709,102	668,364	10,656,212	16,487,029	659,481
(うち他の金融機関等の対象資本等調達手段 のうち対象普通出資等及びその他外部T L A C関連調達手段に該当するもの以外のものに 係るエクスポート ジャヤー)	-	-	-	-	-	-
(うち農林中央金庫又は農業協同組合連合会 の対象資本調達手段に係るエクスポート ジャヤー)	3,965,810	9,914,525	396,581	3,965,810	9,914,525	396,581
(うち特定項目のうち調整項目に算入され ない部分に係るエクスポート ジャヤー)	-	-	-	-	-	-
うち総株主等の議決権の百分の十を超える議 決権を保有している他の金融機関等に係るそ の他外部T L A C関連調達手段に関するエク スポート ジャヤー)	-	-	-	-	-	-
(うち総株主等の議決権の百分の十を超える 議決権を保有していない他の金融機関等に係 るその他外部T L A C関連調達手段に係る 5%基準額を上回る部分に係るエクスポート ジャヤー)	-	-	-	-	-	-
(うち上記以外のエクスポート ジャヤー)	6,927,021	6,794,577	271,783	6,690,402	6,572,504	262,900
証券化	-	-	-	-	-	-
(うちS T C要件適用分)	-	-	-	-	-	-
(うち非S T C要件適用分)	-	-	-	-	-	-

(単位：千円)

信用リスク・アセット	2023年度			2022年度		
	エクスポート ジャーの 期末残高	リスク・ アセット額 a	所要自己 資本額 b = a × 4 %	エクスポート ジャーの 期末残高	リスク・ アセット額 a	所要自己 資本額 b = a × 4 %
再証券化	-	-	-	-	-	-
リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポートジャー	-	-	-	-	-	-
(うちルックスルーワイド)	-	-	-	-	-	-
(うちマンデート方式)	-	-	-	-	-	-
(うち蓋然性方式250%)	-	-	-	-	-	-
(うち蓋然性方式400%)	-	-	-	-	-	-
(うちフォールバック方式)	-	-	-	-	-	-
経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるものの額	-	-	-	-	-	-
他の金融機関等の対象資本調達手段に係るエクスポートジャーに係る経過措置によりリスク・アセットの額に算入されなかったものの額(△)	-	-	-	-	-	-
標準的手法を適用するエクスポートジャー別計	128,236,601	38,140,628	1,525,625	130,878,394	38,540,458	1,541,618
CVAリスク相当額÷8%	-	-	-	-	-	-
中央精算機関連エクスポートジャー	-	-	-	-	-	-
合計(信用リスク・アセットの額)	128,236,601	38,140,628	1,525,625	130,878,394	38,540,458	1,541,618
オペレーションナル・リスクに対する所要自己資本の額 <基礎的手法>	オペレーションナル・リスク相当額を8%で除して得た額 a 3,047,955		所要自己資本額 b = a × 4 % 121,918	オペレーションナル・リスク相当額を8%で除して得た額 a 3,395,335		所要自己資本額 b = a × 4 % 135,813
所要自己資本額計	リスク・アセット等(分母)計 a 41,188,584		所要自己資本額 b = a × 4 % 1,647,543	リスク・アセット等(分母)計 a 41,735,822		所要自己資本額 b = a × 4 % 1,669,432

- (注) 1. 「リスク・アセット額」の欄には、信用リスク削減効果適用後のリスク・アセット額を原エクスポートジャーの種類ごとに記載しています。
2. 「エクスポートジャー」とは、リスクにさらされている資産(オフ・バランスを含む)のことをいい、具体的には貸出金や有価証券等が該当します。
3. 「三月以上延滞等」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3カ月以上延滞している債務者に係る債務者に係るエクスポートジャー及び「金融機関向け及び第一種金融商品取引業者向け」、「法人等向け」等においてリスク・ウェイトが150%になったエクスポートジャーのことです。
4. 「出資等」とは、出資等エクスポートジャー、重要な出資のエクスポートジャーが該当します。
5. 「証券化(証券化エクスポートジャー)」とは、原資産にかかる信用リスクを優先劣後構造のある二以上のエクスポートジャーに階層化し、その一部または全部を第三者に移転する性質を有する取引にかかるエクスポートジャーのことです。
6. 「経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるもの」とは、土地再評価差額金に係る経過措置によるリスク・アセットの額および調整項目にかかる経過措置によりなお従前の例によるものとしてリスク・アセットの額に算入したものが該当します。
7. 「上記以外」には、未決済取引・その他の資産(固定資産等)・間接清算参加者向け・信用リスク削減手法として用いる保証またはクレジットデリバティブの免責額が含まれます。
8. オペレーションナル・リスク相当額の算出にあたって、当JAでは基礎的手法を採用しています。
 <オペレーションナル・リスク相当額を8%で除して得た額の算出方法(基礎的手法)>

(粗利益(正の値の場合に限る)×15%)の直近3年間の合計額

_____ ÷ 8 %

直近3年間のうち粗利益が正の値であった年数

(3) 信用リスクに関する事項

①標準的手法に関する事項

当JAでは自己資本比率算出にかかる信用リスク・アセット額は告示に定める標準的手法により算出しています。

また、信用リスク・アセットの算出にあたって、リスク・ウェイトの判定に当たり使用する格付等は、次のとおりです。

①リスク・ウェイトの判定に当たり使用する格付けは、以下の適格格付機関による依頼格付けのみ使用し、非依頼格付は使用しないこととしています。

適格格付機関
株式会社格付投資情報センター（R&I）
株式会社日本格付研究所（JCR）
ムーディーズ・インベスタートス・サービス・インク（Moody's）
S&Pグローバル・レーティング（S&P）
フィッチレーティングスリミテッド（Fitch）

(注) 「リスク・ウェイト」とは、当該資産を保有するために必要な自己資本額を算出するための掛のことです。

②リスク・ウェイトの判定に当たり使用する適格格付機関の格付またはカントリーリスク・スコアは、主に以下のとおりです。

エクスポート	適格格付機関	カントリー・リスク・スコア
金融機関向け エクスポート		日本貿易保険
法人等向け エクスポート（長期）	R&I、Moody's、 JCR、S&P、Fitch	
法人等向け エクスポート（短期）	R&I、Moody's、 JCR、S&P、Fitch	

②信用リスクに関するエクスポート（地域別、業種別、残存期間別）及び三月以上延滞エクスポートの期末残高
(単位：千円)

	信用リスクに関するエクスポートの残高	2023年度				2022年度			
		うち 貸出金等		うち 債券		三月以上延滞エクスポート	信用リスクに関するエクスポートの残高		三月以上延滞エクスポート
		うち 貸出金等	うち 債券	うち 貸出金等	うち 債券		うち 貸出金等	うち 債券	
国内	128,236,601	30,589,937	10,036	9,903	130,878,394	29,345,782	-	9,569	
国外	-	-	-	-	-	-	-	-	-
地域別残高計	128,236,601	30,589,937	10,036	9,903	130,878,394	29,345,782	-	9,569	

(単位：千円)

		2023年度				2022年度			
		信用リスクに 関するエクス ポージャーの 残高			三月以上 延滞エク スポート ジヤー	信用リスクに 関するエクス ポージャーの 残高			三月以上 延滞エク スポート ジヤー
			うち 貸出金等	うち 債券			うち 貸出金等	うち 債券	
法 人	農業	133,741	133,741	-	-	79,206	79,206	-	-
	林業	-	-	-	-	-	-	-	-
	水産業	-	-	-	-	-	-	-	-
	製造業	479,354	479,354	-	-	350,604	350,604	-	-
	鉱業	-	-	-	-	-	-	-	-
	建設・不動産業	279,963	279,963	-	-	297,988	297,988	-	-
	電気・ガス・熱 供給・水道業	-	-	-	-	-	-	-	-
	運輸・通信業	-	-	-	-	-	-	-	-
	金融・保険業	95,262,155	3,512,246	-	-	96,732,777	2,505,716	-	-
	卸売・小売・飲 食・サービス業	250,394	250,394	-	-	60,519	60,519	-	-
	日本国政府 ・地方公共団体	10,684,376	10,674,339	10,036	-	10,757,250	10,757,250	-	-
	その他	10,182,752	5,390,481	-	-	10,252,233	5,496,263	-	-
	個人	9,860,202	9,860,202	-	9,903	9,785,466	9,785,466	-	9,569
	その他	1,103,662	9,214	-	-	2,562,347	12,766	-	-
業種別残高計		128,236,601	30,589,937	10,036	9,903	130,878,394	29,345,782	-	9,569
1年以下		88,610,360	584,957	-	-	90,847,966	325,753	-	-
1年超3年以下		956,944	956,944	-	-	1,209,349	1,209,349	-	-
3年超5年以下		1,365,417	1,365,417	-	-	1,442,784	1,442,784	-	-
5年超7年以下		3,347,047	3,347,047	-	-	2,478,335	2,478,335	-	-
7年超10年以下		3,874,221	3,864,184	10,036	-	4,230,999	4,230,999	-	-
10年超		23,826,814	20,056,520	-	-	23,207,524	19,471,022	-	-
期限の定めのないもの		6,255,795	414,865	-	-	7,461,435	187,537	-	-
残存期間別残高計		128,236,601	30,589,937	10,036	-	130,878,394	29,345,782	-	-
平均残高計		131,120,797	29,628,147	4,672	-	131,792,835	29,262,762	-	-

- (注) 1. 信用リスクに関するエクスポートジヤーの残高には、資産（自己資本控除となるもの、証券化エクスポートジヤーに該当するもの、リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポートジヤーに該当するもの、証券化エクスポートジヤーに該当するものを除く）並びにオフ・バランス取引及び派生商品取引の与信相当額を含みます。
2. 「貸出金等」とは、貸出金のほか、コミットメント及びその他のデリバティブ以外のオフ・バランスシート・エクスポートジヤーを含んでいます。「コミットメント」とは、契約した期間及び融資枠の範囲でお客様のご請求に基づき、金融機関が融資を実行する契約のことをいいます。「貸出金等」にはコミットメントの融資可能残額も含めています。
3. 「三月以上延滞エクスポートジヤー」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3カ月以上延滞しているエクスポートジヤーをいいます。
4. 「その他」には、ファンドのうち個々の資産の把握が困難な資産や固定資産等が該当します。

③貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額

(単位：千円)

	2023年度				2022年度					
	期首 残高	期中 増加額	期中減少額		期末残高	期首 残高	期中 増加額	期中減少額		
			目的使用	その他				目的使用		
一般貸倒引当金	51	30	-	51	30	52	51	-	52	
個別貸倒引当金	66,114	25,771	- 18,037	73,848	72,334	18,037	- 24,257	66,114		

④業種別の個別貸倒引当金の期末残高・期中増減額及び貸出金償却の額 (単位:千円)

		2023年度						2022年度					
		期首 残高	期中 増加額	期中減少額		期末 残高	貸出金 償却	期首 残高	期中 増加額	期中減少額		期末 残高	貸出金 償却
国内		66,114	25,771	-	18,037	73,848	-	72,334	18,037	-	24,257	66,114	-
国外		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
地域別計		66,114	25,771	-	18,037	73,848	-	72,334	18,037	-	24,257	66,114	-
法人	農業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	林業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	水産業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	製造業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	鉱業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	建設	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	不動産業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	電気・ガス・熱供給・水道業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	運輸・通信業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	金融・保険業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	卸売・小売・飲食・サービス業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	上記以外	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	個人	66,114	25,771	-	18,037	73,848	-	72,334	18,037	-	24,257	66,114	-
業種別計		66,114	25,771	-	18,037	73,848	-	72,334	18,037	-	24,257	66,114	-

⑤信用リスク削減効果勘案後の残高及びリスク・ウェイト1250%を適用する残高

(単位:千円)

		2023年度			2022年度		
		格付あり	格付なし	計	格付あり	格付なし	計
信用リスク削減効果勘案後残高	リスク・ウェイト0%	-	16,883,456	16,883,456	-	17,126,626	17,126,626
	リスク・ウェイト2%	-	-	-	-	-	-
	リスク・ウェイト4%	-	-	-	-	-	-
	リスク・ウェイト10%	-	6,302,658	6,302,658	-	6,201,925	6,201,925
	リスク・ウェイト20%	-	91,562,662	91,562,662	-	94,033,000	94,033,000
	リスク・ウェイト35%	-	293,754	293,754	-	375,543	375,543
	リスク・ウェイト50%	-	-	-	-	-	-
	リスク・ウェイト75%	-	913,658	913,658	-	987,649	987,649
	リスク・ウェイト100%	-	8,305,920	8,305,920	-	8,178,268	8,178,268
	リスク・ウェイト150%	-	8,680	8,680	-	9,569	9,569
	リスク・ウェイト250%	-	3,965,810	3,965,810	-	3,965,810	3,965,810
	その他	-	-	-	-	-	-
	リスク・ウェイト1250%	-	-	-	-	-	-
計		-	128,236,601	128,236,601	-	130,878,394	130,878,394

- (注) 1. 信用リスクに関するエクスポージャーの残高には、資産（自己資本控除となるもの、リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャーに該当するもの、証券化エクスポージャーに該当するものを除く）並びにオフ・バランス取引及び派生商品取引の与信相当額を含みます。
2. 「格付あり」にはエクスポージャーのリスク・ウェイト判定において格付を使用しているもの、「格付なし」にはエクスポージャーのリスク・ウェイト判定において格付を使用していないものを記載しています。なお格付は適格格付機関による依頼格付のみ使用しています。
3. 経過措置によってリスク・ウェイトを変更したエクスポージャーについては、経過措置適用後のリスク・ウェイトによって集計しています。また、経過措置によってリスク・アセットを算入したものについても集計の対象としています。
4. 1250%には、非同時決済取引に係るもの、信用リスク削減手法として用いる保証又はクレジット・デリバティの免責額に係るもの、重要な出資に係るエクスポージャーなどリスク・ウェイト1250%を適用したエクスポージャーがあります。

(4) 信用リスク削減手法に関する事項

①信用リスク削減手法に関するリスク管理の方針及び手続の概要

連結自己資本比率の算出にあって、信用リスク削減手法を「自己資本比率算出規程」において定めています。信用リスク削減手法の適用及び管理方針、手続は、JAのリスク管理の方針及び手続に乗じて行っています。JAのリスク管理の方針及び手続の具体的な内容は、単体の開示内容(P. 12)をご参照ください。

②信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャーの額

(単位：千円)

区分	2023年度		2022年度	
	適格金融資産担保	保証	適格金融資産担保	保証
地方公共団体金融機関向け	-	-	-	-
我が国の政府関係機関向け	-	-	-	-
地方三公社向け	-	-	-	-
金融機関向け及び第一種金融商品取引業者向け	-	-	-	-
法人等向け	-	-	-	-
中小企業等向け及び個人向け	-	-	2,000	-
抵当権住宅ローン	-	-	-	-
不動産取得等事業向け	-	-	-	-
三月以上延滞等	-	-	-	-
証券化	-	-	-	-
中央精算機関関連	-	-	-	-
上記以外	-	-	-	-
合計	-	-	2,000	-

- (注) 1. 「エクスポージャー」とは、リスクにさらされている資産（オフ・バランスを含む）のことをいい、主なものとしては貸出金や有価証券等が該当します。
2. 「三月以上延滞等」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3ヶ月以上延滞している債務者に係るエクスポージャー及び「金融機関向け及び第一種金融商品取引業者向け」、「法人等向け」等においてリスク・ウェイトが150%になったエクスポージャーのことです。
3. 「証券化（証券化工エクスポージャー）」とは、原資産にかかる信用リスクを優先劣後構造のある二以上のエクスポージャーに階層化し、その一部または全部を第三者に移転する性質を有する取引にかかるエクスポージャーのことです。
4. 「上記以外」には、現金・外国の中央政府及び中央銀行向け・国際決済銀行等向け・外国の中央政府等以外の公共部門向け・国際開発銀行向け・取立未済手形・未決済取引・その他の資産（固定資産等）が含まれます。

(5) 派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項

該当する取引はありません。

(6) 証券化工エクスポージャーに関する事項

該当する取引はありません。

(7) オペレーションル・リスクに関する事項

①オペレーションル・リスクに関するリスク管理の方針及び手続の概要

連結グループにかかるオペレーションル・リスク管理は、子会社においてはJAのリスク管理及びその手続に準じたリスク管理を行っています。JAのリスク管理の方針及び手続等の具体的な内容は、単体の開示内容(P. 12)をご参照ください。

(8) オペレーション・リスクに関する事項

①出資等エクスポージャーに関するリスク管理の方針及び手続の概要

連結グループにかかる出資その他これに類するエクスポージャーに関するリスク管理は、子会社においてはJAのリスク管理及びその手続きに準じたリスク管理を行っています。

JAのリスク管理の方針及び手続等の具体的な内容は、単体の開示内容（P. 69）をご参照ください。

②出資その他これに類するエクスポージャーの連結貸借対照表計上額及び時価（単位：千円）

	2023年度		2022年度	
	貸借対照表計上額	時価評価額	貸借対照表計上額	時価評価額
上 場	-	-	-	-
非 上 場	4,464,792	4,464,792	4,465,742	4,465,742
合 計	4,464,792	4,464,792	4,465,742	4,465,742

③出資その他これに類するエクスポージャーの売却及び償却に伴う損益（単位：千円）

2023年度			2022年度		
売却益	売却損	償却額	売却益	売却損	償却額
-	-	-	-	-	-

④連結貸借対照表で認識され、連結損益計算書で認識されない評価損益の額（保有目的区分をその他有価証券としている株式・出資の評価損益等）（単位：千円）

2023年度		2022年度	
評価益	評価損	評価益	評価損
-	-	-	-

（注）「時価評価額」は、時価のあるものは時価、時価のないものは連結貸借対照表計上額の合計額です。

⑤連結貸借対照表及び連結損益計算書で認識されない評価損益の額（子会社・関連会社株式の評価損益等）（単位：千円）

2023年度		2022年度	
評価益	評価損	評価益	評価損
-	-	-	-

(9) リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャーに関する事項

（単位：千円）

	2023年度	2022年度
ルックスルーア方式を適用するエクスポージャー	-	-
マンデート方式を適用するエクスポージャー	-	-
蓋然性方式（250%）を適用するエクスポージャー	-	-
蓋然性方式（400%）を適用するエクスポージャー	-	-
フォールバック方式（1250%）を適用するエクスポージャー	-	-

(10) 金利リスクに関する事項

①金利リスクの算定手法の概要

連結グループの金利リスクの算定方法は、JAの金利リスクの算定方法に準じた方法により行っています。

JAの金利リスクの算定方法は、単体の開示内容（P.69）をご参照ください。

②金利リスクに関する事項

IRRBB 1 : 金利リスク					
項番		△EVE		△NII	
		当期末	前期末	当期末	前期末
1	上方パラレルシフト	1,391	1,442	-	-
2	下方パラレルシフト	-	-	21	7
3	ステイープ化	1,572	1,636		
4	フラット化	-	-		
5	短期金利上昇	-	-		
6	短期金利低下	64	-		
7	最大値	1,572	1,636	21	7
		当期末		前期末	
8	自己資本の額			6,975	

3. 財務諸表の正確性等にかかる確認

確 認 書 (謄 本)

- 1 私は、当JAの2023年4月1日から2024年3月31日までの事業年度にかかるディスクロージャー誌に記載した内容のうち、財務諸表作成に関するすべての重要な点において、農業協同組合法施行規則に基づき適正に表示されていることを確認いたしました。
- 2 この確認を行うに当たり、財務諸表が適正に作成される以下の体制が整備され、有効に機能していることを確認しております。
 - (1) 業務分掌と所管部署が明確化され、各部署が適切に業務を遂行する体制が整備されております。
 - (2) 業務の実施部署から独立した内部監査部門が内部管理体制の適切性・有効性を検証しており、重要な事項については理事会等に適切に報告されております。
 - (3) 重要な経営情報については、理事会等へ適切に付議・報告されております。

2024年7月1日

越前たけふ農業協同組合

代表理事組合長 土本 俊三

役員等の報酬体系

1. 役員

(1) 対象役員

開示の対象となる報酬告示に規定されている「対象役員」は、理事及び監事をいいます。

(2) 役員報酬等の種類、支払総額及び支払方法について

役員に対する報酬等の種類は、基本報酬のみで、2023年度における対象役員に対する報酬等の支払総額は、次のとおりです。

なお、基本報酬は毎月所定日に指定口座への振り込みの方法による支給のみです。

(単位：千円)

	支給総額
	基本報酬
対象役員（注1）に対する報酬等	44,629

(注1) 対象役員は、理事18名、監事4名です。

(3) 対象役員の報酬等の決定等について

◇ 役員報酬（基本報酬）

役員報酬は、理事及び監事の別に各役員に支給する報酬総額の最高限度額を総代会において決定しその範囲内において、昨年度の支給実績及び事業実績、経済情勢の変化等を検討し各理事の報酬額・支給方法については理事会において、また各監事の報酬額・支給方法については監事会の協議によって定めています。

2. 職員等

(1) 対象職員等

開示の対象となる報酬告示に規定されている「対象職員等」の範囲は、当JAの職員及び当JAの主要な連結子法人等の役職員であって、常勤役員が受ける報酬等と同等額以上の報酬等を受けるもののうち、当JAの業務及び財産の状況に重要な影響を与える者をいいます。

なお、2023年度において、対象職員等に該当するものはいませんでした。

(注1) 対象職員等には、期中に退任・退職した者も含めています。

(注2) 「主要な連結子法人等」とは、当JAの連結子法人等のうち、当JAの連結総資産に対して2%以上の資産を有する会社等をいいます。

(注3) 「同等額」は、2023年度に当JAの常勤役員に支払った報酬額等の平均額としています。

(注4) 2023年度において当JAの常勤役員が受ける報酬等と同等額以上の報酬等を受ける者はいませんでした。

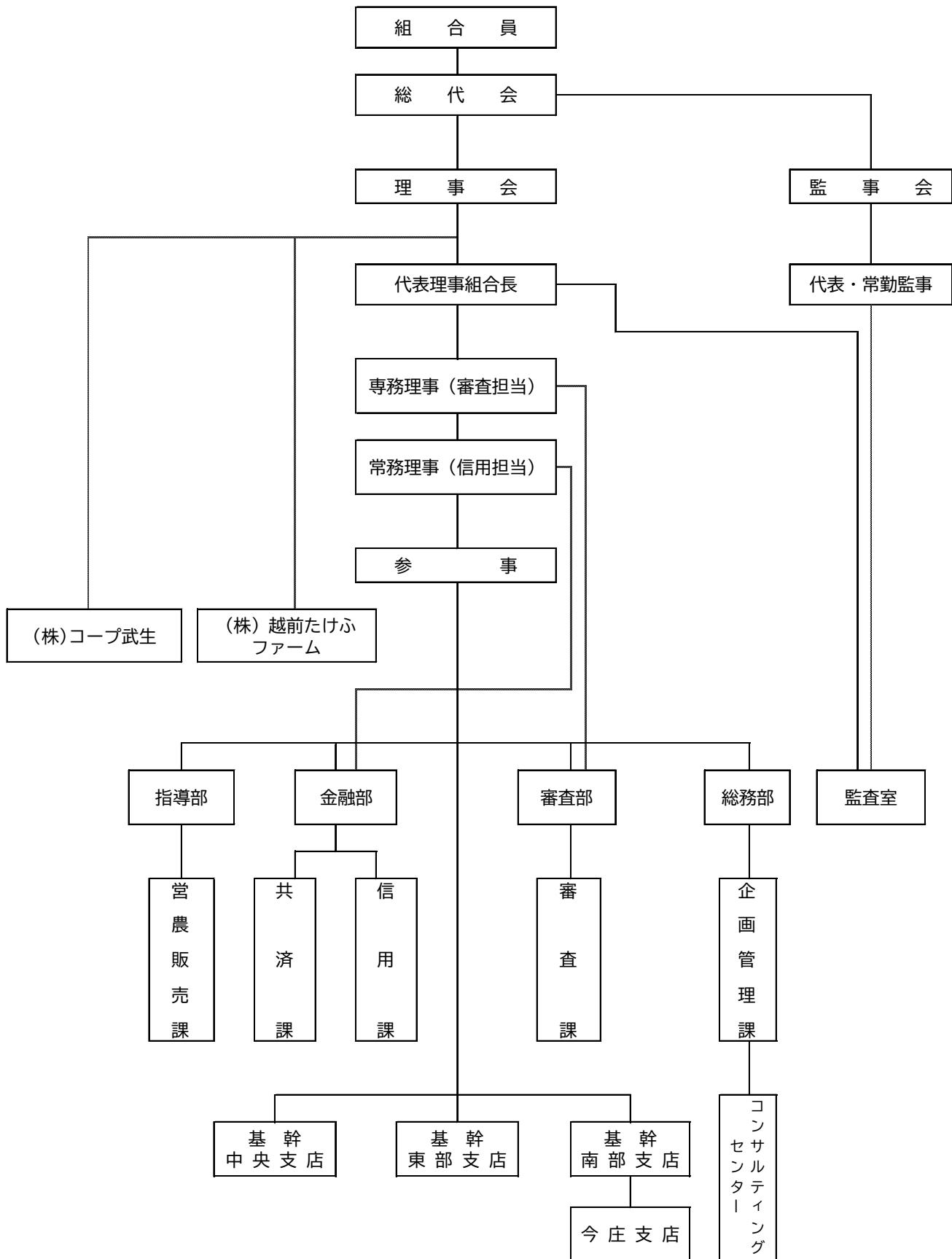
3. その他

当JAの対象役員及び対象職員等の報酬等の体系は、上記開示のとおり過度なリスクテークを惹起するおそれのある要素はありません。したがって、報酬告示のうち、「対象役員及び対象職員等の報酬等の体系とリスク管理の整合性並びに対象役員及び対象職員等報酬等と業績の連動に関する事項」その他「報酬等の体系に関し参考となるべき事項」として、記載する内容はありません。

J Aの概要

1. 機構図

2024年4月1日現在



2. 役員構成（役員一覧）

2024年3月31日現在

区分			氏名		就任年月日	任期満了年月	摘要
役職名	常勤・非常勤	代表権の有無					
代表理事組合長	常勤	有	土本	俊三	2022.3.27	2024.6	
専務理事	常勤	無	山西	実	2022.3.27	2024.6	審査・コンプライアンス担当理事
常務理事	常勤	無	岩田	良司	2022.3.27	2024.6	信用担当理事
理事	非常勤	無	丸岡	幸生	2022.3.27	2024.6	
理事	非常勤	無	山岡	登志男	2022.3.27	2024.6	
理事	非常勤	無	北野	弦雄	2022.3.27	2024.6	
理事	非常勤	無	大塚	与四郎	2022.3.27	2024.6	
理事	非常勤	無	上嶋	善一	2022.3.27	2024.6	2023年6月7日死亡により退任
理事	非常勤	無	赤澤	健一	2022.3.27	2024.6	
理事	非常勤	無	井坂	博	2022.3.27	2024.6	
理事	非常勤	無	森下	禎一	2022.3.27	2024.6	
理事	非常勤	無	斎藤	隆男	2022.3.27	2024.6	
理事	非常勤	無	小柳	忠敬	2022.3.27	2024.6	
理事	非常勤	無	土井内	幸男	2022.3.27	2024.6	
理事	非常勤	無	片岡	重信	2022.3.27	2024.6	
理事	非常勤	無	藤井	信夫	2022.3.27	2024.6	
理事	非常勤	無	片山	伸一	2022.3.27	2024.6	
理事	非常勤	無	今村	三郎	2022.3.27	2024.6	
代表監事	常勤		塚崎	宏行	2022.3.27	2024.6	
監事	非常勤		嶋田	宣行	2022.3.27	2024.6	
監事	非常勤		玉村	健二	2022.3.27	2024.6	
監事	非常勤		出倉	裕	2022.3.27	2024.6	員外監事

3. 会計監査人の名称

みのり監査法人 (2024年3月現在) 東京都港区芝5-29-11 G-BASE田町

4. 組合員数

(単位:人、団体)

区分	2023年度	2022年度	増減
正組合員	4,934	4,983	△ 49
個人	4,872	4,923	△ 51
法人	62	60	2
准組合員	5,575	5,625	△ 50
個人	5,464	5,512	△ 48
法人	111	113	△ 2
合計	10,509	10,608	△ 99

5. 組合員組織の状況

組織名	構成員数	組織名	構成員数
越前市武生地区営農協議会	16組織	J A越前たけふ女性部	495名
南越前町営農推進協議会	16組織		

6. 特定信用事業代理業者・共済代理店の状況

区分	氏名又は名称 (商号)	主たる事務所 の所在地	代理業を営む営業所 又は事業所の所在地
特定信用事業代理業者	該当なし		
共済代理店	ガレージ高木	越前市北府1丁目2-11	同左
〃	モーターリングうえき(株)	〃 八幡1丁目95-11	〃
〃	(有)東陽モータース	〃 矢放町18-2-4	〃
〃	島田自動車工業	〃 米口町18-3-7	〃
〃	(株)K Yモータース	〃 安養寺町89-26	〃
〃	(株)カーショップ宇野商事	〃 葛岡町7-7-1	〃
〃	酒井輪業	〃 新保1丁目5-10	〃
〃	オートランドウエジマ	〃 新町9-4-2	〃
〃	ハシモトモータース(株)	南越前町東大道29-4-3	〃
〃	南条自動車	〃 関ヶ鼻5-6	〃
〃	(株)川端モータース	〃 湯尾19-10-1	〃
〃	ノザキモーター	越前市四郎丸町59-4	〃
〃	山口モータース商会	〃 矢放町20-1-1	〃
〃	谷口自動車	〃 宮谷町57-27-1	〃
〃	モーターガレージブトウ	〃 府中3丁目6-21	〃
〃	(株)ファミリー	〃 家久町54-1-1	〃
〃	セイフティートータル	〃 武生柳町8-18	〃
〃	ホンマオート	〃 塚町50-22-1	〃
〃	オートパル武生	〃 平出2丁目1-5	〃

7. 地区一覧

当JAの地区は、越前市、南越前町の区域です。

8. 沿革・あゆみ

1996年1月	南条地区4農協が合併し、越前たけふ農業協同組合が発足
7月	王子保給油所移転オープン
1997年3月	今庄育苗センター完成 東部基地造成工事完了 H鋼ハウス（複合営農支援施設関連）完成
11月	高瀬給油所オープン
12月	営農センター（複合営農支援施設）完成
1998年5月	コープ平出店改装オープン 第1回JAフェア（菊人形会場）開催
1999年5月	良質米出荷施設完成
9月	王子保給油所新装オープン
12月	国高給油所オープン
2000年4月	財団法人越前たけふ農業公社設立
2002年8月	コープ南条店改装オープン
9月	南条支店竣工式
2003年3月	全国オンラインシステム「JASTEM」稼動
12月	J Aたけふ翠光苑オープン
2005年3月	経営管理委員会制度導入
10月	「農・食・遊」みのり祭開催
10月	J A酒販竣工式
2006年7月	基幹支店体制スタート
11月	基幹中央支店落成式
11月	新今庄育苗施設落成式
12月	基幹東部支店起工式
2007年4月	基幹東部支店竣工式
2007年12月	基幹東部支店倉庫兼ホームセンター起工式
2008年5月	J Aみどり館竣工式 6月 「農・食・遊」ふれあい祭開催
2009年8月	えちぜん翠光苑オープン
2010年4月	ローンセンター開設
2011年1月	全国オンラインシステム「新JASTEM」稼動
2012年8月	コープたけふみどり館オープン
2013年1月	経済事業を(株)コープ武生へ譲渡 新体制スタート
2014年9月	東部地区配送センターオープン
2016年1月	越前たけふ農業協同組合 合併20周年
2017年9月	国高第2低温倉庫竣工式 10月 移動店舗「しきぶちゃん号」運行
2019年1月	J A越前たけふ水稻育苗施設起工式
8月	J A越前たけふ水稻育苗施設竣工式
2020年1月	(株)越前たけふファーム設立
3月	コンサルティングセンター開所式
2021年6月	北陸新幹線「越前たけふ」駅名決定に伴う合併25周年記念クーポン発行
2022年1月	「ふくいSDGsパートナー」登録
3月	12月末から3月末へ決算期変更
2023年11月	コープたけふみどり館リニューアルオープン

9. 店舗等のご案内

店舗及び事務所名	住 所	電話番号	A T M (現金自動化機器) 設置・稼働状況
本店	越前市本多二丁目10-22	22-1111	A T M 1台
基幹中央支店	〃 平出二丁目2-33	23-3100	A T M 2台
基幹東部支店	〃 塚町56-22-1	25-7777	A T M 2台
基幹南部支店	南越前町東大道28-4-6	47-7777	A T M 2台
今庄支店	南越前町今庄9-13	45-7777	A T M 1台
コンサルティングセンター	越前市平出二丁目104	22-2222	
営農センター	〃 平出二丁目2-33	23-3100	
コープ武生本社	越前市平出二丁目1-10	22-3333	
コープたけふ平出店	〃 平出二丁目1-10	22-3333	
コープたけふ南条店	南越前町東大道28-4-6	47-3036	
コープたけふ外販センター	越前市平出二丁目1-5	23-8784	
ファーマーズマーケットみどり館	〃 塚町10-17-1	24-1717	A T M 1台
酒類配送センター	〃 平出二丁目129	21-5600	
池ノ上総合配送センター	越前市池ノ上町47-8-1	24-3377	
オートパル武生	〃 平出2丁目1-5	21-2615	
農機サービスセンター	南越前町東大道19-57	47-3788	
平出給油所	越前市平出1丁目10-26	21-2519	
南条給油所 (セルフ)	南越前町東大道19-57	47-3035	
今庄給油所	〃 今庄10-11	45-0294	
越前たけふファーム	越前市本多二丁目10-22	21-2608	
水稻育苗施設	〃 帆山町6-23	21-3166	
良質米出荷施設	〃 池ノ上町91-9-9	25-6789	
東部カントリー	〃 西尾町62-49	27-2207	
中央カントリー	〃 矢船町21-1	22-6318	
南条カントリー	南越前町東大道6-19	47-3885	
J Aたけふ翠光苑	越前市本多二丁目9-13	22-4444	
えちぜん翠光苑	〃 塚町28-38	23-1212	

(店舗外A T M設置台数 8台)

2024年3月31日現在



<http://www.ja-echizentakefu.or.jp/>

